

平成26年度 文部科学省委託事業
成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての
動物看護師養成プログラムの開発と検証
(職域プロジェクト)

実績報告書

【臨床系科目検証】

【コミュニケーション系科目検証】

平成27年2月

学校法人 宮崎学園
大阪ペピイ動物看護専門学校

平成 26 年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」
獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての
動物看護師養成プログラムの開発と検証

実績報告書

目次

第 1 編 事業計画及び事業実施内容

1. 事業概要	1
2. 事業の意義・必要性	1
3. 事業実施内容	2
3. 1. 職域プロジェクトの構成員・構成機関等	2
3. 2. 事業の実施体制	4
3. 3. 事業実施スケジュール概要	4
3. 4. 指導者講習	5
3. 5. カリキュラムの開発	5
3. 6. 実証講座	6
3. 7. 女性の学び直しに対応した取組	6
4. 事業の成果	7
4. 1. 指導者講習について	7
4. 1. 1. 指導者講習の実施実績	7
4. 1. 2. 指導者講習開催地域による特異性	8
4. 2. カリキュラムの開発について	9
4. 3. 実証講座について	10
4. 4. 女性の学び直しに対応した取組（託児サービスの提供）について	11
5. 事業終了後の成果の活用について	12
6. 今後の課題について	12

第2編 事業実施記録

1. 臨床系科目検証WG	15
1. 1. 指導者講習	15
1. 1. 1. 指導者講習の実施実績	15
1. 1. 2. 指導者講習の実施資料	17
1. 1. 3. 指導者講習の実施記録	38
1. 2. カリキュラムの開発について	40
1. 2. 1. コマシラバスの作成	40
1. 3. 実証講座について	57
1. 3. 1. 実証講座の実施実績	57
1. 3. 2. 実証講座の実施記録	58
2. コミュニケーション系科目検証WG	60
2. 1. 指導者講習	60
2. 1. 1. 指導者講習の実施実績	60
2. 1. 2. 指導者講習の実施資料	60
2. 1. 3. 指導者講習の実施記録	76
2. 2. カリキュラムの開発について	78
2. 2. 1. コマシラバスの作成	78
2. 3. 実証講座について	89
2. 3. 1. 実証講座の実施実績	89
2. 3. 2. 実証講座の実施記録	89
3. 受講者アンケート結果	91
4. 受講者アンケートの分析	144
5. 評価者の意見	167
6. カリキュラムの評価	180

第3編 テキストおよび資料（別冊）

1. 動物看護学
2. 動物栄養学
3. 院内コミュニケーション

第1編 事業計画及び事業実施内容

1. 事業概要

新しい成長分野である「獣医療体制分野」において、ニーズの変化に対応できる中核的専門人材の養成に取り組む。本事業では、特に、関係機関・団体が中心となってこれまで取組を進めてきた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を利活用し、チーム動物医療に対応できる動物看護師（中核的専門人材）の養成に役立つカリキュラムを開発し、実証講座により検証することを目的とする。さらに、動物病院や、企業・団体等での利用促進のために、社会人を対象とした学習ユニットの開発と評価指標の策定に取り組む。

2. 事業の意義・必要性

ペット産業の市場規模は、『ペットビジネスハンドブック』（産経新聞メディックス）の2011年版によれば、ペットフードが4,713億円、ペット用品が1,812億円、関連業界（病院・トリマー・ペットホテル・葬祭など）が5,620億円となり、合計で1兆2,145億円に上る。ペット産業を取り巻く環境は、国内景気の低迷期であった昨年までであっても微弱ながら右肩上がりです。ペットの存在価値も愛玩動物から家族の一員となり、獣医療をはじめとして飼い主は家族の一員となった動物に施されるサービスは人間と同様の価値を求めようになって来た。さらに獣医療の向上や高品質のペットフードが充足される今、ペットの高齢化が進行しており、それに伴って保険や介護用品、葬儀などの関連市場も拡大している。こうしたニーズの変化に対応する取り組みとして、2013年度よりそれまで複数の民間資格であった動物看護師の資格認定が全国統一の資格となっている。その動物看護師を養成する教育も2013年に高位平準化を目指した全国共通コアカリキュラムとして構築され、2014年度生より多くの動物看護師養成専門学校においてコアカリキュラム教育が始まった。

本事業では、構築された動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを実証し教育の精度向上を目指す。また、地域による特異性を実証講座より検証し、地域の特性を生かしたカリキュラムの充実に繋げる。また、コアカリキュラムを履修していない現動物看護師達の学び直しにも役立てられるように実証講座で検証する。動物看護師の養成は40年強の歴史があり、その多くが女性であることから結婚出産を機に離職している者も多い。子育てが一段落した者の復帰にも役立てられるように実証講座では保育環境も整える。このように学生のみならず、既に動物病院等の現場で活躍している社会人、復帰を目指す者に対しても再教育の場として訴求することを目指しているものであり、その意義は大きいと考えている。

これまで動物看護師に相当する民間資格が複数存在し、それぞれの資格で認定される能力・要件が異なっていたため、業界内での評価を高めることができず、結果として動物看護師という仕事に対するモチベーションの低下につながってしまっていた。動物看護師の資格を統一化することにより、こうした状況を打破し、中核的専門人材としての役割を明確化することができると考えられる。本事業に参加していただく方々は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの実証講座を行うことは、動物看護師養成の高位平準化を達成させる上でも、また獣医療体制の高度化を図る上でも意義深い。

3. 事業実施内容

3. 1. 職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	総括	大阪
2	学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校	研究開発	東京
3	学校法人 穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ	研究開発	香川
4	学校法人 日本環境科学学院 専門学校アニマルインターカレッジ	研究開発	宮城
5	学校法人 有坂中央学園	調査・研究	群馬
6	全日本獣医師協同組合	研究開発	東京
7	株式会社 ファームプレス	研究開発	東京
8	株式会社緑書房	調査・研究	東京

(2) 協力者等（委員など個人で本事業に参画する者等）

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
酒井 健夫	日本大学	研究開発	東京
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学	研究開発	東京
細井戸 大成	公益社団法人 日本動物病院協会	調査・研究	大阪
澤田 勉	公益社団法人 大阪府獣医師会	研究開発	大阪

(3) 下部組織

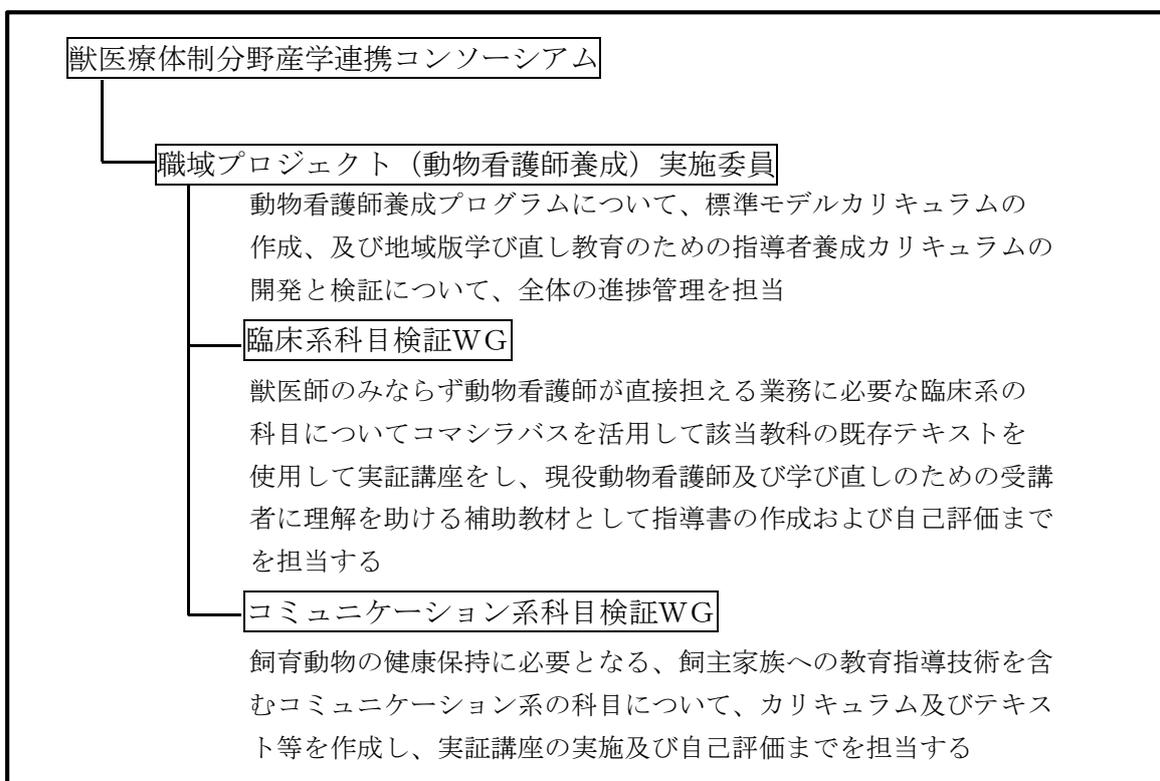
臨床系科目検証WG

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
山下 真理子	国際動物専門学校	カリキュラム開発 講師	東京
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学	カリキュラム開発 講師	東京
荻谷 直子	大阪ペピイ動物看護専門学校	カリキュラム開発 講師	大阪
千葉 江梨子	アニマルインターカレッジ	カリキュラム開発 講師	宮城

コミュニケーション系科目検証WG

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
石橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校	カリキュラム開発 講師	大阪
栗栖 奈津美	大阪ペピイ動物看護専門学校	カリキュラム開発 講師	大阪
荒岡 杉	専門学校穴吹動物看護カレッジ	カリキュラム開発 講師	香川
小西 恭一	全日本獣医師協同組合	カリキュラム開発 評価検証	大阪
山下 真理子	国際動物専門学校	カリキュラム開発 講師	東京

3. 2. 事業の実施体制



3. 3. 事業実施スケジュール概要

工程	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
動物看護師養成職域プロジェクト 実施委員会	●		●		●		
臨床系科目検証 WG	←—————→						
コミュニケーション系科目検証 WG	←—————→						
【指導者講習】							
臨床系科目実証授業	●	●	●				
コミュニケーション系科目実証授業		●	●				
【カリキュラムの開発】							
臨床系科目実証授業		●	●				
コミュニケーション系科目実証授業			●	●			
成果報告						●	

3. 4. 指導者講習

(1) 臨床動物看護学

【目的】昨年度事業にて実証講座を開催した科目について、動物看護教員に対する指導者講習を実施し、複数都市で開催することにより、地域による特異性を実証講座により検証し、地域の特性を生かしたカリキュラムの充実に繋げることを目的とした。

【対象・規模】動物看護教員等を対象に、大阪・東京・仙台・札幌の4カ所において、各6時間の指導者講習（実証講座）を実施。

【実施体制】臨床系科目検証WGが担当。

(2) クライアントエデュケーション

【目的】昨年度事業にて実証講座を開催した科目について、動物看護教員に対する指導者講習を実施し、複数都市で開催することにより、地域による特異性を実証講座により検証し、地域の特性を生かしたカリキュラムの充実に繋げることを目的とした。

【対象・規模】動物看護教員等を対象に、大阪・高松の2カ所において、各6時間の指導者講習（実証講座）を実施。

【実施体制】コミュニケーション系科目検証WGが担当。

3. 5. カリキュラムの開発

(1) 動物看護学・動物栄養学の開発

【目的】「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を有効に活用するために、臨床系科目（2科目）についてコマシラバス、授業シート、授業カルテ等に基づいたテキストを作成し、検証する。また、全国の専門学校等で使用されるモデルカリキュラムを開発し、検証することを目的とした。

【規模】「動物看護学」・「動物栄養学」について、各15時間相当の講座を想定したテキストを作成。授業は既存テキストを活用し展開するが、受講者の理解を深めるための補助教材としてテキストを作成。

【実施方法】受講者に指定した既存テキストと、内容の理解を深めるために作成した補助教材を使用して実証講座を行い、WG委員による評価・検証を実施。

(2) 院内コミュニケーションの開発

【目的】「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を有効に活用するために、コミュニケーション系科目（1科目）についてコマシラバス、授業シート、授業カルテ等に基づいたテキストを作成し、検証する。また、全国の専門学校等で使用されるモデルカリキュラムを開発し、検証することを目的とした。

【規模】「院内コミュニケーション」について15時間当の講座を想定したテキストを作成。

【実施方法】作成したテキストを使用して実証講座を行い、WG委員による評価・検証を実施。

3. 6. 実証講座

【目的】コマシラバス、授業シート、授業カルテ、テキスト等、一連の資料が使いやすく分かりやすいものになっているか、また、コアカリキュラムを履修していない現役動物看護師達の学び直しにも役立てられるように検証することを目的とした。

【対象・規模】動物看護教員、現役の動物看護師及び専門学校生等を対象に実施。

【手法】実証講座を実施し、受講者へのアンケート調査と有識者等による授業観察の結果に基づき、実証講座の考課について検証した。

(1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象）	6時間
(2) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象）	6時間
(3) 動物看護学（動物看護師対象）	15時間
(4) 動物栄養学（動物看護師対象）	15時間
(5) 院内コミュニケーション（動物看護師対象）	15時間

3. 7. 女性の学び直しに対応した取組

(1) 実証講座実施時の託児サービスの提供

【目的】動物看護師はその多くが女性であることから結婚出産を機に離職している者も多い。そのため、子育てが一段落した者の復帰にも役立てられるように一部の実証講座では託児サービスを提供することを目的とした。

【規模】「動物看護学」「院内コミュニケーション」の実証講座（各 5 時間×3 日）において臨時託児所を設置。

【手法】保育サービスを提供している事業所に臨時託児所の設置を依頼する。

4. 事業の成果

4. 1. 指導者講習について

4. 1. 1. 指導者講習の実施実績

(1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象） 6 時間

講師：国際動物専門学校 山下真理子

①東京会場 実施日：平成 26 年 9 月 6 日

◆参加者 12 名

◆実施場所

学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

②札幌会場 実施日：平成 26 年 10 月 18 日

◆参加者 12 名

◆実施場所

学校法人 吉田学園 北海道福祉大学校・北海道リハビリテーション大学校

③仙台会場

◆参加者 7 名

◆実施場所

学校法人 日本環境科学学院 専門学校アニマルインターカレッジ

④大阪会場

◆参加者 12 名

◆実施場所

学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

(2) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象） 6時間

講師：大阪ペピイ動物看護専門学校 石橋妙子

①高松会場

◆参加者 3名

◆実施場所

学校法人 穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ

②大阪会場

◆参加者 12名

◆実施場所

学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

4. 1. 2. 指導者講習開催地域による特異性

(1) 臨床動物看護学

札幌、仙台、東京、大阪で実施したが、そもそも動物看護系専修学校の設置地域が主要都市に偏るため、参加者や指導内容による地域性の差は見られなかった。カリキュラムのコアの部分は動物看護師育成において全国統一版がふさわしいが、地域による学生就職先の違い、例えば地方都市の産業動物分野開拓などが見られる場合にはコアに加えて盛り込み地域学生の特色及び就職先開拓にもつながると考える。

(2) クライアントエデュケーション

高松での実施は、四国地方に動物看護系専修学校が少ないことも関係し、参加者及び参加校が少数であった。クライアントエデュケーションは、従来、動物看護実習などで組み込まれながら教授されていた内容のようだが、本年度から導入されるコアカリキュラムに於いて独立した科目となった。ついては、現段階で科目として熟成されていないが、今後は地域によるクライアント（動物飼育者）の特色を分析し、模擬演習などに用いることは検討できる。

4. 2. カリキュラムの開発について

(1) 動物看護学（動物看護師対象） 15 時間

講師：国際動物専門学校 山下真理子

◆実施場所 学校法人 シモヅノ学園 国際動物専門学校

第 1 回 平成 26 年 10 月 25 日 5 時間 参加者 15 名

第 2 回 平成 26 年 11 月 1 日 5 時間 参加者 19 名

第 3 回 平成 26 年 11 月 22 日 5 時間 参加者 12 名

(2) 動物栄養学（動物看護師対象） 15 時間

講師：日本獣医生命科学大学 左向敏紀

◆実施場所 学校法人 シモヅノ学園 国際動物専門学校

第 1 回 平成 26 年 10 月 18 日 5 時間 参加者 14 名

第 2 回 平成 26 年 11 月 8 日 5 時間 参加者 15 名

第 3 回 平成 26 年 11 月 29 日 5 時間 参加者 13 名

(3) 院内コミュニケーション（動物看護師対象） 15 時間

講師：大阪ペピイ動物看護専門学校 石橋妙子

◆実施場所 学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

第 1 回 平成 26 年 11 月 8 日 5 時間 参加者 13 名

第 2 回 平成 26 年 12 月 6 日 5 時間 参加者 12 名

第 3 回 平成 26 年 12 月 27 日 5 時間 参加者 14 名

4. 3. 実証講座について

(1) 臨床動物看護学【指導者講習】(動物看護教員対象)

昨年度成果テキストを活用し、教科自体を教授するのではなく教員に対して授業展開方法の授業となった。教員自体にとっても、当教科は高位平準化コアカリになってからのものであるため内容の理解と共に、授業展開方法について興味を持っていただけたと思う。教員への授業展開、ということでグループワークという形での展開が難しい点があった。特に、教員としての経験と獣医師としての経歴が多いほど、伝統的な対面形式の授業方法から抜け出すことの難さがあるのではないかと感じられた。講師自身も、受講者教員に遠慮してしまう帰来もあり、質問の促しが上手く行われていなかったという点がアンケートからも伺えた。

(2) クライアントエデュケーション【指導者講習】(教員対象)

本科目の特徴は、コアカリキュラムの基礎を履修した学生が自身の持つ知識をアウトプットする仕上げの科目であり実践力が求められる。科目実証講座の前段階として、「コマシラバスの活用例」や「授業教材と教え方」など授業運営に役立つ内容を盛り込むことで、現職教員がすぐに取り入れられる要素があった。教員向けの実証講座は、科目の意義から指導のポイントや、動物看護教育の本質とはどのようなものかということも検証していくことが課題であると思われる。

(3) 動物看護学(動物看護師対象)

既卒者は、在学中に違う観点からの「動物看護学」を習ってきていたのではないかという視点に立った授業展開であった。高位平準化コアカリのシラバスによる当教科の授業を修得した新卒者が就業した際、その内容を知っていることは、先輩動物看護師として必要な事でもあり、今後の動物看護師だからこその職域を担っていく人材として、当教科を知っておくことは必須と思われる。また、それとともに他業界から転職者、他学科卒業し動物看護師として就業している者にとっても大変有意義な教科であったと思われる。新しい視点に立った教科書を使用しての授業展開であったが、その教材を理解しやすくするために補助教材を使用することは受講者にとって大変有意義な事であると思われた。

(4) 動物栄養学（動物看護師対象）

臨床の場はもちろんであるが、動物の全ての生活段階において動物栄養学の知識を持っていることは必須であり、また、在学中にも修得した内容であると思われるが、今後、コアカリに沿った教科書で勉強してきた新卒者との知識の差を無くすためにも、新テキストを使用し、また、それを強化補助するためのテキストを使用しての受講は、大変有意義と思われた。

(5) 院内コミュニケーション（動物看護師対象）

本科目は、一般教養のコミュニケーション力に動物病院ならではの事象に対応できる力を習得するべく院内を背景に演習方式で行う授業である。参加者は動物病院に勤める現職の動物看護師であったが、勤務歴の違いや動物看護教育を受けず他業種からジョブチェンジされた方など様々であった。自己流で身に付けたことが多い中、コミュニケーションの概念やビジネスマナーの基本を学びなおすことは有効であったと思われる。また、日々の業務から院内の雰囲気や飼い主及びスタッフとのコミュニケーション経験があるので、学生向けの授業より要する時間が短縮できることが判明した。

4. 4. 女性の学び直しに対応した取組について（託児サービスの提供）

(1) 動物看護学（動物看護師対象） 15 時間

◆実施場所 学校法人 シモヅノ学園 国際動物専門学校

第1回	平成26年10月25日	5時間	利用者	0名
第2回	平成26年11月1日	5時間	利用者	0名
第3回	平成26年11月22日	5時間	利用者	0名

(2) 院内コミュニケーション（動物看護師対象） 15 時間

◆実施場所 学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

第1回	平成26年11月8日	5時間	利用者	0名
第2回	平成26年12月6日	5時間	利用者	0名
第3回	平成26年12月27日	5時間	利用者	0名

5. 事業終了後の成果の活用について

本年度の事業で開発した「臨床動物看護学」「クライアントエデュケーション」については、本校ならびに事業協力校の中で、平成 27 年度以降の授業に今回の成果を取り入れながら活用する予定である。また、「動物看護学」「動物栄養学」「院内コミュニケーション」の 3 科目において作成した教育カリキュラムならびにテキストについては、今後も質の高い動物看護教育を行うため、全国動物看護系養成専門学校・大学等に対して情報の公開・共有を行い、修正・検討を加えながら成果の活用を行う予定である。

また、作成したテキストについては、多くの専門学校で導入が開始されている「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の中で、教材として活用できるように、出版社よりテキスト化するための準備を検討する予定である。

6. 今後の課題について

本年度に実施した事業を通し、計画していた事に対しての一定の成果を上げることができたと思われるが、次年度以降に向け、改善・検討が必要な新たな課題も出てきている。

まず、本年度実施した教員向けの指導者研修の中で、情報収集不足により、地域の特性を活かした授業が考えていた以上に展開しきれなかったという事が考えられる。

そのため、卒業生の就職先の違いを調査すること等により、科目に対するニーズを分析し、同一科目であっても地域性を活かした授業展開ができるようにすることで、より有用な教育カリキュラムとしていくことが、今後取り組むべき課題となっている。

次に、本年度実施した実証講座は、現役の動物看護師を受講対象にすることで、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を学んでいない動物看護師の学び直しに役立てることも目的の一つであり、実際に受講者の情報から推測すると、一定程度以上、「学び直し」に貢献出来たと考えられる。しかし、今後さらに多くの動物看護師たちに「学び直し」の場を提供するために、受講者に対しての調査（アンケート）項目や、有識者等による授業観察における評価の指標などについては見直しを行い、授業の改善に役立てることが必要であると考えられる。また、動物看護師は女性が多数を占める職業であり、女性ならではの特性が生かされる職であること、結婚出産などにより潜在動物看護師が多いことから、特に「女性の学び直し」に対して貢献するため、本年度実施した託児サービスについても、より利用しやすく改善することが次年度以降の課題である。

最後に、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」が多くの学校で採用されていく事を踏まえ、コアカリキュラムに属する他の科目についても、現役動物看護師の意見等を取り入れながら、より有用な実践的教育カリキュラムを開発していくと共に、本事業で検証された結果等を、多くの学校で共有することで動物看護師養成教育全体の底上げを行い、動物看護師の中核的人材養成に対して、成果を上げていく事が今後の取り組むべき課題であると考えられる。

第2編 事業実施記録

1. 臨床系科目検証WG

1. 1. 指導者講習について

1. 1. 1. 指導者講習の実施実績

(1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象） 6時間

講師：国際動物専門学校 山下真理子

①東京会場 実施日：平成26年9月6日

◆参加者 12名

◆実施場所

学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

②札幌会場 実施日：平成26年10月18日

◆参加者 12名

◆実施場所

学校法人 吉田学園 北海道福祉大学校・北海道リハビリテーション大学校

③仙台会場

◆参加者 7名

◆実施場所

学校法人 日本環境科学学院 専門学校アニマルインターカレッジ

④大阪会場

◆参加者 12名

◆実施場所

学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

1. 1. 2. 指導者講習の実施資料

次ページ以降に

(1) 臨床動物看護学

の授業を実施する際に使用した資料等を掲載する。

コマシラバス等を活用した 「授業の展開」紹介

文部科学省平成25年度委託事業
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業
~~成果物を参考にしながら~~

学校法人シモン/学園
山下眞理子



はじめに

平成25年度文部科学省委託事業として
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業
[獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]

獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての
動物看護師及びペット産業マネージャー養成プログラム開発事業
職域プロジェクト(動物・ペット産業)実施委員会
動物看護師コアカリキュラム検証分科会の中で、実証講座を展開し、その内容をテキストとして作成し、成果物とした。

科目は、臨床動物看護学とクライアント・エジュケーションとした。
この2教科は、専門学校群が高位平準化された教育を目指す第一歩として、コアカリキュラムを提示し、シラバス概要を作成した中から、既存の動物看護師育成教育としては実施されていなかった教科の一部として取り上げた。
受講対象者は、専門学校の教員等とした(事務職の受講もあり)。

実証授業をするにあたり、2教科のコマシラバスを作成し、授業シート及び授業カルテ(確認テスト)を試作して実施授業を展開した。
また、受講者には受講後にアンケートを実施し、これを集計した。
また、実証授業すべての時間を評価者による評価を実施し、集計した。

授業の展開

- ・コマシラバス作成
- ・授業シート作成
- ・授業カルテ作成(確認テスト)
- ・受講者アンケート(受講者自己評価)
- ・評価者評価



平成26年度文部科学省委託事業 職域プロジェクト臨床系WGは、実証授業の一つとして平成25年度成果物とした「臨床動物看護学」テキスト等を活用し、受講者は教員とした。

授業内容は、「臨床動物看護学」の授業展開方法や教員の効果的な授業方法等について概説し、臨床動物看護学を自身で授業する際の体験模擬授業の体を取った。

◆使用した資料一覧

- ・平成25年度文部科学省委託事業 成果物 「臨床動物看護学」テキスト
- ・コマシラバス…一例として「臨床動物看護学」を添付
- ・授業シート…実証授業として6時間の展開例の授業シートを添付
- ・授業カルテ(確認テスト)…「臨床動物看護学」の1回目確認テストを添付
- ・受講者アンケート…授業後に実施する「受講者アンケート」用紙を添付

◆授業展開資料一覧

- ・「コマシラバス等を活用した授業展開の紹介」
- ・「看護教育論・教育方法論」
- ・「教材とは何か」

参考ご紹介:ID インストラクショナル・デザイン

- ・アメリカで開発された、教育を短時間で効率よく、効果的に行う手法
 - ・学校におけるシラバス・教材の作成
- 参考書:「教材設計マニュアル」
独学を支援するために
鈴木克明 著:北大路書房



コマシラバスを活用して授業展開をするが、この際に活用できる授業方法として「インストラクショナル・デザイン」(以下ID)を参考として紹介した。
IDは、アメリカで開発され、独学方法の一つとして教育を短時間で効率よく、効果的に行う手法である。

国内においても、活用されている方法であり、参考図書として
*「教材設計マニュアル」 独学を支援するために 鈴木克明著。

IDとその利点

- ・教育の実施側
- ・教育の受け手側
- ・学習意欲を維持し主体的に学習をすすめることができる
- ・自分がどの水準にいるかわかりやすい
- ・何をすれば次のステップに行けるかがわかりやすい
- ・誰が、どんな状況で、何をを使って、何ができるようになるのかを明確にすること



IDとその利点は、教育を実施する側、教育を受け取る側の両方に見られる。
ここでは、教育を受け取る側の利点について概説する。

利点は

- ①学習意欲を維持し主体的に学習をすすめることができる
- ②自分が、どの水準にいるのかわかりやすい
- ③何をすれば次のステップに行けるかがわかりやすい
- ④誰が、どんな状況で、何を身につけて、何ができるようになるのかわかりやすい

学習目標から見えること

- ・ 文部科学省 学習指導要領
 - ・ 1992年(平成4年)4月(『新学力観』)の打ち出し
- 「各教科等の評価においてみずから学ぶ意欲の育成や思考力、判断力、表現力などの能力の育成を重視する」
- ※ 自分で考え、自分のやり方で情報と立ち向かえるようにする。将来的には先生が居なくても卒業した後でも自分の力で学び続けることができる素地を培っていく方向性＝「独学」
- 「指示待ち人間」を造らない工夫



学習目標について

1992年4月、文部科学省から「新学力観」の打ち出しがなされている。これは、今までのように教員からの指示による学習や行動ではなく、自分で考えて「各教科等においてみずから学ぶ意欲を育てよう、また、思考力と共に判断力、表現力などの能力を育成することを重視する」という方針が打ち出されている。

これは、「指示待ち人間を作らないこと」を目標にしている＝独学の勧め

◆平成26年11月には、新年度から新しい教育方法として「アクティブラーニング」が実施されるというような新聞記事もあるように、すでに伝統的授業方法である、一方方向の対面授業のみではなく、能動的な授業展開が求められている。学生を引き込み、能動的授業展開ができるためにも、コマシラバスや授業シートの活用が必要となる。

学習目標の明確化①

- ・ 入口と出口を明確に設定する
どのような前提知識を持っている人に何を教えるのか。
その人がどうなれば成功か。
何が出来れば「習得した」と認められるかを明確に設定する。
- ① 入口の設定
学習者が授業を受けるレベルに達しているかどうかの確認。
※「前提テスト」でレベルの判定を行うが、入試のない学校は……
※「事前テスト」にて学習目標に達していないことを確認。
- ② 出口の設定
現在取り組んでいる内容の **明確な** 学習目標。
「学習者をどのような状態」にしたいのかを考える。
※事後テストによって目標を達成できたかを判断する。

「～できる」のよう形、
何ができるようになっていれば
OKなのか？

学習目標を明確にする、ということとは

入口と出口を明確に設定する、ということにもなる。

この授業には、どのような前提知識を持っている受講生に教えるのか
その受講生が、どのようになれば成功なのか、
何が出来るようになれば「習得した」と認められるのか
を明確に設定してから、授業展開をする。

① 入口の設定
受講者が、この授業を受けるレベルに達しているかどうか、の確認をする。
そのためのテストは「前提テスト」であり、受講者のレベルの判定をする。
しかし、入学試験の無い専門学校としては、「前提テスト」の実施は困難と思われる。

もう一つは「事前テスト」
このテストをすることにより、学習目標に到達していないことを確認する。
また、もしこのテストが満点なのであれば、授業を受講する必要がないということにもなる。

② 出口の設定
学習者をどのような状態にしたいのか、を考えるための設定。
これは「事後テスト」によって目標を達成できているかを判断する。
何が出来るようになっていければOKなのか？を明確にする。

学習目標の明確化

- ・ どのような前提知識を持っている人に何を教えるのか。
- ・ 何ができれば「習得した」と認められるのか？
- ・ 悪い例
…これらの言葉では学生が迷ってしまう…どうしたらよいか、がわからない…
「コンピューターネットワークを理解する」
「猫の問題行動の対処方法を習得する」
「動物の臨床検査実習を身に付ける」



ID活用する意味として、学習目標の明確化がある。

明確化できるとは、どういう事かというところ

- ① どのような前提知識を持っている人に何を教えるのか
- ② 何ができれば「習得した」と認められるのか？がわかる

明確化させるためには教員が示さないほうが良い言葉がある。

- 悪い例として、
- ～を理解する
 - ～を習得する
 - ～を身に付ける
- などがあげられる。

これらの言葉をつかって抽象的なものを提示するのではなく、初めての学生がわかるようにするには、これらの言葉を具体化するための説明するものが必要となる。
どんなことが「理解した」ことになるのか、「身に付けた」ことになるのかは、人によって捉え方が違う。簡単にすることも出来るし、難しくも出来る。そこを明確にする。
明確にしないと学習者が迷子になる。

学習目標の例

- ※ 「『鬼平犯科帳』を理解する」
修正例：
「時代劇ファンに、作者の紹介をし、鬼平の概要を説明できる。鬼平の生い立ち、現職、家族、父の遺品、鬼平以外の登場人物が5人あげられる」
- ※ 「『魚へん』の漢字を覚える」
修正例：
「自分の好きな寿司ネタで『魚へん』の付く漢字をグループで20個挙げた後、ノートを見ずに板書できる」



学習目標を明確化するための、学習目標として提示する時の例として挙げる。

※ 「魚へんの漢字を覚えよう」というだけの提示で授業を開始するだけではなく「自分の好きな寿司ネタで魚へんの付く漢字をグループで20個挙げたあと、ノートを見ずに板書できること、をめざしましょう」としてみる。

また、これらを達成するための期限を限定し、結果の評価方法、合格基準を提示することにより目標が明確化される。

学習目標を明確化するポイント

- ・ 目標行動(何ができるようになるのか)
* 学習者の行動
- ・ 評価条件(どのような条件下で学習目標に達するのか)
* どのような条件で実施してもらうのか
- ・ 合格基準(どこまでできれば合格なのか)
* 全問正解? 一か月以内で?...

学習をする学生が、常に自分が今どこにいて何をしているのか、これからどうなるのか、どこがゴールなのか、が「見える可」されていること



学習目標を明確化できるポイントとして

・ 目標行動、何ができるようになるのかを提示することによって学習者の行動が明確化される

・ 評価方法、どんな条件下で学習目標を達成することが必要なのか、を提示することで期限や、条件を理解することができるようになる

・ 合格基準、どこまでできれば合格なのか、60%なのか100%なのか、それをいつまでできるようにすればよいのか、がわかるようになる。

要するに、

学習する学生が、常に自分が今どこにいて、何をしているのか、これからどうなるのか、どこがゴールなのか、が「見える化」されていることが重要なのである。

学習目標を明確化するポイント

学習者をどのような姿にしたいのか、受講後に学習者がどのような姿になっているのかを考える。

- ・ 目標行動(何ができるようになるのか)
学習者の行動で、学習目標を表す。(観測可能な行動)
* 「理解を深める」ではわからない。
- ・ 評価条件(どのような条件下で学習目標に達するか)
どのような条件で実施してもらうか。
* 「1人で」「何も見ないで」「何分以内で」など。
- ・ 合格基準(どこまでできれば合格なのか)
* 「全問正解」「3つの目標のうち2つ達成」など。

★数値化がポイント。目標はいくつあっても良い。

学習目標を明確化するポイントとは、

学習者をどのような姿にしたいのか、受講後に学習者がどのような姿になってほしいのか、を考えて授業を組み立てる。

- ① 目標行動...何ができるようになるのか
- ② どのような条件で、その学習目標に到達すれば達成された、とするのか
- ③ 評価条件を提示する...どのような条件で目標に到達できればよいのか、を具体的に表示しておくこと。
- ④ 合格基準は...どこまでできるようになれば、合格なのか
100点でなければダメなのか、60点取ればよかったとみなされるのか、など。

目標はいくつあっても良いが、数値化されている、ということがポイント。
精神的なことだけではなく、それが見える化されていることが重要である。

学習目標(課題)の種類

- ・ 学習目標(課題)は以下の3種類の分野に属する
- ◆ 認知領域(あたま)
 - ① 言語情報: 暗記もの、思い出すもの。
(例)ハサミの種類を言える など...
 - ② 知的技能: ルール等を応用するもの。
(例)3ヶ々の掛け算が行えるもの など...
- ◆ 運動領域(からだ)
 - ③ 運動技能: 運動的な技術を覚えるもの
(例)フラインドタッチができる など
- ◆ 情意領域(こころ)
 - ④ 態度の学習: 考え方や態度に現れるもの
(例)リーダーに立候補できる、煙草を吸わない など

11

学習目標(課題)の種類は、3種類。

① 認知領域(あたま)

・ 言語情報...暗記もの、思い出すもの(暗記した知識を思い出す)

・ 知的領域...ルールなどを応用するもの(数学)

② 運動領域(からだ)...運動的な技術を覚えるもの(自転車に乗る、フラインドタッチで打てる)

③ 情意領域(こころ)...態度の学習、考え方や態度に現れるもの(タバコを吸わない)

学習者が学習目標に達しているかをチェックするためにテストを行う。
テストは、学習者を評価するものでもあるが、**教材が適切だったか**を測定することが目的である。

「学習目標」と「テスト」はリンクするため、学習目標が決定した時点で、テストも作成される。(事前テスト/事後テストとして使用)

① 言語情報のテスト

教材で扱った内容をテストにする。

② 知的技能のテスト

教材に無い例を使い、応用できるかテストする。

③ 運動技能のテスト

実技テストとチェックシートを用いる。

④ 態度の学習のテスト

論文等を用いる。

目標(課題)の分析

- ・ 入口から出口までの間に、どのような内容がどのような関係で存在するのかを明らかにする。
- ・ 大きな学習目標を設定し、それを細かくしていくことが基本となる。
- ・ 出口からさかのぼって、入口まで逆行するように進める。そうすることによって、教材で取り扱う内容が明らかになり、各内容同士のつながりも目に見える形で把握できるようになる。

12

目標(課題)の分析をする。

入口から出口までの間を、どのような内容がどのような関係で存在するのかを明らかにする。

大きな学習目標を設定し、その内容を細かくしていくことを基本とする。

出口から遡り、入口まで逆行するように契めてみる。

そうすることによって、どこでどんな教材が必要なのか、どんな展開が必要なのか明らかになり、内容の繋がりも明確になる。

その場限りの、思いつきで実施するのではなく、準備した教材を使用することによって、その学習目標が達成できる。

学習目標から見えること 1:コマシラバスの意味

- 学生が自分自身の行動を明確化できる
- 学生が自分がどこまでわかっていてどこからがわからないのか、がわかる
- 1コマの授業で出来るようになるものを明確に
- “曖昧さ”を無くす



これらの学習目標を達成させるために活用できるものの一つに、コマシラバスがあるのではないだろうか。

コマシラバスは、1授業単位の時間(50分や90分)の中で、現時がどのように展開されていくのかということを確認にできる。教員は、経験、カン、度胸で実施してきた従来の伝統的な授業をするのではなく、コマシラバスに沿って、教えねばならない事を明確にし、学生には、自分が学ばねばならないキーワードがはっきりと見えるようにせねばならない。

これにより、学生が自分自身の行動を明確にすることができ、学生自身が、自分がどこまでわかっていて、どこからがわからないのか、ということがわかる。

1コマの授業を受講することによって、いったい何がわかるのか、ということを確認にできる。要するに、「曖昧さを無くす」ということ。

学生の独学を支援する 2:授業シートの意味

- 授業の構成・・・
導入～始めるにあたって何からしようかを考える
イントロ、表紙、教材に注目させ学習目標を知らせ、
必要な既習事項を思い出させる
授業に引き込む魅力的な部分(2例紹介)

展開～“導入”と“まとめ”の間。本論

まとめ～授業をしめくくる。



学生の独学を支援できる授業展開には、授業シートが活用できる。

授業展開は

- ①導入
 - ②展開
 - ③まとめ
- の順で時間配分する。
これらの時間配分を、授業シートとする。

この中には、

①導入・・・本時を始めるにあたって何から開始するかを考え、提示する。
イントロ部分、本でいうと表紙にあたる大切な時間。教材に注目させて学習目標を明確にわかってもらえるようにし、本時に興味を持たせて今まで習ってきたことを思い出させる時間とする。
授業に引き込み、講師に関心を持たせられるような工夫が必要。

②まとめ・・・最後の、本時をふりかえってまとめる時間。次の授業に結びつくような配慮が必要。

③①と③の間が展開。本論の部分。

導入について

- 教材に注目させ、学習準備を知らせ、必要な既習事項を思い出させることが導入にあたる。
- ① 学習者の注意を喚起する
教材からのほたつきかけが利用者のアンテナに届くように、周波数を合わせる必要がある。
※学習者に「おもしろそうだ」と思わせる工夫
- ② 授業の学習目標を知らせる
目指すゴールを掲げ、利用者が自分の注意を自分の力で焦点化し、学習内容に集中できるように促す。
- ③ 前提条件を思い出させる
事前に学習して長期記憶にしまい込んである、基礎の知識・技能を使える状態にする。

導入について。

講師と授業に関心を持たせ、学習準備をする時間。本時を受けるために必要な既習事項を思い出させ、振り返りの部分でもある。

- ①注意を惹起させる・・・興味につながり、関心呼び起こす時間
- ②授業の学習目標を提示し、学習内容に集中できるような誘導も必要。
- ③前提条件を思い出させる・・・事前学習や、これまでに体験してきた事や復習部分を思い起こし、基礎の知識、技術を使えるように思い出させる。

展開について

- 情報提示と学習活動に分けられる。
- 情報提示:学習者が各自の記憶に新しい事柄を組み込む作業(④、⑤)
- 学習活動:いったん組み込まれたものを引き出す道筋をつける作業(⑥、⑦)
- ④ 新しい事項を提示する
導入で引っ張り出した既習事項との違いや関連性を際立たせながら、学習内容を提供する。
- ⑤ 学習の方針を与える
新しい内容を提供するだけでなく、意味のある形で覚えるような助言を与えることを考える。
- ⑥ 練習の機会を作る
新しい事項が記憶できたかどうか、学習者が自分の頭の中から取り出し、技能を応用したりする機会を作る。
- ⑦ フィードバックを与える
練習の出来具合をすぐに学習者に知らせ、徐々に完成に向かわせる。

授業展開について。

導入とまとめの間の時間を使い、本論を述べる時間。

展開は、二つの要素から成り立つ。

- ①情報提示・・・学習者が各自の記憶に新しい事柄を組み込む作業である
新しい事項を提示すること
学習の方針を与えること
- ②学習活動・・・いったん組み込まれたものを引き出す道筋をつける作業である。
練習の機会を作る
練習の出来具合を学習者に知らせ、完成に向かう

まとめについて

- 教材の出口の一手手前で、今まで学んできたことをまとめて締めくくりとする。

⑧ 学習の成果を評価する

評価は、練習と区別しておこなうべきものである。

練習は失敗から学ぶもの、評価は本番で成果を試すものであるため、評価そのものも学習を促す働きかけの1つとなる。

⑨ 保持と転移を高める

忘れた頃にもう一度復習の機会を作ることで、学習の成果を長持ちさせ、また他の学習への応用ができるように行う。

学習した内容がどんな場面で応用できるかを説明したり、次の教材にどのように繋がっていくか等の予告を行う。

17

まとめについて。

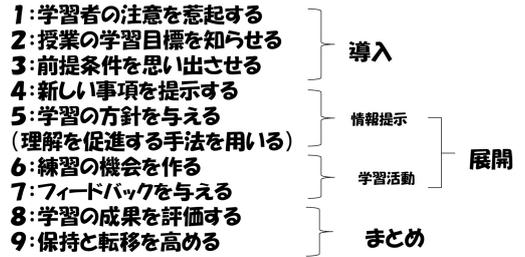
各授業時は、展開の内容のまま終了するのではなく、本時に学んできたことを振り返り、しめくりをし、次回の内容を知らせて準備をするための情報を与える。

学習成果の評価を実施する。

評価することにより、今後の学習を促す働きかけの1つとなる。

練習の機会を作る事で、学習成果の応用ができるようにする。

「ガニエの9教授事象」



授業の構築の仕方

導入→展開(情報提示と学習活動)→まとめ

上記の流れの詳細を1~9事象としたもの。

導入は、1: 学習者の注意を惹起する
2: 授業の学習目標を知らせる
3: 前提条件を思い出させる

展開は、4: 新しい事項を提示する
5: 学習の方針を与える
6: 練習の機会を作る
7: フィードバックを与える

まとめは、8: 学習の成果を評価する
9: 保持と転移を高める

◆「ガニエの9教授事象」とは

ロバート・M・ガニエ

フロリダ州立大学名誉教授

「授業設計理論の父」著 学習心理学者

・人の学びのプロセスにさかのぼって、教材の構成を考えていくための枠組み

・人間がどのように新しい知識や技能を習得するのか、を説明したもの

3: 確認テストをする意味

確認のため「事後テスト」を実施

- 授業を受けた学生を評価するものでもあるが
- シラバスが適切だったか？ 教え方がよかったか？ が評価される
- *「点数が悪かった」の意味は…
- ・教え方が良くなかった
- ・目標が高すぎた

- もし、合格点でなかった時の責任は…
先生の責任が明確化する



事後テストを実施する、ということとは

- ・シラバスが適切であったのか？
 - ・教え方はよかったのか？
- が評価されるということ。

もし、学生の点数が悪かった、という時には

- ・教え方が良くなかった、のか
 - ・目標が高すぎたのか、
- の振り返りをするようになる。

もし、学生が合格できなかった時の責任は、講師にある。

決して学生が悪いわけではない、ということを講師が認識せねばならない。

4: 評価する

・「形成的評価」

* 教材を作っている途中で、教材の効果を確かめて、悪いところを直すために評価

教材の形を作っていく(成していく)ための評価

* 「どこを直せばもっとよい教材になるのか」を知るために試験的に使ってもらう

・「総括的評価」

* 教材づくりが完成してから作成者以外が行う評価

* その教材を採用しようかどうかを判断するための評価



評価する。2種類の評価方法がある。

①形成的評価…教材を作っている途中で、教材の効果を確かめて、悪いところを直すために評価のこと。評価を受ける、ということは講師の良し悪しを観るのではなく、よりよくしているための手段であり、今後の目標とするとこを見直すためのもの。

②総括的評価…教材づくりが完成してから作成者以外が行う客観的な評価。

看護教育論・教育方法論

～分かりやすい授業をするために～

学校法人シモソノ学園 山下眞理子

21

はじめに

動物看護学教育は、開始されてから間が無い、と言ってよい。それに比較し、人間看護学教育の歴史は終戦時、GHQマッカーサー氏からの提言で始まったと聞いている。

動物看護学教育は、人間看護学教育の中の事柄や言葉を参考にしていることも多い。しかし、人間看護学や技術がそのまま動物看護学および看護技術に流用できるというわけではないと感じている。

そのため、今回は、人間看護教育に携わっている教員に看護教育論及び教育方法論について教授していただいた。この中で、人間看護と動物看護を比較し、同一であるためにその概念や方法を動物看護に活用できるものと、そうではなく、動物看護独自のものとして考えていかねばならないものがあることがわかった。

また、それらの結論に到達するまでに人間看護教員と動物看護師及び獣医師が討議し、考える機会を持てたことはこれから動物看護学を構築していく上でも大きな収穫となったので、今回これらの内容を、動物看護学を教えていく教員に伝えることとした。

〇〇教育学とは？

- 〇〇の研究によって、その本質を究め普遍性を見出す事とそれを教育をすること。
- 〇〇についての教育を希望する人に対して、〇〇を理解するための支援をすること。
- その人(≒学生)の成長・発達を見極めたうえででの支援が必要である。
- 「学」の意味・・・そのことを究める＝研究する。

大学と専門学校の違いにも繋がる部分

22

〇〇教育学とは何か？

〇〇の研究によって、その本質をきわめて普遍性を見出す事であり、また、それを教育すること。そして、〇〇についての教育を希望する人に対して、〇〇を理解するための支援をすること。

ただし、希望する人の成長・発達を見極めたうえででの支援が必要となる。また、「学」の意味は、「究めること」「研究する」ということ。

これは、大学と専門学校の違いにもつながる部分でもある。

大学＝学問として研究すること。研究者を育成するところ。

専門学校＝現場で活躍できる、その職・技術に秀でたプロを育成するところ。

動物看護教育学とは？

- 動物看護学の様々な領域に共通して普遍的に存在する要素を研究する。
- 動物看護学生を含む動物看護職者個々の発達の支援をする。
- 動物看護の対象(傷病動物とその飼主)に質の高い看護を提供することを旨とする学問

23

人間看護と動物看護の違い

- 看護の対象が傷病動物のみならず、飼主への看護が重要となる。
- 人間の場合の小児への看護とその親に対する看護に似ている。しかし、親⇄子という普遍的関係がある事に対し、動物⇄飼主は普遍性があるのだろうか？
- 人の看護は人とのコミュニケーションを重視する。動物看護では、傷病動物とのコミュニケーションも求められる。

24

(人)看護教育学と動物看護学を比較する。

- 動物看護学の様々な領域に共通して、普遍的に存在する要素を研究する。
- 動物看護学生を含む動物看護職者個々の発達の支援をする。
- 動物看護の対象(傷病動物とその飼主)に質の高い看護を提供することを旨とする学問

人間看護と動物看護学の比較をした際、大きく異なる点は看護の対象である。人間看護は、看護対象が患者なのであるのに対して、動物看護の対象は、動物そのものであるのは勿論であるが、動物は、言葉を持たず、自ら表現することや受診を希望して来院することができない、現状説明を受けても理解できない、継続治療や処置を自ら実施できない、等から動物の管理責任者は、飼い主とするので動物看護の対象は、動物と飼い主とすることになる。

人間看護と動物看護の違いをまとめる。

①看護の対象が傷病動物だけではなく、飼い主が含まれる。

飼い主への看護が重要となる点は、人間の場合の小児看護と、その親に対する看護に似ている。親と子、という関係は、普遍的関係があるが、動物と飼い主との関係には普遍性があるのか？

動物と飼い主との関係は、動物種によって違いがあると思われる。

よく言われるのは、牧畜民と農耕民族との間で「人と動物との関係」の相違である。

牧畜民は、家畜を財産とするが終生飼育をすることのない食肉を目的とした家畜を飼育する。牧畜民の歴史が長いために、日本人より欧米民族は、動物を良く知り大切にすると、と言われることがあるが、私はこれに反した意見を持つ。

農耕民族であった日本人は、東北「南部の曲り屋」にも見られるように、日頃農耕作業を共にする牛馬は、農民の大切な財産であり、苦楽を共にする家族の一員と言えるような価値を感じていたのではないだろうか。そのため、豊作を感謝する祭りには、牛馬を飾って共に愛でるような行事も残っていると思われる。

この関係が、今の日本人の感性の中に残っており、安楽死を受け入れがたい終生飼育の考えがあるのではないだろうか。

動物と飼い主との関係は、このように普遍的なものではないが、家族の一員として受け入れている関係は、広く多くの人(家庭)に受け入れられつつあり普遍的な考えになりつつあると感じている。

②直接動物からの情報を得ることができない、ということ、健康維持管理や継続治療の指示を動物にできないということから、飼い主に指導する技術をもつことが必要になる。そのため、飼い主とのコミュニケーションを取れることは当然必要な技術であると共に、動物の行動や習性から動物の気持ちを想定し、くみ取れることは重要である

動物看護独自の 考え方が必要

独自の考え方を生み出す
参考として

25

人間看護学の知識は、動物看護に参考になるが、そのままを活用することはできないと思われる。

動物独自の考え方が必要であるが、その独自の考え方を生み出す参考として人看護学の概要を見る。

人間看護の教育

人間看護を学ぶとき、最初に学ぶキーワード（看護に不可欠な概念）として次の4つがある。看護学生はこの4概念を学ぶことから始まる。

★ 人 間
★ 健 康
★ 環 境
★ 看 護

26

人間看護の教育

人間看護を学ぶ時、学生が最初に学ぶキーワードが4つある（看護に不可欠な概念）。看護学生は、この4つの概念から学ぶことになる。

- ①人間とはなにか？
- ②健康とは
- ③環境について
- ④看護とは

人 間

- 1 身体的・精神的・社会的・霊的側面をもつ
- 2 有機体であり個別存在である
- 3 環境との相互作用により変化、変容する
- 4 常に成長し続ける
- 5 個体維持機能と種族保存機能を持つ
- 6 感情、理性、思考能力を持つ
- 7 欲求をもち、それを充足するための努力をする自立した存在である。

27

人間について学ぶ。

人間とは・・・

- 1 身体的・精神的・社会的・霊的側面をもつ
- 2 有機体であり個別存在である
- 3 環境との相互作用により変化、変容する
- 4 常に成長し続ける
- 5 個体維持機能と種族保存機能を持つ
- 6 感情、理性、思考能力を持つ
- 7 欲求をもち、それを充足するための努力をする自立した存在である。

人間看護、看護技術を学ぶ前にまず人間とはどんなものなのか、を知る。

動物看護を学ぶ時を振り返ってみると、動物そのものについて学ぶということよりも疾病や生理など獣医学的な視点から動物を知る学習から入っていたように思う。

人間看護が、まず人間について知ることから開始するように、動物看護に関係する者はまず、動物そのものについて知識を持つことが必要だろう。

健 康

- 1 最良から最悪の状態があり、連続性、流動性がある。
- 2 健康状態は、個体要因と外部環境とのダイナミックな相互作用によって成立する。
- 3 望ましい状態は、その人の機能が十分に発揮され自己実現を目指し環境に適応している状態。
- 4 基本的権利であり、個々が自らつくるもの

28

健康について知る。

看護の対象とするステージは、病気の時のみならず健康維持するための技術でもあるため、人間看護では健康とは何か、を知ることから学習するのだと思われる。

動物看護は、多くの者が、ともすると動物看護の対象が動物病院での治療中や、病気の時であるかのように思っていたため、健康維持することが動物看護の対象であることに気付いていなかったように思う。

しかし、動物看護は健康な動物を健康に維持できる技術が重要であるため、動物看護においても健康について学ぶことは大変重要なことと思われる。

健康とは・・・

- 1 最良から最悪の状態があり、連続性、流動性がある。
- 2 健康状態は、個体要因と外部環境とのダイナミックな相互作用によって成立する。
- 3 望ましい状態は、その人の機能が十分に発揮され自己実現を目指し環境に適応している状態。
- 4 基本的権利であり、個々が自らつくるもの

環 境

- 1 内部環境(個体)、外部環境(自然、社会、文化等)がある。
- 2 外部環境は、内部環境に直接的・間接的に作用し、健康状態を変化させる。
- 3 外部環境は人間生活によって影響を受ける。

29

環境について。

人間、生物が健康な生活を送ることができるためには快適な環境が必要となる。環境が動物の体に与える影響は多大である。ナイチンゲールは、人が病氣から治ろうとする力は、衛生的な環境から生じるとして空気、光、温度、湿度など環境の改善に尽力した。

環境

- 1 内部環境(個体)、外部環境(自然、社会、文化等)がある。
- 2 外部環境は、内部環境に直接的・間接的に作用し、健康状態を変化させる。
- 3 外部環境は人間生活によって影響を受ける。

看 護

- 1 看護はあらゆる成長・発達段階にある個人とその家族または集団を対象とする。
- 2 看護は人間関係を基盤として成立する。
- 3 看護はその人がその人らしくあるように、健康の増進、安らかな死に関わる。
- 4 看護は健康問題解決のために生活行動を支え、自立を目指す。
- 5 看護は専門職としての独自の機能とチーム内の調整の役割を担う。

30

看護について

まさしく看護学生は、この看護について学ぶことが本分となる。

- 1 看護はあらゆる成長・発達段階にある個人とその家族または集団を対象とする。
- 2 看護は人間関係を基盤として成立する。
- 3 看護はその人がその人らしくあるように、健康の増進、安らかな死に関わる。
- 4 看護は健康問題解決のために生活行動を支え、自立を目指す。
- 5 看護は専門職としての独自の機能とチーム内の調整の役割を担う。

今まで、獣医師が指導してきた動物看護学の中には、1に記されているような「看護はあらゆる過程にある個体を対象とする」という部分について語られなかったように思われる。

看護とは、病気の時にのみ介護するわけではなく全ての生活ステージにおいて関わりを持つことになる。

また、看護とは病氣を持っている人に治療や処置のような行動をして援助することではなく、いかに健康時に近い状態に自立できるようにするかを目指す。

獣医療現場においても、動物看護師は獣医師と飼い主との間を取り持つ役を担う存在である。

なぜ、この4概念か？

- ★人間 看護の対象である
- ★健康 看護がアプローチする視点である
- ★環境 健康を理解するために不可欠
- ★看護 学習の中核の本質に迫る

アメリカの看護教育学者がすべての看護学校のカリキュラムを調査した結果、この4概念が全学校のカリキュラムに共通して組み込まれていたことに気づく。

31

なぜ、まず、4つの概念について学ぶのか？

人間看護学を学ぶ立場として、人間そのものについて知ることは必須である。これを動物看護学に置き換えてみると、動物そのものを知ることは動物種による特性、生態系(飼育環境)、行動を知ることになるだろう。そのため、動物看護学を修めるのと同時に、これらについて学習することになる。

健康は、人間看護の目的とすることのため、健康について知識を持つことが重要である。動物看護学においては、とすると疾病や病的なことに関する学習をしていたが、看護が関わる時期が闘病中だけではなく健康な時でもあるわけなので、動物看護においても健康とはどんな状況をいうのか、ということを知っておくことは必要と思われた。

人は、環境を自ら変化させることもでき、最適な環境を求めて移動することもできるが動物は、与えられた環境に甘んじるしかない。与えられた環境の中で生きていく。家庭で飼育される動物は、飼い主が提供する環境が全てであるため、飼い主＝環境としても良いのではないかとと思われる。

これら4つの概念を教えることになった理由としては、アメリカの看護教育者が看護学校のカリキュラムを調査した結果、これらが全学校カリキュラムに共通していた、ということが判明したため。

動物看護の重要概念は？

- ・看護の対象は？
- ・動物と飼主？
- ・アプローチの視点は？
- ・動物の健康とそれに左右される飼主？
- ・アプローチの視点に大きく影響すること
- ・飼主宅周辺の環境？
- ・学習の中核の本質とは？
- ・動物と飼主の看護？

32

動物看護の重要概念は、

- ・看護の対象は・・・動物と飼い主
- ・アプローチの視点は？・・・疾病動物の看護のみならず健康維持と、それに左右される飼い主に対することが含まれるのではないかな？
- そのために、動物看護師は対人能力とコミュニケーション能力が必要になる。
- また、動物の健康管理や慢性疾患のケアは飼い主に行ってもらおうことになるので、いかに継続したモチベーションで実施してもらえるように指導できるか、という能力も加えて必要になる。
- ・動物看護は、もちろん動物の看護に必要な知識、技術を習得するが飼い主が動物の容体によって生活が左右される状態があるため、飼い主に対応できる技術が必要になる。

人間の看護実践に必要な要素

看護は実践の科学であり、技術の習得が必要である。

技術に備わっているべき要素として…

- 安全
- 安楽
- 自立

33

人間看護の実践に必要な要素として、技術の修得がある。
全ての技術に関係する要素としては、安全、安楽、自立。

動物看護の実践に必要な要素としての技術修得も必要であるが、
全ての技術に備わっているべき要素としては、
観察、安全、安心、自立としたい。

自ら訴えることができない動物の現状を分析するためには、観察が重要であり、観察した事実に基づいて仮説を立てる＝看護診断
この、仮説＝看護診断により、なぜ、この状態になっているのか、何が問題なのかを抽出し、それを解決するためにはどうしたらよいのか、ということを実践＝看護計画と実践を行う。
実践する時には、人看護では人が安楽である、と感じることができるように実践するが、動物の場合には安楽の表現ができないし、もし表現したとしても読み取ることが困難なため、安全な方法で実践した結果に関して、飼い主が安心できることが大切な要素と思う。
飼い主が安心して動物を任せられることによって、動物は通院することが可能になる。
動物の自立とは、食べる、排泄する、体の移動ができる、歩ける、グルーミングができるという行動ができることを目指す。

動物看護独自の考え方が必要

- 教育するためにはカリキュラムの中核になる概念を明確にする必要がある。動物看護の主要概念は？
- 看護は実践が伴うことが不可欠である。その実践では何に注目した方法を教育するかを考える必要がある。動物看護の実践に不可欠な要素は？
- 人間看護ではコミュニケーションが重要である。動物とのコミュニケーションの取りかたは、人間のコミュニケーションと異なるのでは？

34

動物看護独自の視点と考え方が必要である、ということが人看護と比較することによってわかった。

- カリキュラムの中核となる概念とはなにか？
- …動物を知る
健康とは何か、健康でいられるためにはどうしたらよいか？
看護の対象を知る
- 動物看護の実践に不可欠な要素とは何か？
- …観察する力
安全に実施できる技術
安心と感じてもらえる技術と接待
自立した生活ができる技術
感染予防技術
- 人間看護でのコミュニケーションの重要性と、動物看護におけるそれとの違いはあるのか？
- …①動物とのコミュニケーション
②飼い主とのコミュニケーション
2種類の能力が必要である。動物は好きだが、人間と接することが嫌いだから動物看護師や獣医師になりたい、という学生がいるが、動物看護師にとっては飼い主の接客は欠かせない業務となるため、人間関係に長けていることが必要とされる。

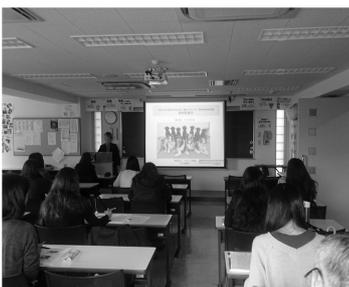
教育方法論

分かりやすい授業をしていくことを中心に

35

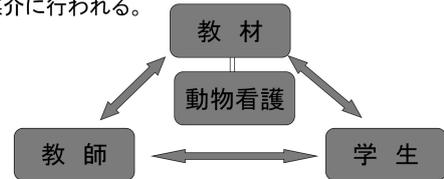
教育方法論

分かりやすい授業をするための方法論を学ぶ
(職域プロジェクト臨床系実証授業風景 札幌会場)



授業の成立要件

授業は、相対的に独立した学習主体としての学生の活動と教授主体としての教員の活動とが相互に知的対決を展開する過程であり、この知的対決は教材を媒介に行われる。



杉森みどり 看護教育学 P.243より

36

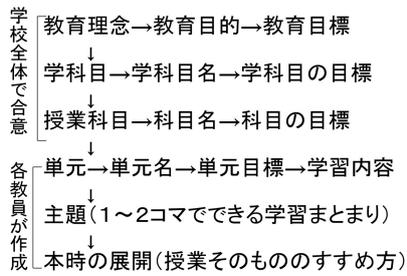
授業の成立要件

授業は、教材を媒介にして教師と学生との間で行われる知的対決である。伝統的な一方通行の対面授業は、教師から情報を一方的に与え、学生はそれを受動的に受けるという構図で行われている。しかし、一方的に聴くだけの場から吸収される知識は、能動的に参加し、また、自身が教える形態の授業においては格段の差が生じる。

この授業を動物看護学に置き換えてみると、「授業は、相対的に独立した学習主体としての学生の活動と教授主体としての教員の活動とが相互に知的対決を展開する過程であり、この知的対決は教材つまり動物看護そのものを媒介に行われる」ということになる。

授業は、一歩的なものではなく、動物看護そのものを媒介して教師と学生との間で行われる真剣な対決である。

授業の位置づけ



37

授業の位置付け

各教員が担当する部分は、本時の展開(授業そのもののすすめ方)をするために主題を考え、主題を決めるためには単元から学習内容を確認する。コマシラバスの活用ができる。

学校全体で合意しておく部分は、教育理念、教育目的、教育目標
学科目、名称、その目標
授業科目、名称、その目標

教育方法論 授業案作成の基本①

I 与えられた単元に関して深く考える。

1. 教材について自分なりの考えを整理する
→教材観
2. 学生のレディネス(準備状況)を把握する
→学習者観
3. 与えられた授業(単元)の指導方法についての考えを整理する→指導観
指導の方向性、配慮、価値観等

38

授業案作成の基本

各教員に与えられた単元に関して深く考える。

- 1・教材観とは、教材について自分なりの考えを整理すること
- 2・学習者観とは、学生の準備状況を把握すること
- 3・指導観とは、与えられた授業の指導方法について考えを整理すること



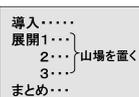
教育方法論 授業案作成の基本②

II 目標設定

単元の目標(到達目標レベル)

III 具体的計画立案

1. 取り上げる学習内容を抽出する
2. 学習内容を主題に整理する
3. 単元全体の時間配分を決める
4. 本時の展開をする



レクチャー中心か、グループワークか、
板書中心か、スライド活用か、資料配布か、
学習内容(教材)の配列検討、等

39

教育方法論 授業案作成の基本

授業の目標設定をし、
具体的計画を立案する

- 1・導入部分を考える
- 2・授業展開を考える...情報の提供と学習
- 3・まとめをする

上記について、時間配分を決める。

導入部分は、本時に興味を持って参加できるように学生の興味をひく大切な時間となる。

最後のまとめは、時間切れでそのまま終了してしまわないよう、本時のまとめ、振り返りをし、次回の予告をして終了できるように組み立てる。

教材とは何か？ 1

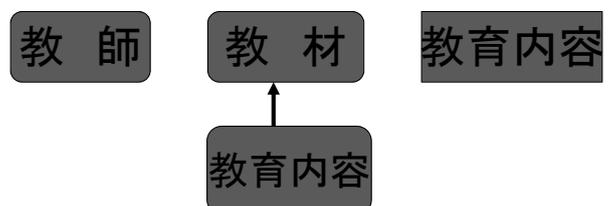
- 教育内容を教師が加工したもの
- 教育する内容を伝えるためのツールを指すこともある。その場合もそのツールで伝えようとする内容そのものを示す。
- 人間の看護学では、人間そのものを理解するために必要な内容、看護の考え方、看護技術、など。

40

教材とは何か

教材とは、テキストや教科書だけではなく、教育する内容を伝えるためのツールとして使われるもの全て(例:新聞記事、写真など)

教育課程(カリキュラム)に示されている教育内容を「特定の授業」の中で展開するとき使う材料全て。



その教材を何らかのツールに載せて学生に伝える技術を身に付けるこれを教育方法論という。

平成 26 年度「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」
 [獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]
 [職域プロジェクト(動物看護)]
 [臨床系科目検証 WG]
 [臨床動物看護学]実証授業 資料

授業展開例

2014/10/18 本時の展開 6コマ (1コマ=50分) 9:30~12:30 13:30~16:30

段階	時配	学 習 内 容	指 導 方 法	教材
1 … 導入コマ	50分 + 10分	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 本プロジェクトの概説 ➤ 本日の学習予定の提示 ➤ 資料確認 ➤ 評価者紹介 ➤ 受講者自己紹介 ➤ 講師自己紹介 ➤ 休憩 	<ul style="list-style-type: none"> • PPスライドで説明 • 配布資料 1) テキスト 2) PP 資料2種類 3) コマシラバス 4) 授業シート 5) 授業カルテ 6) 授業案 • 講師から紹介後、評価者自己紹介 • 受講者; VN や教員としての経歴など (後のGW 時のために) • PP スライド • 10分休憩 	<ul style="list-style-type: none"> • パワーポイントスライド • プリント
2 …	45分 + 10分 + 5分	I コマシラバス活用授業紹介 ① 昨年度成果説明 ② 今年度への応用 ③ コマシラバスの意味 ④ ID の紹介と活用法 ⑤ 学習目標の明確化 ⑥ 授業シートの意味 ⑦ 教え方を考える ⑧ ガニエの9教授事象 ⑨ 確認テスト(授業カルテ)の意味 ⑩ 評価 II 受講者の意見と感想交換	<ul style="list-style-type: none"> ● PP スライドで「コマシラバス等を活用した授業展開」を紹介する (45分) ● 受講者の意見交換をする: 1 回目のGW⇒各 G 代表者が意見発表 (10分意見交換) ⇒休憩5分 	スライド ・PP 資料
3 …	10分 + 30分 + 10分	I 前コマのGW 発表 II 「看護教育論・教育方法論」の紹介 ① 教育学とは? ② 動物看護教育学とは? ③ 動物看護とヒト看護の違いは?! ④ ヒト看護教育 ⑤ 動物看護の重要概念は何か ⑥ 動物看護独自の考え方 III GW	<ul style="list-style-type: none"> ● 各 G 代表者の発表 (10分) ● PP スライドで「看護教育論・教育方法論」を紹介する (30分) ● GW で⑤⑥について意見交換し代表者が発表 (10分意見交換) ⇒昼食休憩 60分 	スライド ・PP 資料

平成 26 年度「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」
 [獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]
 [職域プロジェクト(動物看護)]
 [臨床系科目検証 WG]
 [臨床動物看護学]実証授業 資料

4 ..	10分+30分+10分+10分+10分	I 前コマのGW 発表 II 「教育方法論」の紹介 ① わかりやすい授業をしていくことを中心に ② 授業案作成 ③ 教材とは何か III GW 意見交換と発表	<ul style="list-style-type: none"> ● 各G代表者の発表(10分) ● PP スライドで「教育論」を紹介する(30分) <p>・GW で意見交換する(10分) ⇒代表者の発表(10分) ⇒休憩10分</p>	スライド ・PP 資料
5 : 導入	10分	I 「臨床動物看護学」 動物看護学概論1～6	<ul style="list-style-type: none"> ● 「臨床動物看護学」でありながらなぜ動物看護学概論について学ぶのか、を説明する。 ● シラバスの確認を音読する 	スライド ・テキスト
展開 I	15分	1) 動物看護学概論1 ① 動物看護とは何か ② 動物看護の目的は	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床動物看護学は、動物が表わす症状別による看護や器官系別疾病の看護等を学ぶことになる。1年次に学習した動物看護学を復習する。特に動物看護過程の手順と技術を確実に身に付けることにより事例に対する臨場感を学ぶことができるようになる ● 動物看護とは何か、を再確認することにより動物看護の対象を再認識する ● 動物の全てのライフステージで健やかに過ごせるように対応することが看護の基本である ● 看護の対象に寄り添えるためには、獣医療チームの一員として疾病の知識、解剖生理学、カルテの理解などの知識が必要であることを強調する 	
展開 II	20分	2) 動物看護学概論2 ① 獣医師と動物看護師の仕事の違いは何か? ② 一枚の新聞記事中の写真を見て、意見を述べてもらう ③ 看護のイメージについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 獣医師の仕事は診察・診断・手術・予後判定であり病気を診ることであることの確認ができる ● 動物看護師にしかできないことは、動物全体を看ること。診ると看ることの違いを強調することで、二者の職域の対象が異なることが納得できるように語る ● 「人も食料も来なくなった」という記事写真を見て、全員に質問をする：個人に回答を求める＝(5分) ● 動物に対する思いがある学生がここで述べるその思いことが動物看護の心の基本ではないか、ということと共に確認し、刺激的なシヨットにより動物看護師を目指す学生の興味が本時に向けられるようにする ● 1年次に学習した動物看護学を見直し、各自が持つ動物への思いを確認し、看護のイメージにつなげる。 ● ヒト医療の看護の歴史をナイチンゲールからひもとき、看護のこころと有り方、専門職として動物看護師を観ることができるようにする。ナイチンゲールとハンダーソンの紹介をする 	

平成 26 年度「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」
 [獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]
 [職域プロジェクト(動物看護)]
 [臨床系科目検証 WG]
 [臨床動物看護学]実証授業 資料

	5分	④ まとめ	●
6:導入・復習	10分	3) 動物看護学概論3	● 日本動物看護職協会から 2009 に提出された「動物看護者の倫理綱領」の中に著されている言葉で動物看護師とは何か、を紹介する
展開Ⅰ	10分	① 改めて動物の看護とは何か、看護の対象の確認をする ② 動物看護の基本のまとめ	● 動物看護の基本的条件は、その動物がその動物らしく健康な生活が送れるように支援することである。そのためには看護対象の状況を適切にとらえる必要がある。 ● 動物看護のゴールとするものは、1:動物が安全な獣医療を受けられるよう。2:安心と感じてもらえるように対処する。3:動物が動物らしい生活ができるような行動を援助する
展開Ⅱ	25分	③ 動物看護の目的 ・健康とは? ・飼主との橋渡し ・動物看護師の視点 ・看護時に動物看護師に求められること ・臨床場面での動物看護師の役割 ・その他の場面で動物看護師の役割 ④ 30ページ 動物看護のまとめ 苦しみや辛さを持つ対象に対して、共感し寄り添うおうとする心が看護である	● 動物看護師が活躍する場面は、動物がどんな状況(ライフスタイル)の時でしょうか。私達は獣医療現場で働く動物看護師の姿を多く連想するが、それだけではなく動物が健康な時、病気の時、回復の時、終末期のどの場面にも介入できるということを強調する。 ● 健康とは病気でないだけではなく心身共に健やかで不快な点がないこと⇒WHO の提議も解説する ● 動物と飼主との橋渡しができるのは動物看護師であるということ強調する ● そういことができるような動物看護師になるためには、どんなことが必要なのかということ動物看護師の視点とすることを述べる ● 看護時にはどんな能力、技術が必要となるのか?を説明する ● 診療場面での動物看護師の役割は、何か、について問いかけてみる ● 一枚の入院中の犬の写真を見て、観察できた事項を発表してもらい、GW をする⇒全く言葉が通じない動物がいきなり動物病院に連れてこられた際の動物の立場に立って考えてみる。ここで動物看護師の第一歩を確認させられるようにする。動物看護師は動物の味方であるということ。 ● その他の場面で、飼主に対する気遣いは動物看護師の大きな担いであることを強調する ● 苦しみや辛さをぜん持つ対象に対して、共感し寄り添うおうとする心が看護であるが、これができるようにするための手順とは何か、そしてこの手順に興味を持って進めるように刺激する ● 動物に対して「何かをしてあげたい」という想いを可能にできる技術が必要であるが、漫然と実施するのではなく明確に整理し方言しているのが「看護過程」であることの紹介をし、次コマにつなげる

平成 26 年度「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」
[獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]
[職域プロジェクト(動物看護)]
[臨床系科目検証 WG]
[臨床動物看護学]実証授業 資料

まとめ	5分	⑤ これができるようになるためにはどんな技術が必要なのか?⇒動物看護過程に進む		
-----	----	---	--	--

<p>7 .. 展開 I</p>	<p>4) 動物看護学議論4</p> <p>① 動物看護過程とは何か?</p> <p>② 動物看護過程の基本は情報収集をするための観察力である</p> <p>③ SOAP モデルについて</p> <p>④ Orpet と Jeffery のアビリティーモデル 2007 について</p> <p>⑤ 事例で看護過程を考える</p> <p>⑥ 動物看護者の倫理綱領 2009</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物の看護は病気の処置だけでなく、全体的なケアの期間として病気を全体的に包むものであるということを強調する ● 動物看護師が高位平準化された継続的な内容を実施し、記録に残すことができる方法として採択されているのが看護過程である。 ● 看護過程という言葉を使い慣れていないので、手順について説明を丁寧にする必要がある ● アセスメント、看護診断、看護計画、ケアの実行、評価、アセスメントにもどる。この過程の各項目を今後例を挙げて解説できるようにする ● 観察しアセスメントする手順をまとめてあるのが SOAP という言葉。情報収集をする際の情報源は、飼主家族、動物自体、スタッフと関係者であることを説明する ● SOAP モデルはヒト遺漏の看護記録を作成するのに広く活用されている方式。S=主観的情報 O=客観的な情報 A=アセスメントすること。S と O とから考えられる看護上の問題点とそこから考えられる看護目標、看護計画などを記載することを解説する。P=プラン。計画し実施することを記録する。記録に残すことにより次回の担当者に理解してもらえるようにする手段であることを説明する。 ● 動物看護過程は、対象を観察し、理解し、看護の目的を遂行するために問題を抽出する過程であることを説明する。 ● 動物看護の目的は、その動物が安全に健やかに不快なことがなく“今”を過ごせ、延いては幸せな一生をまっとうできるように介助することを復習し、そうするために対象動物が今はどんな事ができて、何ができないのか、飼主家族の応諾度合い、経済的都合、宗教や文化的影響などを知っておくことが必要となる。 ● このモデルに沿って作成したアセスメントを元にして、現状の看護問題を抽出し、これを解決するための看護目標を立て、看護計画に沿って実行することになる手順を説明する。また、この項目に沿って飼主に質問をしたり、自分で観察を実施するということになるために繰り返しの練習が必要となる。チャンスがきたときにここを強調したい。 ● 事例を観、動物看護過程の展開を練習する。事例は、講師自身の体験や臨床経験により選択しても良い。スライドやテキスト上だけでは情報不足と思われるところは、講師が情報提供して練習をさせると良い ● 事例の動物看護過程の展開時、基本的な精神として「動物看護者の倫理綱領」が必要となる。本教科だけではなく動物看護者として必須となるものであることを説く。倫理綱領を解説し、分かりやすく説明しているテキストも出版されているのでそういうものを参考図書として取り揃えておくことも良い。 ● 常生活においても一般的になってきている精神なので暗記できるくらいの言葉にできるとよいだろう 	
------------------------------	---	--	--

平成 26 年度「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」
 [獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]
 [職域プロジェクト(動物看護)]
 [臨床系科目検証 WG]
 [臨床動物看護学]実証授業 資料

		<p>⑦ 「5つのフリーダム」精神の紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事あるごとに、教員は倫理綱領の存在をアピールし、動物看護師は、自分の行動に迷いを生じた時、他の医療従事者の行動に疑問を感じた時などにはこの倫理綱領に立ち戻って今の自分の行動を確認することが出来る、ということアピールしたい ● 道徳と倫理の違いを説明し、大変難しいことではあるが日常に関係ある例をあげて少しでも身近に感じてもらえるようにする <p>5つのフリーダムの精神は、元はヨーロッパの家畜の福祉を考えるために生まれた、ということから紹介したい。日常でも一般的になってきた概念であるので記憶するくらいにアピールできる</p>	教科書
8 ..	5)	<p>動物看護過程5</p> <p>① 動物看護技術とは何か？必要な要素とは？</p> <p>② 観察力の必要性を知る</p> <p>③ 事例をあげて動物の看護過程を実践してみる。</p> <p>④ コミュニケーションとはなにか？</p> <p>⑤ 笑顔の大切さ</p> <p>⑥ ユニフォームの伝えるもの、意味</p> <p>⑦ 動物病院のホスピタリティー</p> <p>⑧ HAB精神を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物看護技術とは何か？P59 動物看護技術は対象に安全な実施、受けた側が安心と感ずること、日常生活ができるようになる自立という明確な目的を持って行われる専門技術であるということを説明する ● 対象動物の現状を確認し情報を得るためには観察が必要となる。観察力を養い、アセスメントにつないでいくことが重要となる。 ● スライドの事例犬の現状を観察し、その観察からアセスメントをし、看護過程を展開する。 ● その時に必要になるのは、その診断についての知識。その知識の中からこの犬が少しでも快適な闘病ができるようになるための情報を得る。 ● 動物看護師として、あくまでもこの犬が健やかに辛く悲しい想いをしない生涯を全うできるようなことを考えてあげたい ● 動物とその飼主家族が健康的な生活を送れるように援助するためには、対象とのコミュニケーションが重要であることが充分伝わるように説明する ● 笑顔は重要な技術である。TPO に合わせた笑顔での対面が必要となることを説明する ● 相手から動物病院が信頼を得るためにはスタッフのユニフォームが示す役割が大きい。清潔感や信頼感を与えるためにも重要であることを例を用いて説明する ● 動物病院はサービス業であるので、選ばれる立場である。選ばれるためにはサービスが必要であることの意識を植える。医療＝サービス業という概念をアピールできるように説明する ● HAB の意味をよく理解できるように説明する。 	

平成 26 年度「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」
 [獣医療体制分野産学連携コンソーシアム]
 [職域プロジェクト(動物看護)]
 [臨床系科目検証 WG]
 [臨床動物看護学]実証授業 資料

9 ..		6) 動物看護学6 ① 動物看護師による飼主教育とはなにか? ② コンプライアンスとは? ③ 事例で考える	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物看護師は動物がいかに健やかな生活を送ることができるためにどのような事を指導したらよいか 	
まとめ	5分		<ul style="list-style-type: none"> ● 	

XXクラス 教科名：

カルテ

科目名：臨床動物看護学

1回10月26日

X年X期



講師名：山下真理子

臨床動物看護学

科名：臨床動物看護学 クラス番号： 氏名：

問題1 動物看護の目的とは？

解答1

問題2 動物の看護とは何か？

解答2

問題3 動物看護の基本とは？

解答3

問題4 動物看護の対象は何でしょう

解答4

問題5 健康とは？

解答5

問題6 人の看護婦（看護師）で、動物看護の規範となっている人二名の名前を教えてください

解答6

問題7 問題6の二名が説いた内容を教えてください

解答7

問題8 獣医師の職域と、動物看護師の職域の特徴を教えてください

解答8

問題9 診療場面での動物看護師の役割とはどんなことでしょうか

解答9

問題10 飼主家族に対して動物看護師の役割はどんなことがありますか

解答10

XXクラス

カルテ

回答編

科目名：臨床動物看護学
1回/3回 10月26日

X年X期

動物看護学

講師名：山下真理子

科名：臨床動物看護学 クラス番号： 氏名：

問題1	動物看護の目的とは？
解答1	動物看護の目的は、実在あるいは潜在するすべての健康問題に対する動物や飼主家族の反応を、看護上の問題点と判断し、介入すること。動物看護師は、看護の対象である動物と、飼主家族のために常に何が出来るかを考える。動物は健康な時でも病院に来るので、あらゆる健康レベルにある動物とその飼主家族に対して看護は行われる。全ての生活ステージにおける、その動物の一生を支えること。個々の動物の状況を理解し、個性をふまえた看護を行う。(インターズー：事例でやさしく解説 今からはじめる動物看護過程 松原孝子著：参照)
問題2	動物の看護とは何か？
解答2	動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に勤め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助すること(動物看護師の倫理綱領 参照)
問題3	動物看護の基本とは？
解答3	動物の安全、自立(自分で生活に必要な動作ができること)を基本とし、個性を持って看護する
問題4	動物看護の対象は何でしょう
解答4	動物と動物の飼主家族
問題5	健康とは？
解答5	健康とは、完全に身体、精神及び社会的に良い状態(安定)であることを意味し、単に病気でないとか虚弱でないとかを意味するものではない
問題6	人の看護婦(看護師)で、動物看護の規範となっている人二名の名前を教えてください
解答6	①フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン
問題7	問題6の二名が説いた内容を教えてください
解答7	①病気を診るのではなく病人を看よ ・観察力がなければいくら献身的であっても無用である ②病人であれ健康人であれ、各人が、健康あるいは健康の回復(あるいは平和な死)に資するよう行動するのを援助すること。その人が必要なだけの体力と意思力と知識とを持っていれば、これらの行動は他者の援助を得なくても可能であろう ・確認ができるだけ早く自立できるように助けることもまた看護の機能である
問題8	獣医師の職域と、動物看護師の職域の特徴を教えてください
解答8	・獣医師は、病気を診る(診断、治療、処方、予後) ・動物看護師は、病人を看る
問題9	診療場面での動物看護師の役割とはどんなことでしょうか
解答9	患者動物が、安全で安心して診療を受けられるために活躍する。①情報の収集により身体的、精神的、環境の問題は何かを考える ②獣医師からの指示を正確に実施できるようにする ③問題点は報告・連絡・相談する ④治療などは計画的に、看護計画に沿って実施 ⑤動物をよく観察し、症状や経過を記録・報告・連絡する ⑥個性を大切に看護
問題10	飼主家族に対して動物看護師の役割はどんなことがありますか
解答10	①動物への配慮とともに、飼主家族への気遣いも動物看護師の担当分野 ②来院時の気持ちを察し、不安、悩み、緊張、恐怖に対応する ③獣医師の説明が理解できているか? 治療方針に納得できているか? 自分の意見を言えているか? 重病とわかってショックを受けていないか? 生活環境に合った指示が出ているか? 指示内容が無理な注文になっていないか? を観察し対応する

1. 1. 3. 指導者講習の実施記録

(1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象）





1. 2. カリキュラムの開発について

1. 2. 1. コマシラバスの作成

次ページ以降に

(1) 動物看護学

(2) 動物栄養学

のコマシラバスを掲載する。

動物看護学

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)	
コース		小動物診療は、ますます高度化し、動物病院においては獣医師のほかに、「診療の補助行為をはじめとする種々の動物医療関連業務」に携わり、かつ飼い主に対する適切な世話や指導を行う動物看護師の重要性が大きくなってきた。単に獣医師の補助的サポートをするだけではなく、獣医師が為せる職域ではない「動物看護学」を学び、職域として確立する。動物看護師は、獣医師の業務である診断、処方、手術、予後の判定以外の多岐にわたる業務をこなさねばならない。「動物看護学」では、概論として動物看護とは何か、対象は何か、職域は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。まずは動物看護技術を身に付ける以前に必要な要素について概論で学び、動物看護師を目指す目的に向かってステップアップをする。	
履修条件			
ユニット			
科目名	動物看護学		
単位	1		
履修時間	15時間		
回数	15回		
授業形態	講義		評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員		筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる		
参考図書	①基礎動物看護学(インターズー)②基礎看護技術(インターズー)③動物看護師の倫理綱領2009(日本動物看護職協会)④今からはじめる動物看護過程(インターズー)⑤動物看護実践基準(インターズー)⑥動物看護実践ハンドブック(インターズー)⑦系統看護講座看護学概論(医学書院)⑧系統看護講座基礎看護技術Ⅰ(医学書院)⑨基礎看護技術Ⅱ(医学書院)		

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	基礎の動物看護学編 動物看護学概論①	1.シラバスとの関係	動物看護学の中で、動物看護の基本となる概念を学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護の本質を説明でき、動物看護の概念が説明できる動物看護学の基本となる概念を学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物・環境・健康・動物看護・人間を基にして、獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割を理解し、動物看護について考え探究する姿勢を修得する	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、を事例のスライド写真を見ながら考える。動物看護の目的を考える。今後の授業でグループワークをし、個人の考えではなくグループの意見を集約したりコミュニケーションを取って回答を構築していく作業をするのでグループの仲間作りをする。その上で、動物看護師は、動物がどんな時にだれのために、どんなことをするのかということがわかるようになる	
		5.次コマとの関係	動物看護師と獣医師の職の違いを知る	
2	動物看護学概論②	1.シラバスとの関係	動物看護学を学ぶ上で、業務を考える	
		2.コマ主題	動物看護師の業務と獣医師の業務の違いを確認する	
		3.コマ主題細目	動物看護師の業務には何があるのか、を考える。また、動物病院の中でチームとして活躍するためには獣医師しかできない職域の理解をしたうえで、動物看護師の仕事を考えてみる	
		4.コマ主題細目深度	獣医療における動物看護師の役割を考える。獣医師が病気を診ることが職務であるに対して、動物看護師は動物全体を看るのだ、ということに気が付くような学習をする。これは動物看護師にしかできないことであり、動物看護師は獣医師の補助役のみが職務でないことの確認を	
		5.次コマとの関係	動物看護の定義をし、それを助けるための知識としてヒトの看護の歴史を学ぶ	
3	動物看護学概論③	1.シラバスとの関係	動物の看護学を学ぶために人医療の看護師の先人を知	
		2.コマ主題	ナイチンゲールとヘンダーソン女史について学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物看護師もヒトの看護師のイメージに重なるところが多くあるため、ナイチンゲールとヘンダーソンの理論について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の実際、専門職としての看護技術の必要性を知る。ナイチンゲールの言葉の中から、全てに共通する看護技術として、観察力の必要性を学ぶ。ヘンダーソンの言葉を参考にして、技術を発揮する場面の状況を理解する。動物看護を行う上で必要な技術の意義を理解し、専門職としての動物看護技術について考えられるようにす	
		5.次コマとの関係	3回分のまとめと確認テストを実施する	
4	動物看護学概論④	1.シラバスとの関係	動物看護学が必要な場面とは、どんな場面なのか。そして動物看護師が活躍できるのはどんな時なのかを学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護が必要な時とは、どんな場面だろうか。動物看護師が活躍できる場面を考えて、理解できるようになる	
		3.コマ主題細目	動物看護師が活躍する場面は、動物の一生涯においてであり、獣医療が行われている臨床現場だけではないことを確認する。	
		4.コマ主題細目深度	動物の一生涯において動物看護の関わりを持つ場面にはどんなステージがあるのか、を確認してみる。看護の対象となる時期は、病気の時だけでなく健康な時には現状を維持し、更なる病気の予防をすること。病気の時には獣医療の補助及び二次的な疾患の発症を予測してそれを予防すること。回復時には、動物の日常生活の自立を助ける。そして回復のない終末期を迎える時には、苦しみのない平和な死を迎えられるように補助が必要になることを知る。死後の動物の体を美しくし、飼い主の悲しみを少しでも無くすることができるよう対応できることも動物看護師の大きな仕事であることを学習する	
		5.次コマとの関係	動物看護師が関わることがある動物の一生涯のステージを知った上で、次のコマで動物看護師の視点を学ぶ	

動物看護学

4	動物看護学概論⑤	1.シラバスとの関係	動物看護を実行する上で必要な動物看護師の視点について学べる
		2.コマ主題	動物看護師の視点とは何かを学ぶ
		3.コマ主題細目	動物看護師のプロの視点とは何か、を考えてみる。まず動物が今、どのステージにいるのか(一生涯の中のどのステージ)を見極めることが大切。
		4.コマ主題細目深度	動物が病んでいる時だけでなく全てのステージにおいて動物看護師がかかわれる部分がある。その関わりは、動物と飼い主家族にとって最上な内容であることが必要である。では、動物看護師にもっとも必要とされるものとは何か、を学ぶ
		5.次コマとの関係	このコマで学んだことは、次のコマでどのような場面でどのような事が求められるのかを学ぶ
6	動物看護学概論⑥	1.シラバスとの関係	診療場面での動物看護師の役割について知る
		2.コマ主題	事例写真をスライドで提示し、考えながら診療場面での動物看護師の役割について学ぶ
		3.コマ主題細目	事例を見ながら診療場面での動物看護師の役割を考える。動物病院に来院する動物は飼い主家族に伴われて来院する。そんな場面を想定し、来院した動物の気持ちを推測しながら動物看護師の役割について学ぶ
		4.コマ主題細目深度	動物病院の診療場面における動物看護師の役割について述べる。飼主家族に向けて行われる症状の聞き取りや獣医師からの診断名の説明、今後の治療方針などは動物には意味不明であり、いきなり見知らぬ場所の入院や治療手術などを受けることになる場合がある。そんな時の動物の気持ちや条件を考えながら、動物看護師が関わられることを探り、各自が納得できるように進む
		5.次コマとの関係	このコマで学んだ事を導入として、動物看護師をなぜ目指すことにしたのか、という各自の気持ちを振り返る。そして動物看護師として何かをしてあげたい、と思う気持ちを実行に移せるためには何が必要なのか、を次コマで学習する
7	動物看護学概論⑦	1.シラバスとの関係	動物看護を実行する上で必要な動物看護師の視点について知った上で、3回分の確認テストを実施
		2.コマ主題	概論のまとめと確認テスト
		3.コマ主題細目	概論のまとめと確認テストをし、動物看護とはなにかを総括する
		4.コマ主題細目深度	確認テストの実施と模範回答を配布し、答え合わせをする
		5.次コマとの関係	動物看護概論を確実なものとしたうえで、看護過程を知る動物看護を実践するために必要な、動物の看護過程について学ぶ意味を考える
8	動物の看護過程展開①	1.シラバスとの関係	動物の看護過程とは何か？を知る
		2.コマ主題	動物の看護過程の5つの校正要素について学習する
		3.コマ主題細目	私達が、動物にたいする想いを形にした(何かしてあげたい)と思うこと自体が動物看護であると思う。しかし、ただそれだけでは系統立てた対応ができないため、最適で安全な対応ができるようになるための手段として看護過程を学ぶ
		4.コマ主題細目深度	動物看護師が高準化された継続的な内容を実施し、記録に残すことができる方法として採用されているのが、看護過程ということになる。看護過程では、アセスメントすなわち個々の動物に対して体系的な情報を収集し、それを整理して分類判断をすることから始まる。良質がアセスメントができることが効果的な看護過程を作成し、看護展開ができることとなることを実感できるように学ぶ
		5.次コマとの関係	当コマで動物の看護過程の手順を知り、次コマで各項目についての詳細を知る
9	動物の看護過程展開②	1.シラバスとの関係	動物の看護過程とは何か？を知る
		2.コマ主題	動物の看護過程の5つの校正要素について学習する
		3.コマ主題細目	私達が、動物にたいする想いを形にした(何かしてあげたい)と思うこと自体が動物看護であると思う。しかし、ただそれだけでは系統立てた対応ができないため、最適で安全な対応ができるようになるための手段として看護過程を学ぶ
		4.コマ主題細目深度	動物看護師が高準化された継続的な内容を実施し、記録に残すことができる方法として採用されているのが、看護過程ということになる。看護過程では、アセスメントすなわち個々の動物に対して体系的な情報を収集し、それを整理して分類判断をすることから始まる。良質がアセスメントができることが効果的な看護過程を作成し、看護展開ができることとなることを実感できるように学ぶ
		5.次コマとの関係	当コマで動物の看護過程の手順を知り、次コマで各項目についての詳細を知る

動物看護学

10	動物の看護過程展開③	1.シラバスとの関係	動物の看護過程:展開を学ぶ(アセスメントと観察力)
		2.コマ主題	5つの構成要素について。アセスメントとは何か、を知る。アセスメントを実施する際に活用するSOAPモデルについて学ぶ
		3.コマ主題細目	アセスメントとは何か、を知る。アセスメントを実施する際に活用するSOAPモデルについて学ぶ事例を見ながら進看護過程を構成する5つの要素とは、アセスメント、看護診断(看護問題の明確化)、計画、実施、評価。アセスメントとは何か、を知り、SOAPモデルについて学ぶ。SOAPモデルは人医療の看護記録を作成するのに広く活用されている方式である。その詳細を学び、事例に活用できるように練習する。看護過程の基本は情報収集するための観察から始まる。様々な場面から対象となる動物に関する情報を集積する練習ができるが良い
		4.コマ主題細目深度	アセスメントを知ることから、情報の分析について学習する
		5.次コマとの関係	
11	動物の看護過程展開④	1.シラバスとの関係	動物の看護過程:展開を学ぶ(情報の収集と分析)
		2.コマ主題	情報を分析する道筋を考える。
		3.コマ主題細目	情報はそのまま存在しているだけでは看護にはつながらず、その意味を考えねばならない。情報の分析とは情報の意味を考えることであり、その情報から現状を知ることであるということ学ぶ
		4.コマ主題細目深度	情報の分析は、関連する情報を組織だてて集め、その意味を考えていく。全体像の把握をし、確実な分析のために求められることを学ぶ。
		5.次コマとの関係	情報の分析をし、次の看護問題を明確化する看護診断に進む
12	動物の看護過程展開⑤	1.シラバスとの関係	動物の看護過程の中の看護診断について学ぶ
		2.コマ主題	看護診断の意味を知る。診断は獣医師の職務であるが、動物の看護過程の中での診断という言葉の意味を確認する
		3.コマ主題細目	動物の看護過程の中の看護診断について知る。看護診断からは問題点を拾い出せること。SOAPモデルを活用した観察によりアセスメントを実施し、看護診断の結果拾い出された問題点を解決するためには何をどのように実践していったらよいか、がわかるようになる。アセスメントの結果をもとに、看護として解決していくべき問題(看護問題)を明らかにしてプロセスを看護診断とする。
		4.コマ主題細目深度	看護診断によって判明した問題点は、看護の目的(ゴール)となりえる部分である。患者動物が現状、何ができて何ができないから困っている、そして快適な生活ができていないということを知った上で、それを解決する計画を立てることができるようになる。動物がその動物らしく生活できる(自立)ための観察事項としては、「OrpetとJeffryのアビリティモデル2007」を活用できる
		5.次コマとの関係	看護計画を立てるために必要な「OrpetとJeffryのアビリティモデル2007」について学ぶ
13	動物の看護過程展開⑥	1.シラバスとの関係	「OrpetとJeffryのアビリティモデル2007」について学び看護計画に進む
		2.コマ主題	動物の看護過程を展開するために必要な「OrpetとJeffryのアビリティモデル2007」について知る。その後、看護計画を立てられるようにする
		3.コマ主題細目	情報を収集するために飼い主家族に質問することは重要であるが、質問事項に抜けがないよう系統立てた内容を作っておくことが必要となる。ここから看護計画を立てられるようにする
		4.コマ主題細目深度	「OrpetとJeffryのアビリティモデル2007」項目に沿って質問し、情報として活用して看護診断に進んだ。ここから問題点を拾い出してそれを解決できるような看護計画を立てる。この看護計画は、問題点を解決するための目標を設定して、これらを解決するための補助をどのように進めるかという事項を確認し、記録に残す。今すぐに対処せねばならないこと、緊急でないこと、など優先順位をつけて実施する。今後、これらから予測できる事態やおきるかもしれない症状を予測し、予防できることを考える。
		5.次コマとの関係	当コマで看護計画を知り、次コマでは看護の実行に進む

動物看護学

14	動物の看護過程展開⑦	1.シラバスとの関係	看護の実行と評価について。
		2.コマ主題	看護過程の中のケアの実行は、看護技術の提供する場面。看護技術が必要となる。実行の後は必ず評価を実施する必要がある
		3.コマ主題細目	実行は看護計画に沿って実際の看護ケア活動を提供していくこと。ここで実行されたことは常に評価されなければならない。どのような技術を提供し、どのような補助をするのか、どの結果どのようなことがおきたのか、現状がどうなのか、など誰もが正確に記録し、その時の担当者が不在であったとしても次の担当者が理解できることが必要となる。
		4.コマ主題細目深度	看護過程にそって実行されたケアについて、評価を行う。計画に準じたケアの実行となるが、日々の変化により実行した内容を評価して変更が必要であることを知る。期待される成果に到達できたか、対象者に実施してきた評価してもらうことが必要ということを知る。到達できた、とすればその看護問題は解決できたことになる。
		5.次コマとの関係	看護過程の展開について知った後で、事例で実際に看護過程の展開を実施してみる
15	動物の看護過程展開⑧	1.シラバスとの関係	動物の看護過程の展開を知り、概論のまとめと確認テスト
		2.コマ主題	まとめと確認テストの実施
		3.コマ主題細目	まとめと確認テスト実施
		4.コマ主題細目深度	確認テストを実施し模範回答をまとめとする
		5.次コマとの関係	

動物栄養学－1

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的ではあるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。また栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。
履修条件	動物栄養学－1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物栄養学－1	
単位	1(1～3合わせて3単位)	
履修時間	30時間(1～3合わせて75時間)	
回数	30回(1～3合わせて75回)	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物栄養学総論①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する 六大栄養素 六大栄養素と概論 到達目標は、六大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算、適切なフードの知識を知る。 次回からの総論として開始	
2	動物栄養学総論②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する 六大栄養素 六大栄養素と概論 表示や記載されていることで理解できること、知っていること、わからないことを認識する。 次回からの総論として開始	
3	基礎栄養学①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	動物栄養学の中の基本を知る 基礎栄養学 六大栄養素とその働きについて知る 六大栄養素とは何か？水、タンパク質、炭水化物、脂肪、ミネラル、ビタミン。総論として各栄養素を理解する。 次回からは、一つ一つの栄養素について学ぶ	
4	基礎栄養学②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	動物栄養学の中の基本を知る 基礎栄養学 六大栄養素とその働きについて知る 食物を構成する三、五、六大栄養素を理解、主要食品別の分布とその主な役割を知る。身近な食品の成分とカロリー表示を見る習慣を持つようしてみる。栄養素は、学問としてではなく私達の日常の知識であることを知る。 次回からは、一つ一つの栄養素について学ぶ	
5	基礎栄養素 水	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ 基礎栄養素：水 水について学ぶ あらゆる栄養素の中で最も重要で不可欠な水について。水の重要性と体内動態を理解し、標準的な給与量を説明できる。 六大栄養素の二つ目の蛋白質に進む	
6	基礎栄養素 タンパク質①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	六大栄養素の中のたんぱく質について学ぶ タンパク質について 他に代えられない重要な蛋白質の機能を理解する。 蛋白質の単位としてアミノ酸を理解し、動物種別に異なる必須アミノ酸の違いを説明できる。 六大栄養素の二つ目の蛋白質の消化吸収について学ぶ	
7	基礎栄養素 タンパク質②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ 基礎栄養素：タンパク質 タンパク質について学ぶ タンパク質は約20種類のアミノ酸からなる高分子化合物の総称。タンパク質の働き、アミノ酸の種類、消化吸収について学ぶ。 六大栄養素の三つ目の炭水化物に進むためにタンパク質を学ぶ	
8	基礎栄養素 タンパク質③	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ 基礎栄養素：タンパク質 体内でのアミノ酸代謝を学び、特に窒素動態を理解する。体内でのアミノ酸代謝を学び、特に窒素動態を理解する。窒素動態の基本(排泄)。進化の過程に応じた魚類～哺乳類の排泄の流れ。代表的なアミノ酸の理解(アルギニン、リジン、フェニルアラニン、チロシン、ヒスチジン、トリプトファン) 六大栄養素の三つ目の炭水化物に進む	

動物栄養学－1

9	基礎栄養素 炭水化物	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ
		2.コマ主題	基礎栄養素:炭水化物
		3.コマ主題細目	炭水化物について学ぶ。糖の動態と肥満、削瘦の関連性を理解する機能性食物繊維の理解し、肥満時、消化管疾患時などでの食物繊維の利点及び注意点を説明できる。
		4.コマ主題細目深度	炭水化物は、炭素、水素、酸素で構成される。その働き、消化吸収、推奨量について学ぶ。体内での糖類の動態と糖新生、草食獣の炭水化物利用について理解し、動物看護師が理解しなければならない範囲の広さとその深さを再認識する。
		5.次コマとの関係	六大栄養素の四つ目の脂肪に進む
10	基礎栄養素 脂肪	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ
		2.コマ主題	基礎栄養素:脂肪
		3.コマ主題細目	高エネルギー源としての脂肪の特徴とその長所と短所を説明できる。
		4.コマ主題細目深度	有機溶剤に可溶性で水に不溶性の物質を脂肪という。脂肪の働き、必須脂肪酸、飽和脂肪酸、脂肪の修理、脂肪の分類、消化吸収、推奨量について学ぶ。主な食材、脂質と脂肪、体内での役割、中性脂肪(トリグリセリド)、消化吸収(胆汁の重要性、)脂肪酸、基本的な化学的特徴、飽和と不飽和脂肪酸、油と脂(植物性と動物性)、酸化、過酸化脂質の毒性と賞味期限、保存方法、必須脂肪酸、 ω -6脂肪酸 ω -3脂肪酸とその割合、EPAおよびDHA(アラキドン酸、リノール酸)、猫とアラキドンについて学ぶ。
		5.次コマとの関係	今回は六大栄養素の五つ目ミネラルに進む
11	基礎栄養素 ミネラル	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ
		2.コマ主題	基礎栄養素:ミネラル
		3.コマ主題細目	主要な供給源、カルシウムとリンのバランス、細胞内外のナトリウムとリンの関係、マグネシウムとFULTDの関連性を知る。
		4.コマ主題細目深度	生体に含まれる元素のうち、炭素、水素、酸素、窒素を除いたものをミネラル(灰分、無機質)という。その働き、ミネラルの機能、微量ミネラルの機能と欠乏症、消化吸収、ミネラルの働きと推奨量について学ぶ。無機と有機、主要必須ミネラルと微量必須ミネラル、カルシウム、リン、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、塩素。各々の欠乏症及び過剰症を知り、ビタミンとの関連性を学ぶ。(鉄、亜鉛、マンガン、銅、ヨウ素、セレン)
		5.次コマとの関係	今回は、六大栄養素最後のビタミンにすすむ
12	基礎栄養素 ビタミン	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ
		2.コマ主題	基礎栄養素:ビタミン
		3.コマ主題細目	微量必須有機物としてのビタミン、脂溶性と水溶性、過剰症と欠乏症、IU(単位)。生態の機能や代謝に働きかけるビタミンの重要性を理解し、特に過剰症に関しての注意点を学び、毒性に関する理解を深める。
		4.コマ主題細目深度	ビタミンは体の構成成分やエネルギー源にならないが、微量でも生体の機能や代謝を円滑にする働きをする有機化合物である。その種類、働き、消化吸収、推奨量について学ぶ。生態の機能や代謝に働きかけるビタミンの重要性を理解し、特に過剰症に関しての注意点を学び、毒性に関する理解を深める。
		5.次コマとの関係	基礎栄養素の知識を元に次コマにすすむ
13	イヌとネコの栄養要求の違い ①	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について
		2.コマ主題	イヌとネコの栄養素のちがいは
		3.コマ主題細目	イヌとネコの必要な栄養素が違う訳 イヌは集団で狩りをするオオカミやコヨーテと近縁。ネコは乾燥した地域で進化した動物で、単独で狩りをする。生活液体の違いが狩りと栄養素の違いを産むことを知る。イヌとネコの生理的代謝の違いについて知る。雑食と肉食、味覚、蛋白代謝、食事頻度と一回量、特猫が絶食した時の影響について知識を持つ。
		4.コマ主題細目深度	基本的な構造を知った上で必要な栄養素の違いにすすむ
		5.次コマとの関係	基礎栄養素の知識を元に次コマにすすむ
14	イヌとネコの栄養要求の違い ②	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について
		2.コマ主題	イヌとネコに必要な栄養素の違い
		3.コマ主題細目	イヌとネコにどんな食事を与えたらよいか 食性や体の構造が異なるイヌとネコでは、必要な栄養素が異なる。健康維持のためにどんな食事を与えればよいか。
		4.コマ主題細目深度	イヌとネコの栄養素の特徴にすすむまえに総論を学ぶ
		5.次コマとの関係	イヌとネコの栄養素の特徴にすすむまえに総論を学ぶ
15	イヌとネコの栄養要求の違い ③	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について
		2.コマ主題	イヌとネコに必要な栄養素の違い
		3.コマ主題細目	イヌとネコにどんな食事を与えたらよいか イヌにはタンパク質を人より多く摂取する必要があるイヌは雑食。ネコは肉食。ネコには与える必要な栄養素とは何か。食べさせてはいけない食物とは何か。
		4.コマ主題細目深度	ライフステージ別の栄養管理に進む前の総論
		5.次コマとの関係	ライフステージ別の栄養管理に進む前の総論

動物栄養学－1

16	ライフステージ別の栄養管理 ①	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
		2.コマ主題	ライフステージ別に考える理由
		3.コマ主題細目	なぜ、ライフステージ別の栄養が必要なのか考えてみる
		4.コマ主題細目深度	ヒトと同じように、イヌもネコもそれぞれのライフステージによって必要となる栄養素の量が異なることを知る。ライフステージとは、年齢、生活状態、生理状態などを言う。
		5.次コマとの関係	ライフステージ別の栄養管理に進む
17	ライフステージ別の栄養管理 ②	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は繁殖期について
		2.コマ主題	繁殖期に必要な栄養管理について学習する
		3.コマ主題細目	繁殖期に必要な栄養管理について学習し、繁殖に携わるイヌやネコが健やかにすごせるように知識を習得する。
		4.コマ主題細目深度	繁殖期の動物たちは、栄養素によっては成長期以上の要求量を必要とする。良好な状態で妊娠を維持し、子イヌや子ネコの胎児期や新生児期の生育を最適にするためには、この時期の食事が重要になってくることを学習する。特に、妊娠期について学習する。
		5.次コマとの関係	繁殖期の授乳期に必要な栄養に進む
18	ライフステージ別の栄養管理 ③	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は繁殖期の授乳期について
		2.コマ主題	繁殖期の授乳期に必要な栄養管理について学習する
		3.コマ主題細目	繁殖期に必要な栄養管理について学習し、繁殖に携わるイヌやネコが健やかにすごせるよう知識を習得する。
		4.コマ主題細目深度	繁殖期の動物たちは、栄養素によっては成長期以上の要求量を必要とする。良好な状態で妊娠を維持し、子イヌや子ネコの胎児期や新生児期の生育を最適にするためには、この時期の食事が重要になってくることを学習する。特に、授乳期について学習する。授乳期は母体の維持に加えて、母乳を供給せねばならないため、ライフステージ中で最もエネルギーを必要とすることを理解する。
		5.次コマとの関係	繁殖期の授乳期に必要な栄養に進む
19	ライフステージ別の栄養管理 ④	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は成長期の授乳期について
		2.コマ主題	子イヌや子ネコの成長期には、どんなエネルギー源が必要となるのか、を理解できるようにする。
		3.コマ主題細目	子イヌや子ネコの成長期には、活動のためのエネルギー源と発達のためのエネルギーが必要であることを理解できる。
		4.コマ主題細目深度	子イヌや子ネコの成長期(哺乳中、離乳中)には、体の維持や活動のエネルギー源と栄養素のために必要となるエネルギーと、免疫系や身体構造、骨格の発達のために必要なエネルギーや栄養素が必要であることが理解できるようになる。
		5.次コマとの関係	離乳後の成長期に必要な栄養に進む
20	ライフステージ別の栄養管理 ⑤	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は成長期の哺乳後について
		2.コマ主題	子イヌと子ネコの離乳後の成長期に必要な栄養について理解する
		3.コマ主題細目	離乳後に必要な栄養管理について学習し、適切な成長を促すためにも、健康なイヌやネコに育てるためにも重要であることを理解する。
		4.コマ主題細目深度	離乳後の成長期の栄養管理で大切なのは、子イヌ子ネコの最適な成長を保ち、健康な成イヌ・成ネコに育てることである。この時期のエネルギー要求量の目安を計算でき、内容を理解できるようにする。
		5.次コマとの関係	維持期(成イヌ・成ネコ)期に必要な栄養に進む
21	ライフステージ別の栄養管理 ⑥	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は維持期について
		2.コマ主題	一般に成イヌ・成ネコ期とはいづごろまでの事をいうのかを理解できるようにする。
		3.コマ主題細目	成イヌ・成ネコにはそれぞれの栄養基準を満たした、維持期用の栄養が摂取できるような考え、理解できるように一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でないと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。
		4.コマ主題細目深度	成イヌ・成ネコにはそれぞれの栄養基準を満たした、維持期用の栄養が摂取できるような考え、理解できるように一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でないと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。
		5.次コマとの関係	繁殖期の高齢期に必要な栄養に進む

動物栄養学－1

22	ライフステージ別の栄養管理 ⑦	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は高齢期について
		2.コマ主題	加齢に伴う変化が現れる時期であることを理解した上で、必要な栄養を理解できるようになる。
		3.コマ主題細目	高齢のイヌとネコは、食事内容を変化することに対して頑固なところがあるが、加齢に伴う体調の変化に合わせて食事内容や栄養を考慮する必要がある。この意味を理解し、対応できるような知識を習得できるようにする。
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でないと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。
		5.次コマとの関係	ペットフードの表示の見方にすすむ
23	ライフステージ別の栄養管理 ⑧	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は高齢期について
		2.コマ主題	加齢に伴う変化が現れる時期であることを理解した上で、必要な栄養を理解できるようになる。
		3.コマ主題細目	高齢の犬と猫は、食事内容を変化することに対して頑固なところがあるが、加齢に伴う体調の変化に合わせて食事内容や栄養を考慮する必要がある。この意味を理解し、対応できるような知識を習得できるようにする。
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でないと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。
		5.次コマとの関係	ペットフードの表示の見方にすすむ
24	ペットフードの表示の見方①	1.シラバスとの関係	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようにする
		2.コマ主題	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料などの情報が表示されていることが理解できる。
		3.コマ主題細目	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料、給与方法、原産国、賞味期限などの情報が明記されていることを知り、その意味が理解できるようにする。
		4.コマ主題細目深度	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料、給与方法、原産国、賞味期限などの情報が明記されていることを知り、その意味が理解できるようにする。
		5.次コマとの関係	パッケージやラベルに表現されている事の意味が理解できたので、実際の商品をいろいろとみてる。
25	ペットフードの表示の見方②	1.シラバスとの関係	パッケージやラベルに表現されている事の意味が理解できたので、実際の商品をいろいろとみてる
		2.コマ主題	実際のいろいろな商品を見て、ラベル上の情報を読み取る練習をする。
		3.コマ主題細目	ラベルやパッケージには様々な情報が提示されており、また、そのデザインによって売れ行きに影響ができることがあるので、さまざまな商品を見比べてみる。
		4.コマ主題細目深度	ペットフードのいろいろを見比べて見て、そこに表現されている情報を比較検討してみる。臨床の場で、質問を受けた時に情報を読み取ることができ、対応できるように練習しておく。
		5.次コマとの関係	BCS評価ができるようになるための学習にすすむ
26	BCS評価とカロリー計算の仕方 ①	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要である。
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物がどんな栄養度にあるかを理解できる必要がある。その観察方法を知る。
		3.コマ主題細目	各動物の栄養状態を客観的に表現できる方法を学習する
		4.コマ主題細目深度	食事管理を行うには、まずその動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。BCSとは何かを理解し、その上で、与える食事がどのくらいのエネルギーを持つのか、動物自身のエネルギー要求量はどのくらいなのか、を理解し、計算方法を習得し、活用できるようにする。
		5.次コマとの関係	カロリー計算ができるようになる
27	BCS評価とカロリー計算の仕方 ②	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要である。
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要である。
		3.コマ主題細目	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要であり、臨床の場でも、飼主家族からの相談のあった時にでも計算ができるようにしておく。
		4.コマ主題細目深度	動物のエネルギー要求量には個体差がある。年齢や繁殖状態、環境、性別、活動レベルなどによって差が出てくるので、個体別の状態に見合ったカロリー計算ができるようになる。
		5.次コマとの関係	個体が必要としているエネルギー量(食事の量)が計算できるようにする

動物栄養学－1

28	BCS評価とカロリー計算の仕方③	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要なので、様々なパターンを事例として練習する。
		3.コマ主題細目	食事管理を行うためには、その動物が必要としているカロリー計算ができることが必要であり、臨床の場でも、飼主家族からの相談のあった時にでも計算ができるようにしておく。
		4.コマ主題細目深度	動物のエネルギー要求量には個体差がある。年齢や繁殖状態、環境、性別、活動レベルなどによって差が出てくるので、個体別の状態に見合ったカロリー計算ができるようになる。様々な事例を挙げてその動物が必要としている最適な食事量やカロリーを計算し、提示できるようになる。
		5.次コマとの関係	ペットフードには種類が多数あることを理解する
29	ペットフードの種類①	1.シラバスとの関係	ペットフードの種類があることを理解する
		2.コマ主題	目的別のフードを理解する
		3.コマ主題細目	目的別にペットフードがあることを理解する。目的別のフードの内容について知識を習得し、飼主家族に説明できるようになる。
		4.コマ主題細目深度	目的別にペットフードがあることを理解する。目的別のフードの内容について知識を習得し、飼主家族に説明できるようになる。総合栄養食の特徴を理解し、その他のフードにはどんなものがあるのかを知識として習得する。
		5.次コマとの関係	ペットフードの種類とともに、全体のまとめにすすむ
30	ペットフードの種類②	1.シラバスとの関係	ペットフードの種類があることを理解する
		2.コマ主題	目的別のフードを理解する
		3.コマ主題細目	ペットフードには、ライフステージ別、機能別(肥満対策、歯石ケア、ネコの毛球対策などに配慮したフードがあり、今後、各論でまなぶ疾患別による栄養特性を理解することにつながるように学習する。
		4.コマ主題細目深度	ペットフードには、ライフステージ別、機能別(肥満対策、歯石ケア、ネコの毛球対策などに配慮したフードがあり、今後、各論でまなぶ疾患別による栄養特性を理解することにつながるように学習すると共に、フードの与え方にはどんな技術があるのかを理解する。
		5.次コマとの関係	「動物栄養学2」疾患別栄養管理にすすむ

動物栄養学－2

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		本教科では、「動物栄養学－1」で学んだ基礎知識を活用して、栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。疾患別の管理については、市販の療法食を活用することが多いため、その療法食の特性を理解し、獣医師の指導のもとで使用することの確認と、必ず定期的な指導のもとで使用することを周知させる必要がある。動物看護師は、獣医師の診断内容と栄養学的な内容を理解し、その疾患に関連する解剖学や生理学の知識を復習して、栄養学および食事の指導をする。
履修条件	動物栄養学－1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物栄養学－2	
単位	1(1～3合わせて3単位)	
履修時間	30時間(1～3合わせて75時間)	
回数	30回(1～3合わせて75回)	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	各論として動物の栄養管理を、疾患別にみる 療法食と疾患別による栄養特性を理解するために局所解剖と疾患について復習する 動物病院に来院する疾患を持った動物の、治療において栄養管理は大きな役割を果たすことが少ない尿路系について学ぶ。 イヌやネコにおいて多い疾患の内では尿路結石、猫下部尿路疾患についてその特徴や栄養管理で注意が必要な点について学ぶことができる。下部尿路疾患とは、膀胱から尿道までに発症する病気の総称のこと。原因と症状について復習しながら学ぶ。 下部尿路の解剖学的知識を持って、尿路結石症に必要な食事管理に進む	
2	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	各論として動物の栄養管理を、疾患別にみる 特別療法食と疾患別による栄養特性として、尿路結石および猫下部尿路疾患を理解した上で食事管理を学ぶ。 飲水量が減ると尿量も減り、尿中の血漿生成塩類濃度が高くなることから始まる現象について知る。 結石が形成される仕組みを知ることにより、そうならないための食事管理の指導ができるようになる。それぞれの原因を知り、それを改善するための療法食の適正を知り、指導できるようになる。 尿路結石症の食事の与え方について学ぶ基礎となる	
3	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患③	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	各論として動物の栄養を、尿路疾患に関するものとしてみ 特別療法食と疾患別による栄養特性として、尿路結石および猫下部尿路疾患を理解した上で食事管理を学ぶ。 尿のpHと食事時間の関連を知り、食事の回数等について学ぶ。 尿のpHと食事時間の関連を知り、食事の回数等について学ぶ。自由採食法とストルバイト結晶形成の関係や、ダルメシアンに多い尿酸塩尿路結石症について知ることができる。 疾患別の食事管理として心臓疾患を知る	
4	各論：心臓病①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	各論として動物の栄養を、疾患別にみる 栄養管理を学ぶ前に、心臓について局所解剖と心臓病について復習する。心臓は酸素や栄養素を全身に運ぶ血液を送り出している。そのため心臓病になると全身に様々な障害がおきることを理解できるようになる。 栄養管理を学ぶ前に、心臓について局所解剖と心臓病について復習する。心臓は酸素や栄養素を全身に運ぶ血液を送り出している。そのため心臓病になると全身に様々な障害がおきることを理解できるようになる。 心臓の局所解剖、機能と生理を復習し、そのような機能を持った心臓が障害をもった時に起きてくる可能性を考えられるようになる。心臓の障害によって次に起きてくることを予想できるようにする。 疾患別の食事管理として心臓疾患を知った上で、代表的な心臓病について学ぶ。	
5	各論：心臓病②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	心臓疾患に関する動物の栄養を理解する 特別療法食と疾患別による栄養特性として、心臓病を理解した上で食事管理を学ぶ。 代表的な心臓病を理解する 代表的な心臓病を知った上で心臓病を持ったイヌとネコに適した食事とはどんな内容なのかを理解する。 心臓疾患を持った動物の栄養管理ができるために、疾患について学んだので、次は栄養管理について知る。	
6	各論：心臓病③	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	心臓疾患に関する動物の栄養を理解する 心臓疾患の食事の与え方について理解する 慢性心不全の食事管理を学習する 慢性心不全の食事管理では、心臓の負担軽減と浮腫やうっ血状態の改善を目標とする。適正なエネルギー摂取とナトリウム制限が必要なことを理解できるようになる。 次は、消化器系疾患の食事管理に進む	

動物栄養学－2

7	各論: 消化器病①	1.シラバスとの関係	消化器系疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患の原因と症状について知るのに必要な局所解剖と機能生理学を復習する。
		3.コマ主題細目	代表的な消化器系疾患の原因と症状について知るのに必要な局所解剖と機能生理。学を復習することにより、各部の症状と疾患の原因が理解できるようになる。
		4.コマ主題細目深度	代表的な消化器系疾患の原因と症状について知るのに必要な局所解剖と機能生理学を復習する。その上で各部の症状と疾患の原因を理解できるようにする。
		5.次コマとの関係	復習した知識を元にして消化器病の栄養管理に進む
8	各論: 消化器病②	1.シラバスとの関係	消化器系疾患に関する動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	口腔・食道・胃の消化の仕組みと各疾患の食事管理について知る
		3.コマ主題細目	口と胃では主に物理的な消化が行われる。口腔から食道までの疾患と食事管理について学習する。
		4.コマ主題細目深度	消化器病の原因には、寄生虫・ウイルス・細菌感染・ストレスなど様々であるが、それぞれについて学習をする。原因を知ることにより、その予防法も知ることとなり、健全が食生活が維持できるような管理ができるようになる。口腔、咽頭、食道疾患の食事管理について学習する。
		5.次コマとの関係	消化器の部位による消化と生理機能を知ることによる疾患と、食事管理ができる。
9	各論: 消化器病③	1.シラバスとの関係	胃疾患に関する動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	胃疾患に関する動物の栄養を理解する
		3.コマ主題細目	胃炎、胃拡張、胃捻転の症状と原因を知った上で、その食事管理を学ぶ。
		4.コマ主題細目深度	胃炎、胃拡張、胃捻転の症状と原因を知った上で、その食事管理を学ぶ。胃炎の食事管理は嘔吐のある疾患の代表的な管理となるため全ての基礎として理解できるようになる。嘔吐と吐出の相違について理解できる。
		5.次コマとの関係	胃疾患の代表的症状は嘔吐であるが、腸管の代表的症状は下痢であり、腸管疾患に進む。
10	各論: 消化器病④	1.シラバスとの関係	胃疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	小腸の消化・吸収のしくみを知り、食事管理について知る
		3.コマ主題細目	小腸の消化・吸収の仕組みを知り、代表的な疾患の症状と原因を知り、その栄養管理について理解できる。
		4.コマ主題細目深度	小腸の消化・吸収の仕組みを知り、代表的な疾患の症状と原因を知り、その栄養管理について理解できる。
		5.次コマとの関係	膀胱疾患とその栄養について知る
11	各論: 消化器病⑤	1.シラバスとの関係	消化器系疾患に関する動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	膀胱と大腸の疾患とその食事管理について理解できる
		3.コマ主題細目	膀胱の疾患として膀胱炎、大腸炎の食事管理について理解できる
		4.コマ主題細目深度	膀胱炎について症状を理解した上で食事管理ができるようになる。大腸の吸収の仕組みについて理解し、大腸疾患のうち、大腸炎について理解し、便の以上について理解できるようになる。便の異常について栄養管理をする。
		5.次コマとの関係	次の疾患に関する栄養について理解する
12	各論: 腎臓病①	1.シラバスとの関係	腎臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	腎臓の局所解剖と機能生理を知る
		3.コマ主題細目	尿が生成される過程を知り、腎臓の機能を復習する
		4.コマ主題細目深度	腎臓の解剖、機能生理を復習することにより、障害を受けた時の腎障害の症状を理解する。
		5.次コマとの関係	腎臓疾患を理解する上で解剖、機能生理を学ぶ
13	各論: 腎臓病②	1.シラバスとの関係	腎臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	代表的な腎臓疾患について知る
		3.コマ主題細目	腎臓での老廃物の処理、排泄について理解し、代表的な疾患を理解できる。
		4.コマ主題細目深度	フードの嗜好性と受容性を理解できる。ペットフードの適切な取り扱いを理解できるようにする。
		5.次コマとの関係	代表的な疾患を知り、その栄養管理について学習できるようにする
14	各論: 腎臓病③	1.シラバスとの関係	腎臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	急性腎不全、慢性腎不全について知り、栄養管理について知ることができる。
		3.コマ主題細目	腎不全の食事管理について知識を習得し、慢性腎不全は長期に管理が必要になるため、飼主家族に指導できるようになる。長期の闘病になる時には、飼主家族に納得して実施してもらえるためによりになる。
		4.コマ主題細目深度	腎不全の食事管理について知識を習得し、慢性腎不全は長期に管理が必要になるため、飼主家族に指導できるようになる。長期の闘病になる時には、飼主家族に納得して実施してもらえるためによりになる。
		5.次コマとの関係	次の肝臓病の栄養管理について学ぶ

動物栄養学－2

15	各論：肝臓病①	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する前に、肝臓の解剖と機能生理について復習する。
		3.コマ主題細目	肝臓は、栄養の代謝、毒性物質の解毒、その他多くの機能を持つ臓器であることを理解する
		4.コマ主題細目深度	肝臓は、栄養の代謝、毒性物質の解毒、その他多くの機能を持つ臓器である。多くの栄養素が消化吸収されて到達する臓器である。沈黙の臓器、といわれる由縁も知ることができる。
		5.次コマとの関係	肝臓の機能を知ることにより、主な疾患を次で理解する
16	各論：肝臓病②	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	代表的な肝臓疾患の原因と症状を知る
		3.コマ主題細目	肝臓病の原因と症状を知る。原因は、ウイルス、細菌感染、有害物質や薬物の摂取、心臓の先天性疾患との関連、犬種による特異性など。
		4.コマ主題細目深度	肝臓病の原因と症状を知る。原因は、ウイルス、細菌感染、有害物質や薬物の摂取、心臓の先天性疾患との関連、犬種による特異性など。原因とともに症状を知る。
		5.次コマとの関係	肝臓の機能を知った上で、次のコマで機能障害の影響について学ぶ
17	各論：肝臓病③	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	肝臓機能障害が身体に及ぼす影響について理解する
		3.コマ主題細目	肝臓は栄養素の代謝において重要な臓器であるため肝機能が低下すると様々な悪影響が現れる。
		4.コマ主題細目深度	肝臓は栄養素の代謝において重要な臓器であるため肝機能が低下するとタンパク質、アミノ酸、炭水化物、脂質、ミネラル、ビタミンなど様々な悪影響が現れることを学習する。
		5.次コマとの関係	基本知識を学習した上で、肝臓疾患の栄養管理について次コマで学習できる
18	各論：肝臓病④	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する
		2.コマ主題	肝臓病の栄養管理について学ぶ
		3.コマ主題細目	肝臓疾患の動物の維持エネルギー要求量について学習し、適切な食事内容を理解できるようになる。
		4.コマ主題細目深度	肝臓疾患の動物の維持エネルギー要求量について学習し、適切な食事内容を理解できるようになる。適切なエネルギー供給は、体タンパク質異化によるアンモニア生成を避けるためにも重要であり、食欲不振になる動物も多いので、少量でも十分なエネルギーが得られるよう密度の高い食物を与えることが必要であることを知る。
		5.次コマとの関係	次の口腔疾患の栄養管理に進む
19	各論：口腔疾患①	1.シラバスとの関係	口腔疾患と栄養管理について学ぶ
		2.コマ主題	口腔疾患として、歯周病をあげる。
		3.コマ主題細目	歯周病は、食欲不振を引き起こすだけではなく多くの臓器の健康にも影響を及ぼすことを理解する。
		4.コマ主題細目深度	歯周病は、食欲不振を引き起こすだけではなく多くの臓器の健康にも影響を及ぼし、全身の健康に悪影響を与える。感染した細菌が心臓や肝臓、腎臓など主要な臓器に影響を及ぼすことを理解できる。
		5.次コマとの関係	歯周病の原因と症状を知るコマにすすむ
20	各論：口腔疾患②	1.シラバスとの関係	口腔疾患と栄養管理について学ぶ
		2.コマ主題	歯周病の原因と症状について理解できる
		3.コマ主題細目	歯周病の原因と症状について理解し、歯周病の進行について知ることができる。歯肉炎と歯周炎の違いを理解し、歯周炎の進行について学習する。
		4.コマ主題細目深度	歯周病の原因と症状について理解し、歯周病の進行について知ることができる。歯肉炎と歯周炎の違いを理解し、歯周炎の進行について学習する。
		5.次コマとの関係	歯を含めた口腔内の健康に良い食物が全身の健康に良いことを次コマで知る
21	各論：口腔疾患③	1.シラバスとの関係	口腔疾患と栄養管理について学ぶ
		2.コマ主題	歯、口腔内を含めて全身の健康にとってよい良い食物について理解できる。
		3.コマ主題細目	成犬、成猫期(維持期)の栄養管理。食物と歯について、食物と歯の関係について。歯石は外科的な処置をして除去するが、初期の歯垢は歯磨きや食事の形態でコントロールできることもあることを理解できる。食物の形状、食事の仕方、種類について知ることができる。
		4.コマ主題細目深度	成犬、成猫期(維持期)の栄養管理。食物と歯について、食物と歯の関係について。歯石は外科的な処置をして除去するが、初期の歯垢は歯磨きや食事の形態でコントロールできることもあることを理解できる。食物の形状、食事の仕方、種類について知ることができる。
		5.次コマとの関係	次は、高齢期にすすむ
22	各論：糖尿病①	1.シラバスとの関係	糖尿病の栄養管理について学ぶ
		2.コマ主題	糖尿病の仕組みについて知るために膵臓の解剖、機能生理について学ぶ
		3.コマ主題細目	糖尿病は生活習慣病の一つ。薬物療法と共に、治療の基本となる食事管理の重要性を認識するための知識を得る。
		4.コマ主題細目深度	糖尿病は生活習慣病の一つ。薬物療法と共に、治療の基本となる食事管理の重要性を認識する。膵臓の局所解剖と機能生理について復習する。
		5.次コマとの関係	糖尿病の仕組みと症状について知る

動物栄養学－2

23	各論：糖尿病②	1.シラバスとの関係	糖尿病の栄養管理について学ぶ
		2.コマ主題	糖尿病の仕組みと症状について知る
		3.コマ主題細目	臓器と糖尿病の関係について理解できる
		4.コマ主題細目深度	食後、消化吸収されて血液中に入ったブドウ糖がエネルギー源として利用されるまでの過程について知る。糖尿病の原因、症状、タイプについて理解できるようになる。
		5.次コマとの関係	糖尿病の食事管理について次コマで理解できる
24	各論：糖尿病③	1.シラバスとの関係	糖尿病の栄養管理について学ぶ
		2.コマ主題	糖尿病の食事管理について理解できるようになる
		3.コマ主題細目	インスリン非依存性糖尿病とインスリン依存性糖尿病の食事管理について理解できるようになる。
		4.コマ主題細目深度	食事管理をするためには、まず、その動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。その上で、与える食物がもつエネルギー要求量を算出し、活用する必要がある。BCSを正しく評価活用できるように学ぶ。
		5.次コマとの関係	次は、食物アレルギーについて理解できるようにすすむ
25	各論：食物アレルギー①	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる
		2.コマ主題	食物アレルギーの原因と症状について知る
		3.コマ主題細目	食物アレルギーの原因を知り、何がその動物のアレルゲンになっているかを調べる方法について学ぶ。食物アレルギーの症状について理解できるようになる。
		4.コマ主題細目深度	食物アレルギーの原因を知り、何がその動物のアレルゲンになっているかを調べる方法について学ぶ。食物アレルギーの症状について理解できるようになる。また、アレルギーの症状を知り、類似する症状を呈する皮膚疾患との類焼鑑別をすることが必要であることを学ぶ。
		5.次コマとの関係	食物アレルギーの仕組みについて次シラバスで知る
26	各論：食物アレルギー②	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる
		2.コマ主題	食物アレルギーの仕組みについて理解できる
		3.コマ主題細目	食物アレルギーの仕組みについて理解できる。
		4.コマ主題細目深度	食物アレルギーは、食物に含まれるタンパク質が原因になっておこることが多い。アレルゲンの構造や分子の大きさによってひきおこされるとされるなどについて理解できるようになる。
		5.次コマとの関係	食物アレルギーの食事管理について次コマで学習する
27	各論：食物アレルギー③	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる
		2.コマ主題	食物アレルギーの食事管理について理解できる
		3.コマ主題細目	アレルゲンを見つけるための方法を理解する
		4.コマ主題細目深度	アレルゲンを見つけるための方法を理解する。動物が日常的に摂取する食物やそのほかの口に入れるものを、飼主家族にリストアップしてもらう。その具体的な方法を知り、改善するための食事管理について理解できるようになる。
		5.次コマとの関係	食物アレルギー除去食について次コマで学習する
28	各論：食物アレルギー④	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる
		2.コマ主題	除去食について理解する
		3.コマ主題細目	除去食には手作り食と療法食があることを知り、その内容について学習する。
		4.コマ主題細目深度	除去食には手作り食と療法食があることを知り、その内容について学習する。手づくり食のメリットとデメリットについて知ることができる。除去食を与える時の注意点を説明できるようになる。
		5.次コマとの関係	次の疾患別の栄養管理に進む
29	各論：関節炎①	1.シラバスとの関係	関節炎を持つ動物の栄養管理について理解できる
		2.コマ主題	関節炎のしくみについて理解する
		3.コマ主題細目	関節炎を理解するために関節や骨の解剖と機能生理について学習する。
		4.コマ主題細目深度	関節炎のしくみについて理解できる。
		5.次コマとの関係	関節炎の原因と症状を次のコマで知る
30	各論：関節炎②	1.シラバスとの関係	関節炎を持つ動物の栄養管理について理解できる
		2.コマ主題	関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。
		3.コマ主題細目	関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。慢性疾患のため長期的な管理が必要になることを理解する。
		4.コマ主題細目深度	関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。慢性疾患のため長期的な管理が必要になることを理解できた上で、関節炎を持つ動物の栄養管理が出来るようになる。
		5.次コマとの関係	引き続き「動物栄養学3」疾患別栄養管理について学ぶ

動物栄養学－3

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		獣医療の発展により、人間と同様に動物たちの寿命が劇的に伸びる一方、高齢化に伴う慢性疾患の増加が、獣医療における課題の一つとなっている。人々の動物に対する関心は、医療ばかりでなく、「食」に対してもある。「医食同源」の言葉があるように、「食」すなわち栄養は疾病の予防や日々の健康管理に密着しており、発病時の栄養指導は動物看護師の活躍の場である。獣医師の指導下で、疾病別の適切なフードのタイプ、給与回数、給与方法を理解し、家庭での栄養指導を行い、また、飼い主が関心を寄せる動物栄養学の知識と飼い主への指導を行うことが、動物看護師の礎となるよう修得する。また、ペットフード自体についても関心を持ち、適切に指導ができるための知識を持つよう学習する。
履修条件	動物栄養学－1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	動物栄養学－3	
単位	1(1～3合わせて3単位)	
履修時間	15時間(1～3合わせて75時間)	
回数	15回(1～3合わせて75回)	
授業形態	講義・演習	
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本(インターズー)	
		評価方法
		筆記試験

50分/コマ		コマシラバス		教材・教具
コマのテーマ	項目	内容		
1	各論：がん①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ	
2	各論：がん②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ	
3	各論：がん③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(脳の加齢を認知障害)	
4	各論：脳の加齢を認知障害①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	脳の加齢による行動異常と機能低下を知る	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。フリーラジカルによるダメージは、どんな機能を低下させるかを理解する。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(脳の加齢を認知障害)	
5	各論：脳の加齢を認知障害②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	認知機能の低下について理解する	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。認知機能の低下を示す症状を挙げ、他の疾患と区別することが難しい現実を知る。少しでも進行を遅らせる栄養的手段があるのかどうか、学習する。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(脳の加齢を認知障害)	

動物栄養学－3

6	各論：脳の加齢を認知障害③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について
		3.コマ主題細目	老化のメカニズムの中で、フリーラジカルについて理解する
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見逃されてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。フリーラジカルのメカニズムを知り、栄養学的解決法があるのかを学習する。
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(肥満)
7	各論：肥満①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	動物の肥満とはどういう状態かを理解する
		3.コマ主題細目	肥満の原因と判定について知る
		4.コマ主題細目深度	肥満の原因を学習する。肥満とは体脂肪が繁盛した状態を指す。多くの場合、摂取したエネルギー量が消費したエネルギー量を上回ることで起こる。肥満を良く知り、これを解消するための栄養学的手段を学ぶ。
		5.次コマとの関係	肥満の原因を知る事により、解説法を学べるようになる
8	各論：肥満②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	肥満の判定方法について学ぶ
		3.コマ主題細目	肥満の客観的な判定法について知り、肥満を認識できた上で栄養学的対応を指導できるように知識を学ぶ。来院する動物の多くは肥満または肥満傾向にあるが、多くの飼主はそれに気が付いていない。気が付いてもらうための指導方法を学ぶ。
		4.コマ主題細目深度	肥満の客観的な判定法について知り、肥満を認識できた上で栄養学的対応を指導できるように知識を学ぶ。来院する動物の多くは肥満または肥満傾向にあるが、多くの飼主はそれに気が付いていない。気が付いてもらうための指導方法を学ぶ。
		5.次コマとの関係	適切なカロリー計算ができるために知識を習得する
9	各論：肥満③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	BCS評価
		3.コマ主題細目	栄養状態の判定に用いられるBCSについて
		4.コマ主題細目深度	食事管理をするためには、まず、その動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。その上で、与える食物がもつエネルギー要求量を算出し、活用する必要があるため、BCSを正しく評価活用できるように学ぶ。
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(甲状腺機能亢進症)
10	各論：甲状腺機能亢進症①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえるようにする。
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(甲状腺機能亢進症)
11	各論：甲状腺機能亢進症②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する。
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえるようにする。
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(甲状腺機能亢進症)
12	各論：甲状腺機能亢進症③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する。
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえるようにする。
		5.次コマとの関係	ペットフード市場を知るために、疾患ごとにどんな食事が可能かを学習する
13	ペットフード市場①	1.シラバスとの関係	ペットフード市場を理解する
		2.コマ主題	ペットフード市場
		3.コマ主題細目	ペットフード販売と市場について考察する
		4.コマ主題細目深度	フードの嗜好性と受容性を理解できる。ペットフードの適切な取り扱いを理解できるようにする。
		5.次コマとの関係	嗜好性を高めるためにはどうするか

動物栄養学－3

14	ペットフード市場②	1.シラバスとの関係	ペットフード市場を理解する
		2.コマ主題	嗜好性
		3.コマ主題細目	嗜好性を考える、嗜好性をよくするために
		4.コマ主題細目深度	嗜好性の要因を考える。臭い、味、質感・低塩食は美味しいのか。
		5.次コマとの関係	嗜好性を高めるための工夫を知る
15	ペットフードに関する規則とまとめ	1.シラバスとの関係	健全なペットフードを使用できるように規則をしる
		2.コマ主題	ペットフード安全法
		3.コマ主題細目	ペットフード安全法を知る
		4.コマ主題細目深度	多くの動物がペットフードを主食として飼育されている。家族は安心安全を求めている。そのため、ペットフードをの製造・販売に関わる業界団体は、安全確保のための自主的な取り組みをしてきた。それが法律となったことの経緯を知り、今後に役立てる。
		5.次コマとの関係	

1. 3. 実証講座について

1. 3. 1. 実証講座の実施実績

(1) 動物看護学（動物看護師対象） 15 時間

講師：国際動物専門学校 山下真理子

◆実施場所 学校法人 シモヅノ学園 国際動物専門学校

第 1 回 平成 26 年 10 月 25 日 5 時間 参加者 15 名

第 2 回 平成 26 年 11 月 1 日 5 時間 参加者 19 名

第 3 回 平成 26 年 11 月 22 日 5 時間 参加者 12 名

(2) 動物栄養学（動物看護師対象） 15 時間

講師：日本獣医生命科学大学 左向敏紀

◆実施場所 学校法人 シモヅノ学園 国際動物専門学校

第 1 回 平成 26 年 10 月 18 日 5 時間 参加者 14 名

第 2 回 平成 26 年 11 月 8 日 5 時間 参加者 15 名

第 3 回 平成 26 年 11 月 29 日 5 時間 参加者 13 名

1. 3. 2. 実証講座の記録

(1) 動物看護学 (動物看護師対象)



(2) 動物栄養学 (動物看護師対象)



2. コミュニケーション系科目検証WG

2. 1. 指導者講習について

2. 1. 1. 指導者講習の実施実績

(1) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象） 6時間

講師：大阪ペピイ動物看護専門学校 石橋妙子

①高松会場

◆参加者 3名

◆実施場所

学校法人 穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ

②大阪会場

◆参加者 12名

◆実施場所

学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

2. 1. 2. 指導者講習の実施資料

次ページ以降に、

(1) クライアントエデュケーション

の授業を実施する際に使用した資料等を掲載する。

平成26年度文科省委託事業
「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」

【獣医療体制分野（職域プロジェクト）】

「獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての動物看護師養成プログラムの開発と検証」

職域プロジェクト（動物看護）
コミュニケーション系科目検証WG
「クライアントエデュケーション」実証講座
～教員向け～

大阪ペピー動物看護専門学校
専任講師・認定動物看護師 石橋妙子



はじめに ～講習内容と教材～

- 1) コマシラバス等を活用した授業紹介
→配布物：ハンドアウト・コマシラバス
※参考：文部科学省平成25年度委託事業「実績報告書」
- 2) 授業教材と教え方
→配布物：ハンドアウト
- 3) 科目実証（クライアントエデュケーション・一部抜粋）
→配布物：ハンドアウト
※参考：文部科学省平成25年度委託事業「クライアントエデュケーション 授業指導用テキスト（講師用）」

2

はじめに ～昨年度の成果より～

- 1) 昨年度（平成25年度）の成果より
 - ✓ 成果物：実績報告書（コマシラバス）・授業テキスト
- 2) 今年度（平成26年）への応用
 - ✓ 授業テキスト及びシラバス等を用いて教育効果を高めるための検証

3

【参考】
クライアントエデュケーション関連
平成25年度の成果物は、
昨年度に各校へ配布されています。

4

コマシラバス等 を 活用した授業紹介

5

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 ～コマシラバスの意味～

- ① 学生が自分自身の行動を明確化できる
- ② 学生が自分がどこまでわかっているところから解らないのか知ることができる
- ③ 1コマの授業で出来るようになるものを明確にする
- ④ “曖昧さ”を無くす

6

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 ～学習目標の明確化～

よくある明確ではない表現

* 悪い例 *

- 「動物看護倫理を理解する」
- 「猫の問題行動の対処方法を習得する」
- 「動物の臨床検査実習を身に付ける」

これらの言葉では学生が迷ってしまう・・・
どうしたらよいのか、
がわからない・・・

* 良い例 *

- 「動物看護倫理の15項目を言える」
- 「猫の問題行動の対処方法の例を3つ挙げられる」
- 「動物の臨床検査実習の血液塗抹標本を的確に作製できる」

7

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 ～学習目標の明確化・入口と出口の設定～

○ まずは科目の入口と出口を明確に設定する

どのような前提知識を持っている人に何を教えるのか、その人がどうなれば成功か、何が出来れば「習得した」と認められるかを明確に設定する。

①入口の設定

- 学習者が授業を受けるレベルに達しているかどうかの確認
- ※「前提テスト」でレベルの判定を行うが、入試のない学校は・・・
- ※「事前テスト」にて学習目標に達していないことを確認

②出口の設定

- 現在取り組んでいる内容の明確な学習目標
- 「学習者をどのような状態」にしたいのかを考える
- ※事後テストによって目標を達成できたかを判断する

8

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 学習目標の明確化～行動目標・評価目標・合格基準～

学習をする学生が、常に自分が今どこにいて、何をしているのか、これからどうなるのか、どこがゴールなのか、が見える可（されていること。また、学習者をどのような姿にしたいのか、受講後に学習者がどのような姿になっているのかを考える。

- 目標行動（何ができるようにするのか）
学習者の行動→学習目標を表す。（観測可能な行動）
（例）「炎症の徴候を4つ言える」など。
- 評価条件（どういう条件下で学習目標に達するか）
どのような条件で実施してもらうか。
（例）「1人で」「何も見ないで」「何分以内で」など。
- 合格基準（どこまでできれば合格なのか）
（例）「全問正解」「3つの目標のうち2つ達成」「1ヶ月以内に」など。

★数値化がポイント。目標はいくつあっても良い。

9

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 ～学習目標の種類～

学習目標（課題）は以下の3種類の分野に属する

○ 認知領域（あたま）

- ①言語情報：暗記もの。思い出すもの。
（例）犬の種類を言える など...
- ②知的技能：ルール等を応用するもの。
（例）3けたの掛け算が行えるもの など...

○ 運動領域（からだ）

- ③運動技能：運動的な技術を覚えるもの
（例）フラインドタッチができる など

○ 情意領域（こころ）

- ④態度の学習：考え方や態度に現れるもの
（例）リーダーに立候補できる、煙草を吸わない など

10

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 ～学習目標（課題）の種類とテスト～

学習者が学習目標に達しているかをチェックするためにテストを行う。テストは、学習者を評価するものでもあるが、教材が適切だったかを測定することが目的である。「学習目標」と「テスト」はリンクするため、学習目標が決定した時点で、テストも作成される。（事前テスト/事後テストとして使用）

- ①言語情報のテスト：教材で扱った内容をテストにする
- ②知的技能のテスト：教材に無い例を使い、応用できるかテストする
- ③運動技能のテスト：実技テストとチェックシートを用いる
- ④態度の学習のテスト：論文等を用いる。

11

1. コマシラバス等を活用した授業紹介 ～学習目標（課題）の分析～

- 入口から出口までの間に、どのような内容がどのような関係で存在するのかを明らかにする。
- 大きな学習目標を設定し、それを細かくしていくことが基本となる。
- 出口からさかのぼって、入口まで逆行するように進める。そうすることによって、教材で取り扱う内容が明らかになり、各内容同士のつながりも目に見える形で把握できるようになる。

12

2. 授業シートの意味

授業の構成は・・・

- 導入：始めるにあたって何からしようかを考えるイントロ。表紙。教材に注目させ学習目標を知らせ、必要な既習事項を思い出させる授業に引き込む魅力的な部分
- 展開：導入”と”まとめ”の間。本論
- まとめ：授業をしめくくる

13

2. 授業シートの意味 ～導入について～

導入は、教材に注目させ、学習準備を知らせ、必要な既習事項を思い出させることにあたる。

- ① 学習者の注意を喚起する：
教材からはたらきかけが利用者のアンテナに届くように、周波数を合わせる必要がある。学習者に「おもしろそうだな」と思わせる工夫を。
- ② 授業の学習目標を知らせる
目指すゴールを掲げ、利用者が自分の注意を自分の力で焦点化し、学習内容に集中できるように促す。
- ③ 前提条件を思い出させる
事前に学習して長期記憶にしまい込んである、基礎の知識・技能を使える状態にする。

14

2. 授業シートの意味 ～展開について①～

展開は、「情報提示」と「学習活動」に分けられる。

- 情報提示：学習者が各自の記憶に新しい事柄を組み込む作業
- 学習活動：いったん組み込まれたものを引き出す道筋をつける作業

- ④ 新しい事項を提示する（情報提示）
導入で引っ張り出した既習事項との違いや関連性を際立たせながら学習内容を提供する。
- ⑤ 学習の方針を与える（情報提示）
新しい内容を提供するだけでなく、意味のある形で覚えるような助言を与えることを考える。

15

2. 授業シートの意味 ～展開について②～

展開は、「情報提示」と「学習活動」に分けられる。

- 情報提示：学習者が各自の記憶に新しい事柄を組み込む作業
 - 学習活動：いったん組み込まれたものを引き出す道筋をつける作業
- ⑥ 練習の機会を作る（学習活動）
新しい事項が記憶できたかどうか、学習者が自分の頭の中から取り出したり、技能を応用したりする機会を作る。
 - ⑦ フィードバックを与える（学習活動）
練習の出来具合をすぐに学習者に知らせ、徐々に完成に向かわせる。

16

2. 授業シートの意味 ～まとめについて～

教材の出口の一手手前で、今まで学んできたことをまとめて締めくくりとする。

- ⑧ 学習の成果を評価する
評価は、練習と区別しておこなうべきものである。
練習は失敗から学ぶもの、評価は本番で成果を試すものであるため、評価そのものも学習を促す働きかけの1つとなる。
- ⑨ 保持と転移を高める
忘れた頃にもう一度復習の機会を作ることで、学習の成果を長持ちさせ、また他の学習への応用ができるように行う。
学習した内容がどんな場面で応用できるかを説明したり、次の教材にどのように繋がっていくかの予告を行う。

17

2. 授業シートの意味 ～教え方を考える(指導方略)①～

- 1つ1つの目標をどのような戦略(strategy)でクリアさせるか考える。
 - ✓ 導入の方法
 - ✓ 教材の構成
 - ✓ まとめの方
 - ✓ ARCSモデル →やる気を引き出すための枠組み

(Attention) = 関連性、(Relevance) = 自信、(Confidence) = 満足感
(Satisfaction) = おもしろそう、やればできそう、やってよかった

これらに応じた作戦を立てると効果的

2. 授業シートの意味 ～教え方を考える(指導方略)②～

- 情報提示
 - ✓ 学習目標：課題分析図の中のどの学習目標を扱うのか
 - ✓ 情報提示：どんな情報をどうやって提示するのか
 - ✓ 例：どんな例を使うのか
- 学習活動
 - ✓ 問題：どんな練習問題を出して、どう答えさせるのか
 - ✓ 確認方法：どうやって正解、誤答をチェックするのか
フィードバックの方法はどのようなものか

19

3. 確認テストをする意味 ～事後テスト～

授業を受けた学生を評価するものでもあるが、シラバスが適切だったか、教え方が良かったかも評価される。

- 「点数が悪かった」の意味は・・・
 - 教え方が良くなかった？
 - 目標が高すぎた？
- もし、合格点でなかった時の責任は・・・
 - 教師の責任が明確化する

20

4. 評価する意味

- 形成的評価：
 - 教材を作っている途中で、教材の効果を確かめて、悪いところを直すために行う評価
 - 教材の形を作っていく（成していく）ための評価
 - 「どこを直せばもっとよい教材になるのか」を知るために試験的に使ってもらう
- 総括的評価：
 - 教材づくりが完成してから作成者以外が行う評価
 - その教材を採用しようかどうかを判断するための評価

21

参考

- 文部科学省 学習指導要領
1992年（平成4年）4月、「新学力観」の打ち出し
- 各教科等の評価において、自ら学ぶ意欲の育成や思考力、判断力、表現力などの能力の育成を重視する。
- 自分で考え、自分のやり方で情報と立ち向かえるようにする。将来的には先生が居なくても卒業した後でも自分の力で学び続けることができる素地を培っていく方向性＝「独学」。「指示待ち人間」を造らない工夫

22

授業教材と教え方

23

1. コアカリキュラムの捉え方

- 「コアカリキュラム構成表」と「動物看護師養成モデルコアカリキュラム」から各科目の関連性を把握する。



24

動物看護師養成モデルコアカリキュラム(専修学校)

『コアカリキュラム構成表』は
(一社)全国動物教育協会HP
からダウンロードできます
<http://www.zendoukyou.com/>

1. コアカリキュラムの捉え方

- 「コアカリキュラム構成表」と「動物看護師養成モデルコアカリキュラム」から各科目の関連性を把握する。

↓

これらを学ぶことで、
専門職(仕事)としてどのように役立つのか?
(専門学校教育の大きな意義)

2. これからの動物看護師養成教育について ～「コミュニケーション系科目」とは～

- 「クライアントエデュケーション」や「院内コミュニケーション」が含まれる。
- 「院内コミュニケーション」
→ 飼い主への対応(接客)、スタッフ間の対応、ビジネスマナーなど。
- 「クライアントエデュケーション」
→ 専門知識や技術を用いた飼い主やそのご家族に向けた教育や指導など。

27

2. これからの動物看護師養成教育について ～「クライアントエデュケーション」とは～

- 目標：人と動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼主指導に活かす。
- 疾病予防、健康管理、衛生管理指導

「動物看護師養成モデルコアカリキュラム(専修学校)」第1版(2012年)より

- ◇ 学習目標：今まで学習した専門知識を活用し啓蒙と個別に応じた飼主指導に活かす。
- ◆ 到達目標：
 - ① 疾病予防について、不妊手術、予防薬、ワクチン及び定期健診の必要性を説明できる
 - ② しつけ、日常の健康チェック、歯科疾患予防の必要性を説明できる
 - ③ グルーミング、人獣共通感染症の予防についてその必要性を説明できる

28

2. これからの動物看護師養成教育について ～現職と教育現場の連携を目指して～

- 「動物看護師養成モデルコアカリキュラム(専修学校)」導入により体系的なカリキュラムの必要性がある。
- チーム獣医療体制における現職や養成教育の高位平準化の必要性がある。
- 現職及び離職者の学び直しや継続教育の必要性がある。
- 現職や離職中の動物看護師さんにも新しい教育内容を学んでいただける学び直しの仕組みの開発を検討している。
- 新知見の情報入手やレベル維持のための学習機会も現職には必要である。

29

3. 授業教材と教え方 ～教育(学)とは何か①～

「教育」とは何か?

教育(学)の始まり

- ソクラテス(B.C400年 教育思想家)から・・・
教育の仕事とは単に知識を授けることだけでなく、相手の内にある可能性を引き出すこと。行き詰まった教え子に「無知の知(無知の自覚)」から建設的な示唆を与え真理の発見に向かうように助けること。授業には山が必要で、それは学ぶ中心力所で考える中心力所でもある。
※education→edu=引き出すという意味
- カント(18世紀 哲学者)の教育論から・・・
人間は人間によってのみ教育される。しかもやはり教育を受けた人間によって。

30

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か①～

いわゆる
教職（教育者）の形

- 高等学校教諭2級普通免許状
- ✓ 教科に関する専門科目32単位以上
- ✓ 教職に関する専門科目14単位以上
- ✓ 教育実習（3週間）
- ✓ 大学卒の資格

- 高等学校教諭1級普通免許状
- ✓ 教科に関する専門科目52単位以上
- ✓ 教職に関する専門科目14単位以上
- ✓ 教育実習（3週間：学部で受けている場合は無し）
- ✓ 大学院修了の資格

※教職に関する科目：日本国憲法、教科教育法、道徳教育の研究、青年心理学(児童心理学) など

31

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か①～

人の看護師養成校
の先生から

「〇〇教育学」とは何か？

- 〇〇の研究をすることによって、その本質を究め普遍性を見出すこととそれを教育すること
- 〇〇についての教育を希望する人に対して、〇〇を理解するための支援をすること
- その人（≒学生）の成長・発達を見極めたうえでその支援が必要である
- 「学」の意味・・・そのことを究める＝研究する

32

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か②～

人の看護師養成校
の先生から

「動物看護教育学」とは何か？

- 動物看護学の様々な領域に共通して普遍的に存在する要素を研究する
- 動物看護学生を含む動物看護職者個々の発達を支援する
- 動物看護の対象（傷病動物とその飼主）に質の高い看護を提供することを目指す学問

33

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か②～

人の看護師養成校
の先生から

「人間看護と動物看護の違い」

- 看護の対象が傷病動物のみならず、飼主への看護が重要となる
- 人間の場合の小児への看護とその親に対する看護に似ている。しかし、親⇄子という普遍的関係があることにに対し、動物⇄飼主は普遍性があるのだろうか？
- 人の看護は人とのコミュニケーションを重視する。動物看護では、傷病動物とのコミュニケーションも求められる

34

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か②～

人の看護師養成校
の先生から

参考：人の看護

- 看護はあらゆる成長・発達段階にある個人とその家族または集団を対象とする
- 看護は人間関係を基盤として成立する
- 看護はその人がその人らしくあるように、健康の増進、安らかな死に関わる
- 看護は健康問題解決のために生活行動を支え、自立を目指す
- 看護は専門職としての独自の機能とチーム内の調整の役割を担う

35

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か②～

人の看護師養成校
の先生から

参考：人の看護

- 人間：看護の対象である
- 健康：看護がアプローチする視点である
- 環境：健康を理解するために不可欠
- 看護：学習の中核の本質に迫る



この4つの概念がカリキュラムに盛り込まれている

36

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か②～

人の看護師養成校の先生から

「動物看護の重要概念」は？

- 看護の対象は？：動物と飼主？
- アプローチの視点は？：動物の健康とそれに左右される飼主？
- アプローチの視点に大きく影響することは？：飼主宅周辺の環境？
- 学習の中核の本質は？：動物と飼主の看護

37

3. 授業教材と教え方 ～教育（学）とは何か②～

人の看護師養成校の先生から

「動物看護独自の考え方」が必要

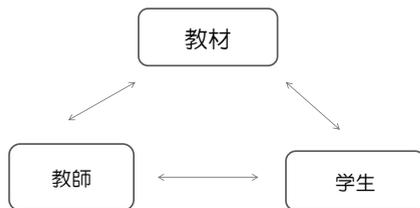
- 教育するためにはカリキュラムの中核になる概念を明確にする必要がある。動物看護の主要概念は？
- 看護は実践が伴うことが不可欠である。その実践では何に注目した方法を教育するかを考える必要がある。動物看護の実践に不可欠な要素は？
- 人間の看護ではコミュニケーションが重要である。動物とのコミュニケーションの取り方は人間のコミュニケーションと異なるのでは？

38

3. 授業教材と教え方 ～授業とは～

人の看護師養成校の先生から

授業は、相対的に独立した学習主体としての学生の活動と教授主体としての教員の活動とが相互に知的対決を展開する過程であり、この知的対決は教材を媒介に行われる。

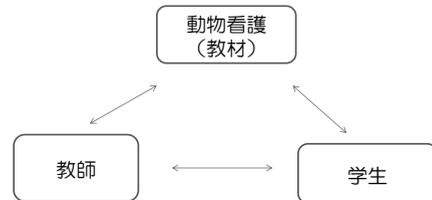


39

3. 授業教材と教え方 ～授業とは～

人の看護師養成校の先生から

授業で行われる知的対決は、教材つまり「動物看護そのもの」を媒介に行われる。



40

3. 授業教材と教え方 ～授業とは～

人の看護師養成校の先生から

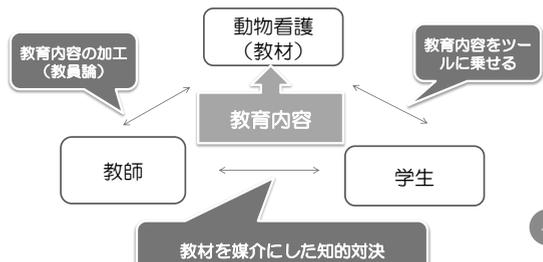
- 教育内容を教師が加工したもの
- 教育する内容を伝えるためのツールを指すこともある。ツールで伝えようとする内容そのものも教材
- 人間の看護学では、人間そのものを理解する為に必要な内容、看護の考え方、看護技術など

41

3. 授業教材と教え方 ～授業とは～

人の看護師養成校の先生から

カリキュラムに示されている教育内容を「特定の授業」の中で展開するとき使う材料



42

3. 授業教材と教え方 ～授業教材とは①～

- コマシラバス
- 授業シート
- 教科書・ハンドアウト・確認テスト
- 実習施設・設備
- 実習に関する備品
- 動物
- 現場実習（様々な）

43

3. 授業教材と教え方 ～授業教材とは②・手作り教材～

- ぬいぐるみにチューブで血管を貼ったり、肛門や口にみたてて穴を開けたり・・・



- 患部に見立てるように工夫したり・・・

44

3. 授業教材と教え方 ～授業教材とは②・手作り教材～

- 便に小鳥のパウダーフードを混ぜてデンブン粒を再現したり・・・
- 羊の血液を用いて採血回数を減らしたり・・・
- 片栗粉と絵の具で粘血便(のようなもの)を作ったり・・・



45

参考文献

- 国際動物専門学校 山下真理子先生
平成26年8月22日 全国動物専門学校協会主催
「動物看護師養成研修会」講義資料より 一部引用
- 都立板橋看護専門学校 村杉登志子先生
平成25年8月16日 国際動物専門学校教員学習会
「看護教育論・教育方法論」講義資料より 一部引用
- 教師のためのインストラクショナルデザイン「授業設計マニュアル」
稲垣忠・鈴木克明編著 北大路書房 2014年7月20日第4刷

46

科目実証

(クライアントエデュケーション・一部抜粋)

～科目の意義と事例から到達目標を目指す～

47

「クライアントエデュケーション」とは

- この言葉からどのようなイメージを受ける？



48

「クライアントエデュケーション」

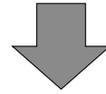
「クライアント (client) 」・・・依頼人・顧客
+
「エデュケーション (education) 」・・・教育

- 依頼人・顧客を教育するってどういうこと？
- 依頼人・顧客を教育したら何が起こるの？

想像してみよう！

49

➤動物病院にとって「クライアント」
とは何を意味するか？



動物・飼い主（家族）

50

➤動物病院でおこなう「エデュケーション」
とはどのようなものか？



- 病気予防の方法・・・ワクチン、去勢や避妊手術、適切なフード、口腔内ケアなど
- 適切な飼育・・・しつけ、飼育環境など
- 関連法規・・・狂犬病予防法、動愛管法など

51

➤「クライアントエデュケーション」を
すればどうなるのか？



- 病気予防 →飼育動物のQOLの向上、動物福祉への貢献
- 適切な飼育 →飼育動物のQOLの向上、動物福祉への貢献、人と飼育動物のより良い共生
- 関連法規 →法の遵守、公衆衛生への貢献

52

すなわちクライアントエデュケーション
とは・・・

- 飼い主 (client) に役立つ情報を提供 (education) する
- 動物 (client) の生命、権利を尊重するための情報を提供 (education) する



人と動物のより良い共生へ！

53

「クライアントサービス」の定義とは？



クライアントの期待に応え、
期待以上のものを提供する能力のこと

※事前の期待より事後の期待の方が大きいこと
「感動」という

※事前の期待＝事後の期待のことを「満足」という

54

▶ クライアントサービスは「ちょっとした出来事の積み重ね」によって成り立つ

ちょっとした出来事は・・・

スタッフとの対面時に発生するものであるため、クライアントが良い出来事を体験し、満足して動物病院から帰ることができるようにスタッフが取り組まねばならない。

55

▶ クライアントが求めていること8つ

- ①温かさ：
病気で心配で来る人はかなりのストレスを抱えている。そんな時に看護師の暖かさに救われる
- ②心遣い：
動物の名前や年齢、性別、性格などを覚える。愛情と思いやりを示す
- ③丁寧さ：
礼儀正しく、言葉遣い
- ④能力：
どれだけ専門的な知識があり、いかに分かりやすく説明できるか。

56

▶ クライアントが求めていること8つ

- ⑤コミュニケーション：
どんな職業でもそうですが、動物病院は特に大事
- ⑥誠実さ：
飼い主は自分が理解できない物には当然疑いの気持ちを持つ。誠実であることは信頼の基礎になる。
- ⑦利用しやすさ：
24時間開いていなければならないというわけではなく、連絡の取りやすさと親しみやすさのこと。
- ⑧環境：
実際に触れるもの、体感できるもの、形のある者への評価。

57

▶ 例えば？



それぞれ具体的にどんなことがある？
あなたはどのように感じますか？

- 電話対応の好感度
- 待ち時間の短さ
- 動物へのやさしい気遣い
- 衛生的な環境作り
- 飼い主の行動に興味を持つ
(荷物を持つ、ドアを開けるなど)

58

▶ 動物看護師が飼い主家族から信頼してもらえるようにするためには、どのようなことに注意したらよいか？

動物病院での飼い主は、動物看護師より年長者の方も多く、人生経験豊富であるその方々に信頼してもらえた上でなければ、発する言葉に信憑性はなく信頼してもらうことができない。

59

▶ 獣医療現場において信頼してもらえるようになるためのコミュニケーション能力を習得するためにはどのような要素が必要か？



院内コミュニケーションでも学んでいますね。実践できていますか？

- 笑顔・清潔な身なり
- 正しい言葉づかい
- 挨拶・敬語・信頼できる姿勢

60

▶活用できるコミュニケーションの手段には・・・

- 目で見て理解する（視覚）
- 耳で聴いて理解する（聴覚）
- 感性で理解する

がある。

61

▶ コミュニケーションの質を高める方法（3つ）

- ①効果的な聞き方をする
（注目する、話を聴く、共感する、原因を探る）
- ②色々な種類のコミュニケーションを使い分ける、タイミングや方法を知る
- ③動物病院のスタッフごとにメッセージが食い違わないようにする
（混乱や誤解を防止）

62

▶ クライアントとの信頼関係を築く助けとなる実践的な方法（7つ）

- ①プロとしての立ち振る舞いを意識し責任ある行動をとる
- ②挨拶、来院動物を名前と呼ぶ
- ③興味を持って接する
- ④優しく接する、上手な保定

63

▶ クライアントとの信頼関係を築く助けとなる実践的な方法（7つ）

- ⑤専門用語は使わない
- ⑥例え聞き飽きた内容であっても熱心に初めて聞く内容のように耳を傾ける
- ⑦清潔な場所であるように協力する

64

クライアントエデュケーション 【フィラリア予防】



65

フィラリア症とは

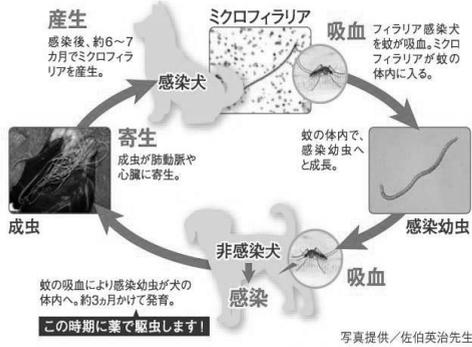
CEの前に・・・
寄生虫学を思い出そう！

- ✓蚊によって媒介される病気
- ✓犬糸状虫が心臓（右心室）や肺動脈脈に寄生することにより起こる疾患



66

フィラリアのライフサイクル



67

診断(寄生診断)

- ✓免疫学的検査
 - ⇒抗原検査(成虫のみ検出可)
 - ソロステップCH、
 - スナップハートワームRTなど…
- ※採血後は速やかに検査すること!!
- ✓凝固血液、長期保存検体では正確な結果が出ないことがある
- ✓抗原(-)であっても実際には成虫が存在することを完全には否定できない



68

診断(寄生診断)

- ✓マイクロフィラリア検査
 - ⇒直接法、Ht管法、集虫法
- ※感染から7~8ヵ月経たないとmfは検出できない
- ※オカルト感染
 - ⇒雄、雌のみの感染だけでmfが検出されない成虫感染

69

診断(病勢診断)

- ✓臨床症状の問診
- ✓胸部X線検査
- ✓胸部(心臓)超音波検査
- ✓血液検査(CBC・生化学)



70

症状

- ✓初期症状:咳・貧血
- ✓慢性症状:肺高血圧症・呼吸障害(発咳、呼吸困難、喀血、運動不耐性)、右心不全、失神、沈うつ、ネフローゼ症候群(タンパク尿)
- ✓急性症状:突発性虚脱、血色素尿、貧血、呼吸困難

後大静脈症候群

71

犬以外の感染

- ✓ネコやフェレット(その他イヌ科の野生動物)にも感染するが、本来の宿主でない為にL3が成虫に成長する確率が低く発生しにくい
- ⇒感染→成虫 犬:40~90% 猫:1~25%
- 抗体検査の陽性率が上がってきているので、今後ネコやフェレットでも予防が一般的になるかもしれない
- ※感染犬が減少していても予防を続ける必要性がある
- ⇒野生動物を宿主として媒介する可能性もあるため

72

治療方法

- ✓病態に応じて薬物療法もしくは外科療法で行う
 - ✓薬物療法：薬物にて虫体を死滅させる方法
 - ✓外科療法：外科的に成虫を取り出す方法
- ※急性のフィラリア症で薬物療法を行うと肺動脈塞栓症を起こす可能性が高い

73

予防法

〈予防薬の投与〉

- ✓投与期間（地域による）
⇒4、5月～11、12月
- ※蚊が出現して1ヵ月以内～出なくなってから1ヵ月後まで
- ✓投与回数
⇒1回投与/月または1回注射/6ヵ月

74

飼い主に伝えなければいけないこと

- ✓予防薬と言っているが、感染を予防する薬ではない ⇒正しくは“駆虫薬”
- ✓1回投与/月 だが1ヵ月間効果が持続する訳ではない ⇒効果は1日
- ✓毎月決められた日に投薬しなければならない
- ✓毎年、投与開始前には血液検査が必要

75

飼い主にフィラリアについて理解してほしいこと

- ✓フィラリア症という病気を理解してもらう
- ✓予防可能な疾患であるということ
- ✓予防方法を理解してもらうこと

これらのことを飼い主に解りやすく説明できることがCEでは大切！

76

予防薬の種類

- ✓薬剤によって予防できるものが違う

- イベルメクチン
- ミルベマイシン
- モキシデクチン
- セラメクチン

77

予防薬の形状

- ✓錠剤：携帯性に優れ一定量を摂れる
- ✓チュアブル：嗜好性が高い
- ✓滴下剤：比較的簡単に投与が出来る
- ✓注射薬：投与忘れ、吐きだしを防げる
- ✓長期間効果が持続する



飼い主、動物に合った予防薬の選択を！！

このためにも飼い主から飼育環境をしっかりと聞き取れることがCEでは大切！

78

予防薬の種類



79

クライアントエデュケーションの目標

- ✓ 予防期間中、確実に予防してもらい
フィラリア感染犬を増やさないためには…
 - 「わかりやすい言葉で」
 - 「ポイントを押さえながら簡潔に」
- を心掛けよう！！

80

説明するポイント

- ✓ 「フィラリア症について」
 - ✓ 「予防が可能であること」
- ① 心臓に寄生する
 - ② 感染すると治療・処置が大変
 - ③ 発症すると死亡率が高い
 - ④ 蚊が媒介する
- ☆ 予防薬の投与(1回/月)で予防ができる

81

予防法を理解してもらう

- ① 投与期間(理由も含めて)
⇒ 4・5月～11・12月(地域による)
- ② 投薬回数
⇒ 1回/月 決められた日に飲ませる
- ③ 実物を見せて投薬方法を説明する

82

予防薬を渡す際の注意点

- BWの確認
⇒ 成長期・減量中の犬
- 確実に飲めたかの確認
- シャンプー実施日の確認(滴下剤の場合)

83

A promotional graphic for 'イベルメック' (Ivermectin) flea and tick prevention for dogs. It features a dog wearing a 'HAPPY SMILE' tag, a bone-shaped tablet, and a calendar grid for scheduling administration. The text includes 'NO FILARIA', 'イベルメック', and '犬フィラリア症から、わんちゃん的笑顔を守るために。犬フィラリア症予防は指示された投薬期間の最後まで続けことが重要です。' (To protect your dog's smile from heartworm disease, it is important to continue the prescribed prevention treatment until the end of the period.)



クライアントエデュケーション演習 ～フィラリア予防～

【事例】

看護動物情報：①成犬 室内飼育、予防歴なし
②子犬 初めての予防

1. 各自、飼い主の質問を予測してみよう！
2. チームにわかれて意見交換してみよう！
3. チームで「動物看護師」と「飼い主」に配役し、ローテーション演習をしてみよう！

86

2. 1. 3. 指導者講習の実施記録

(1) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象）





2. 2. カリキュラムの開発について

2. 2. 1. コマシラバスの作成

次ページ以降に

(1) 院内コミュニケーション

のコマシラバスを掲載する。

院内コミュニケーションー1

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		知識や技術などの目に見えないものの価値はその提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーションー1」では、ホスピタリティ精神を理解し飼い主からの信頼を得るために、身だしなみの重要性を理解し、言葉遣いと話し方・表情・立ち居振る舞いの接客時の基本を身につけコミュニケーション能力をあげるための基本的な接遇トレーニングを行う。また、看護動物の安全・衛生に配慮した対応ができるよう受付時のカウンターを挟んだ高頻度業務を実技で展開し、グループ運営、段取り、プレゼンテーションの意識を高め、スタッフコミュニケーションを想定した能力を養う。
履修条件	院内コミュニケーションー1を先行すること	
ユニット		
科目名	院内コミュニケーションー1	
単位	1(1~3合わせて3単位)	
履修時間	30時間(1~3合わせて75時間)	
回数	30回(1~3合わせて75時間)	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験、実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①ホスピタリティを伝える動物病院の接遇(インターズー)②看護におけるコミュニケーション(へるす出版)③動物病院のためのクレーム対応のマインド&スキル(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	接遇とは ホスピタリティとは	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する	
		2.コマ主題	信頼される社会人になるために	
		3.コマ主題細目	身だしなみ	
		4.コマ主題細目深度	①ホスピタリティとは何か(誰のためのホスピタリティか) ②身だしなみの重要性	
		5.次コマとの関係	身だしなみを自主的に整え、取り組む姿勢を身につける	
2	社会人コミュニケーション能力の基礎	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ルールを守り、自らコミュニケーションをとる	
		3.コマ主題細目	学校生活においてTPOに応じた言動をわかまえる ①シチュエーション別による配慮の必要性を理解する ・公共施設(教室、廊下、エレベーターなど)での振る舞い	
		4.コマ主題細目深度	・講師室での振る舞い ・相手に合わせた言葉遣い ②メモを利用したコミュニケーション方法を理解する	
		5.次コマとの関係	コミュニケーションの基礎から受付時の対応に活かす	
3	飼い主のお迎え①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	病院の顔であることを意識する	
		3.コマ主題細目	再診時の診察受付、初診問診票・同意書の記入意図	
		4.コマ主題細目深度	①ペアワークによる演習で積極性を身に付ける ・チーム内フリートークで聞く姿勢、話す際の身振り ・発話練習、スマートなお辞儀、診察券の受取姿勢(アイコンタクト) ・飼い主と看護動物を声に出して確認 ・手で着席案内、待ち時間の目途の案内 ・初診問診票・同意書への記入案内(クリップボードの使用) ・手を使用した提示・説明	
		5.次コマとの関係	実践力を身に付けるための反復トレーニング	
4	飼い主のお迎え②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	飼い主のお迎え①の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	再診時の診察受付が自然にできる	
		4.コマ主題細目深度	①受付時に使用するものを使い、自然な対応を身に付ける	
		5.次コマとの関係	初診時の診察受付で必要なものを理解する	
5	飼い主のお迎え③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	病院の顔であることを意識する	
		3.コマ主題細目	初診時の診察受付 ①飼い主の反応をうかがいながらスムーズな受付対応を身に付ける	
		4.コマ主題細目深度	・初診問診票・同意書への記入案内 ・クリップボードを使用し、指し示しの手で記入説明 ・記入後の処理案内 チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める	
		5.次コマとの関係	チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める	
6	飼い主のお迎え④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	飼い主のお迎え②③の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	初診・再診時の診察受付が自然にできる	
		4.コマ主題細目深度	①ペアワークによる他者の実技を参考にし自身を振り返る	
		5.次コマとの関係	チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める	
7	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	再診・初診時の診察受付、備品管理、受付カウンター実習、チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーションの意識 ①動物看護師・再診患者・初診患者に配役し、実技試験を意識したローテーション練習	
		4.コマ主題細目深度	②姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	

院内コミュニケーションー1

8	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	チームコミュニケーション
		3.コマ主題細目	再診・初診時の診察受付、備品管理、受付カウンター実習、チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーションの意識
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング(準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法) ②カウンター姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識 ④実技試験中の他人評価を行う意図を理解
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める
9	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	チームコミュニケーション
		3.コマ主題細目	実技試験前のグループワーク①②の反復トレーニング
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②学んだことを意識し、実践できる
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める
10	実技試験 ～飼い主のお迎え①～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	今までの理解・訓練項目のアウトプット、他者の評価
		3.コマ主題細目	再診・初診の診察受付実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価を良い所とアドバイスを記入する
		5.次コマとの関係	実技試験の続き
11	実技試験 ～飼い主のお迎え②～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価
		3.コマ主題細目	再診・初診の診察受付実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価を良い所とアドバイスを記入する
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄る対応を身につける
12	実技試験の振り返り ～飼い主のお迎え③～ 診察室への案内①	1.シラバスとの関係	接客時の基本を客観的に評価する
		2.コマ主題	実技試験を評価する
		3.コマ主題細目	①実技試験の発表を振り返り、不十分なところを改善する
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う(習得しているものを自己認識する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえないおす) ②診察室への案内に向けて歩み寄る対応を学ぶ
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄る対応を身につける。
13	診察室への案内②	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	信頼される社会人になるために、専門職を意識した案内
		3.コマ主題細目	言葉遣い、看護動物の安全を意識した案内
		4.コマ主題細目深度	①滑舌練習、敬語の種類説明と違い、敬語表現の発話 ②歩み寄る対応から診察室への案内 ③待機中の注意喚起(他者に配慮する)
		5.次コマとの関係	敬語表現の発話で次回から使用するセンテンスを取り込み、カウンター業務実習をスムーズにする
14	薬の説明①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	相手が理解できる説明
		3.コマ主題細目	薬の説明業務にかかる責任、必要最低限の説明
		4.コマ主題細目深度	①薬の説明をしながら案内を手にし、手際よく薬袋につめる一連の作業をスムーズに行う ②薬の種類、処方の方、数の確認、注意事項を適切に説明できる
		5.次コマとの関係	実践力を高めるため必要最低限の内容をマスターする
15	薬の説明②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	薬の説明①の反復トレーニング
		3.コマ主題細目	薬の説明業務を自然にできる
		4.コマ主題細目深度	①説明と手の動きを合わせた一連の作業をスムーズにできる
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング
16	薬の説明③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	相手が理解できる説明
		3.コマ主題細目	相手に合わせた説明
		4.コマ主題細目深度	①スムーズな説明と行動 ②相手の理解を確認しながら説明できる ・経験の確認をし、飼い主を中心にした表現ができる
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング
17	薬の説明④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、看護動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	薬の説明③の反復トレーニング
		3.コマ主題細目	相手に合わせた説明を自然にできる
		4.コマ主題細目深度	①飼い主に渡すものということを配慮した行動ができる ②飼い主の理解を高めることを配慮した説明ができる
		5.次コマとの関係	カウンター業務である精算業務を学ぶ

院内コミュニケーションー1

18	精算業務①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	迅速かつ丁寧な精算業務
		3.コマ主題細目	金銭の社会的意味と扱いを知る
		4.コマ主題細目深度	①清算書を作成し、金額を明確に告げる ②金銭トレイ・お金の扱い方を知る ③「お待たせいたしました」などの基本の挨拶対応
		5.次コマとの関係	相手に配慮できるように精算業務の基礎をおさえる
19	精算業務②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	精算業務②の反復トレーニング
		3.コマ主題細目	金銭トレイを使用して自然に精算業務を進められる
		4.コマ主題細目深度	①一連の流れをスムーズにできる ②数字の読み間違いに気をつける
		5.次コマとの関係	精算額の確認に集中できるような配慮をした説明を行う
20	精算業務③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	迅速かつ丁寧な精算業務
		3.コマ主題細目	相手の動きを観察しつつ、タイミングよく行動する
		4.コマ主題細目深度	①スピーディで適度な明細説明ができる ②速やかに正確な電卓入力ができる ③飼い主の状態を見て、タイミングよく必要なものを渡す
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング
21	精算業務④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応
		2.コマ主題	精算業務③の反復トレーニング
		3.コマ主題細目	相手の動きに合わせてタイミングよく精算業務を行う
		4.コマ主題細目深度	①飼い主に渡すものということを配慮した行動ができる ②飼い主の理解を高めることを配慮した説明ができる
		5.次コマとの関係	チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める
22	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	チームコミュニケーション
		3.コマ主題細目	チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識
		4.コマ主題細目深度	①動物看護師・飼い主に配役し、実技試験を意識したローテーション練習 ②姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める
23	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	チームコミュニケーション
		3.コマ主題細目	チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング(準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法) ②カウンター姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める
24	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	チームコミュニケーション
		3.コマ主題細目	チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②学んだことを意識し、実践できる
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める
25	実技試験 ～薬の説明、精算業務①～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価
		3.コマ主題細目	薬の説明・精算業務実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をの良い所とアドバイスを記入する
		5.次コマとの関係	実技試験の続き
26	実技試験 ～薬の説明、精算業務②～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価
		3.コマ主題細目	薬の説明・精算業務実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をの良い所とアドバイスを記入する
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄り対応を身につける
27	実技試験の振り返り ～薬の説明、精算業務③～	1.シラバスとの関係	接客時の基本を客観的に評価する
		2.コマ主題	実技試験を評価する
		3.コマ主題細目	25. 26の実技発表を振り返り、不十分なところを改善する。
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う(習得しているものを自己認識する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえないおす)
		5.次コマとの関係	専門知識を活かした飼い主との対話法を学ぶ

院内コミュニケーション1

28	質問と傾聴① ～主訴:その①～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の健康に配慮した対応
		2.コマ主題	基礎的な質問項目の認識、傾聴の姿勢
		3.コマ主題細目	アイコンタクトをとりながら会話式の質問ができる
		4.コマ主題細目深度	①看護動物の様子を見ながら質問できる ・クリップボードを持って迅速に記述しながら質問する ・飼い主とアイコンタクトしながら質問する ②質問の必要事項を取りこぼさない
		5.次コマとの関係	相手に合わせた対応ができるよう基礎の質問事項をおさえる
29	質問と傾聴② ～主訴:その①～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の健康に配慮した対応
		2.コマ主題	質問と傾聴のポイント
		3.コマ主題細目	マニュアルだけでなく飼い主を中心にカスタマイズした質問・説明をする
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の答えに応じて表情・声色・話し方のスピードに変化をつける ②飼い主を中心にした表現で質問、説明ができる
		5.次コマとの関係	相手に合わせた対応ができるよう基礎の質問事項をおさえる
30	質問と傾聴③ ～主訴:その②～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の健康に配慮した対応
		2.コマ主題	質問と傾聴のポイント
		3.コマ主題細目	主訴内容に合わせ、飼い主様を中心にカスタマイズした質問・説明をする
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の答えに応じて表情・声色・話し方のスピードに変化をつける ②飼い主を中心にした表現で質問、説明ができる
		5.次コマとの関係	「院内コミュニケーション2」質問・傾聴の姿勢から電話による音声表現のプレトレーニングに進む

院内コミュニケーション-2

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		知識や技術などの目に見えないものの価値は、その提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション-2」では、「1」で身に付けた接遇の基本とホスピタリティ精神を活用し緊急時の対応、不快感情に対する対応をトレーニングする。また、動物看護知識だけでなく、外部対応や電話対応を院内スタッフとのコミュニケーションを通じて一社会人としての行動ができるようビジネスマナーを習得する。模擬待合室で行うローテーショントレーニングから相手の心情を慮った歩み寄り対応を臨機応変に実践できるように精度を高める。
履修条件	院内コミュニケーション-1を履修すること	
ユニット		
科目名	院内コミュニケーション-2	
単位	1(1~3合わせて3単位)	
履修時間	30時間(1~3合わせて75時間)	評価方法
回数	30回(1~3合わせて75時間)	
授業形態	講義・演習	筆記試験・実技試験
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①ホスピタリティを伝える動物病院の接遇(インターズー)②看護におけるコミュニケーション(へるす出版)③動物病院のためのクレーム対応のマインド&スキル(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	電話対応①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	音声表現スキルの向上、信頼につながる対応	
		3.コマ主題細目	滑舌、表現、言葉遣い、会話しながら内容のメモを取る ①ヘアワークによる声のみの印象を意識した対応を身に付ける	
		4.コマ主題細目深度	・電話に出てハキハキ名乗り、明るく挨拶する ・話しながらメモをとれる ・聞き取れないときの対応	
		5.次コマとの関係	必要情報を収集し、処理案内に繋げる	
2	電話対応②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	音声表現スキルの向上、信頼につながる対応	
		3.コマ主題細目	名指し人へ取り次ぐ ①ヘアワークによる声のみの印象を意識した対応を身に付ける	
		4.コマ主題細目深度	・こちらの状況を伝える ・処理の案内をする ・クッション言葉を使う ・保留するときの注意	
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング	
3	電話対応③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	責任を持って処理する	
		3.コマ主題細目	処理案内	
		4.コマ主題細目深度	①取次後の処理案内をする ②電話番号を控えて、復唱、確認する	
		5.次コマとの関係	多様なシーンを実践できる反応を身に付ける	
4	電話対応④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	電話内の会話をマスターし、行動が伴えるようにする	
		3.コマ主題細目	電話対応中における様々なシチュエーション対応	
		4.コマ主題細目深度	①電話に出るところから、切るところまでの流れをスムーズにできる(カウンターでのメモの取り方) ②電話会話中に来られた飼い主の対応ができる ③診察中の獣医師へ取り次ぐときのアプローチできる ④電話会話終了後に待合室飼い主への声掛けができる	
		5.次コマとの関係	受付カウンターにおける動きを習得し、全体の流れに繋げる	
5	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数の場面設定からの選択と自由設定 チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①「受付カウンター(動物看護師、電話をかける飼い主、来院者)」と「診察室(動物看護師、獣医師、受診中飼い主)」に別れてローテーションしながら一連の流れをスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
6	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング(準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法) ②社会人としての立ち振る舞いを意識し積極的に取り組む	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
7	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②学んだことを意識し、実践できる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	

院内コミュニケーションー2

8	実技試験 ～電話対応①～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価
		3.コマ主題細目	電話対応実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をの良い所とアドバイスを記入する
		5.次コマとの関係	実技試験の続き
9	実技試験 ～電話対応②～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価
		3.コマ主題細目	電話対応実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をの良い所とアドバイスを記入する
		5.次コマとの関係	多様なシーンを実践できる歩み寄る対応を身に付ける
10	実技試験の振り返り ～電話対応③～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価
		3.コマ主題細目	電話対応実技発表と他人の評価を行う
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う (習得しているものを自己確認する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえなおす)
		5.次コマとの関係	社会人としての振る舞いから、外部対応を学ぶ
11	外部対応①	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ
		3.コマ主題細目	面会の約束のある方／ない方の受付の発話
		4.コマ主題細目深度	①マナーに従った方法で名刺を受取る(取り次ぎ名刺の意味を理解する) ②取り次ぎ業務で必要な情報を収集する ③丁寧なお断りの対応ができる
		5.次コマとの関係	社会マナーを理解した上で、取引先とのやり取りをする
12	外部対応②	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ
		3.コマ主題細目	面会の約束のある方／ない方の受付のカウンター実習
		4.コマ主題細目深度	①カウンターで名刺の受け取り、取り次ぎをスムーズにできる ・取り次ぎ業務で必要な情報を収集し、丁寧なお断りの対応ができる
		5.次コマとの関係	社会マナーを理解した上で、取引先とのやり取りをする
13	外部対応③	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ
		3.コマ主題細目	取引先の方の受付の発話
		4.コマ主題細目深度	①取引先との関係を理解した上で感謝の気持ちが現れるような応対ができる ②飼い主最優先の応対をカウンターで行う
		5.次コマとの関係	社会マナーを理解した上で、取引先とのやり取りをする
14	外部対応④	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ
		3.コマ主題細目	取引先の方の受付のカウンター実習
		4.コマ主題細目深度	①一連の流れをスムーズにできる ②他者への配慮ができた言動ができる
		5.次コマとの関係	受付カウンター業務の応用として臨機応変な対応
15	緊急時の対応①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	待合室飼い主への対応
		3.コマ主題細目	緊急時の電話の受け方ベーシック 待合室の飼い主へ協力お願いの発話
		4.コマ主題細目深度	①急患の来院時に、待合室の飼い主へ依頼することがあることを知る ・待合の飼い主様へ、必要な情報を提供できる ・ご協力いただいた飼い主様へその後の対応 ②急患の電話で必要事項の確認ができる
		5.次コマとの関係	予期しない事態への臨機応変な対応
16	緊急時の対応②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	待合室飼い主への対応
		3.コマ主題細目	緊急時の電話の受け方ベーシック 待合室の飼い主へ協力お願いの発話
		4.コマ主題細目深度	①模擬待合室を背景に配役(動物看護師、急患、待合飼い主、獣医師)し、ローテーショントレーニング ②それぞれの立場になって言動に配慮できる
		5.次コマとの関係	予期しない事態への臨機応変な対応
17	不快感情の飼い主対応	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	相手の話を落ち着いて聞き、内容を理解する
		3.コマ主題細目	歩み寄る対応、初動対応の発話
		4.コマ主題細目深度	①必要な情報の聞き取り、時間をいただく ②スタッフに報告をする
		5.次コマとの関係	予期しない事態への臨機応変な対応

院内コミュニケーション-2

18	不快感情の飼い主対応	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	高頻度業務の実技 相手の話を落ち着いて聞き、内容を理解する 歩み寄る対応、初動対応の演習 ①傾聴の姿勢、必要な情報の聞き取りをスムーズにできる チームを意識し個人の精度を高める	
19	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング チームコミュニケーション 複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識 ①「受付カウンター(動物看護師、電話をかける飼い主、来院者、待合飼い主)」と「診察室(動物看護師、獣医師、受診中飼い主)」に別れてローテーションしながら一連の流れをスムーズにできる 個人・グループの精度を高める	
20	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング チームコミュニケーション 複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識 ①チーム内ローテーショントレーニング(準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法) ②社会人としての立ち振る舞いを意識し積極的に取り組む 個人・グループの精度を高める	
21	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング チームコミュニケーション 複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識 ①チーム内で積極的に行動・発言できる ②様々な配役になることで、当事者の心情を思慮できる ③学んだことを意識し、実践できる 個人・グループの精度を高める	
22	実技試験 演目選択① ～外部対応～ ～緊急時の対応～ ～不快感情の飼い主対応～	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	プレゼンテーション意識を向上する 総合シュミレーションのアウトプット、他人評価 複数のシチュエーションから演目を選択し自由設定で発表する チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識 ①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をの良い所とアドバイスを記入する 実技試験の続き	
23	実技試験 演目選択② ～外部対応～ ～緊急時の対応～ ～不快感情の飼い主対応～	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	プレゼンテーション意識を向上する 総合シュミレーションのアウトプット、他人評価 複数のシチュエーションから演目を選択し自由設定で発表する チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識 ①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をの良い所とアドバイスを記入する 多様なシーンで実践できる歩み寄る対応を身につける	
24	実技試験の振り返り 演目選択③ ～外部対応～ ～緊急時の対応～ ～不快感情の飼い主対応～	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	プレゼンテーション意識を向上する 総合シュミレーションのアウトプット、他人評価 複数の場面設定からの選択と自由設定、これまでの総合した対応実技発表と他人の評価を行う ①実技発表時の振り返りを行う (習得しているものを自己確認する、他人の評価をもとに改善を図る。実技試験内容のポイントを押さえないおす) ビジネスマナーの実践	
25	訪問と対応のマナー①	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	社会人としての振る舞い ビジネスマナーの基本を知る 名刺交換、席次、ペアワーク ①上座と下座を理解する ②社会の役職での上下関係を理解する ③名刺交換～着席でのマナーを理解する 着席を促すために席次を理解する	
26	訪問と対応のマナー②	1.シラバスとの関係 2.コマ主題 3.コマ主題細目 4.コマ主題細目深度 5.次コマとの関係	社会人としての振る舞い ビジネスマナーの基本を知る 名刺交換、応接室の席次のマナーを知る ①役職、立場から席次を判断できる ②スムーズな名刺交換ができる ③来客者、対応者としての意識の違いを知る 訪問者対応として応接室への案内、給茶	

院内コミュニケーションー2

27	訪問と対応のマナー③	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い
		2.コマ主題	ビジネスマナーの基本を知る
		3.コマ主題細目	名刺交換、席次を理解した応接室への案内、お茶出しの演習
		4.コマ主題細目深度	①模擬応接室までの案内と退室ができる ②名刺交換ができる ③給茶ができる
		5.次コマとの関係	応接室のレイアウトに合わせた席次と給茶
28	訪問と対応のマナー④	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い
		2.コマ主題	ビジネスマナーの基本を知る
		3.コマ主題細目	訪問と対応のマナー①②③反復トレーニングと応用
		4.コマ主題細目深度	①応接室のレイアウトに応じた案内をする(席次、ドア) ②商談中の給茶での注意
		5.次コマとの関係	深刻な場面での対応
29	深刻な場での対応 ～訃報時～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	(感情を示す)初動対応
		3.コマ主題細目	相手が望む人への取り次ぎ
		4.コマ主題細目深度	①電話をかけてきた飼い主の感情をくむ ②相手が望む人へ取り次ぐ必要性和重要性を理解する ③お帰りの際の対応
		5.次コマとの関係	深刻な場面での対応
30	深刻な場での対応 ～診察時、面会時～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	飼い主に配慮しながら業務を行う
		3.コマ主題細目	診察中、面会中飼い主への配慮
		4.コマ主題細目深度	①診察中の飼い主と電話先の飼い主の個人情報に配慮し、獣医師へ取次ぎができる ②飼い主に配慮した入院室への出入りができる ③入院室で面会中の飼い主へ声がけができる
		5.次コマとの関係	「院内コミュニケーション3」接遇トレーニングの応用に進む

院内コミュニケーション-3

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		知識や技術などの目に見えないものの価値はその提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション-3」は、「1」「2」の応用として多様なシチュエーションを用いたトレーニングを行う。動物医療提供者として安心かつ安全で、信頼を基本にホスピタリティ精神を接遇に活かす対応について、人間心理(顧客心理)を思慮しながら実践力を養う。また、受付ではしばしば同時に複数の対応が必要とされたり、予期しない事項への問題解決能力が問われる場合がある。マニュアルだけでなく誠実さと謙虚さを持ち常に人間力を高める心構えで飼い主、スタッフとのコミュニケーション作りに活かす必要があり、コミュニケーション能力は経験と慮りが影響する。本科目を通じて社会人としての準備段階であることを認識し、学習に取り組む必要がある。
履修条件	院内コミュニケーション-1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	院内コミュニケーション-3	
単位	1(1~3合わせて3単位)	
履修時間	15時間(1~3合わせて75時間)	
回数	15回(1~3合わせて75回)	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①ホスピタリティを伝える動物病院の接遇(インターズー)②看護におけるコミュニケーション(へるす出版)③動物病院のためのクレーム対応のマインド&スキル(インターズー)	

50分/コマ		コマシラバス		教材・教具
コマのテーマ	項目	内容		
1	飼い主のお迎え(展開)①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	应用到きかせた初診問診票・同意書の記入案内	
		3.コマ主題細目	初診問診票・同意書の記入に関する諸問題への対応	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主のお迎えから展開した応用の練習 ・「拾ったから誕生日が不明」「緊急連絡先は書かないとダメか」などの質問に対応できる	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(飼い主のお迎え)	
2	飼い主のお迎え(展開)②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	应用到きかせた初診問診票・同意書の記入案内	
		3.コマ主題細目	病院の書式に合わせた記入案内	
		4.コマ主題細目深度	①記入項目が多い書式の必要最低限の記入枠案内 ②裏面、複数枚に渡って記入欄がある書式での記入案内	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(飼い主のお迎え)	
3	飼主様のお迎え(展開)③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	应用到きかせた初診問診票・同意書の記入案内、再診受付	
		3.コマ主題細目	相手(の身体状況)に合わせた記入案内	
		4.コマ主題細目深度	①身体の不自由な飼い主に対しての対応(足の悪い方、耳の遠い方、目の悪い方など) ②記入を面倒に感じている飼い主に対しての対応 ③来院歴がある可能性のある飼主様に対しての対応 ④診察券を出さない飼主様に対しての対応	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(薬の説明)	
4	薬の説明(展開)①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	应用到きかせた薬の説明	
		3.コマ主題細目	分包数の多い内用薬をスムーズに説明する	
		4.コマ主題細目深度	①ページックな説明の復習 ②分包数の確認作業の必要性を理解 ③分包数確認と説明しながら薬袋に収める一連の作業がスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(薬の説明)	
5	薬の説明(展開)②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	应用到きかせた薬の説明	
		3.コマ主題細目	相手が理解できる説明(外用薬)	
		4.コマ主題細目深度	①薬の効果、処方内容を伝える ②経験確認を行う ③精算後に投与方法を伝授する ④受付業務を滞らせない場所で説明する	
		5.次コマとの関係	待合室環境に配慮する	
6	待合室管理①	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する、高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	快適な待合室管理	
		3.コマ主題細目	カウンターワークの考え方、薬の説明・精算業務復習	
		4.コマ主題細目深度	①待合室管理の重要性 ②定型業務をカウンターで分業する ③カウンターの形に合わせて分業する	
		5.次コマとの関係	待合室環境に配慮する	
7	待合室管理②	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する、動物の安全に配慮した対応	
		2.コマ主題	快適な待合室管理	
		3.コマ主題細目	待合室管理を意識した診察室への案内、グループワーク	
		4.コマ主題細目深度	①ページックな診察室への案内復習 ②待機中の注意喚起復習 ③歩み寄り対応の復習(荷物のサポート、後手にならないスムーズな誘導)	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(電話対応)	

院内コミュニケーションー3

8	電話対応(展開)①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	音声表現スキルの向上、信頼につながる応対
		3.コマ主題細目	ベーシックな電話対応復習、相手の質問への応対する ①ベーシックな電話対応復習:名乗る、挨拶、話しながらメモを取る、聞き取れないときの対応、状況案内、処理案内
		4.コマ主題細目深度	②処理案内についての相手から質問に答える ・「折り返すっていつ頃になるの?」「急いでいるのですが」など
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(電話対応)
9	電話対応(展開)②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	受付・動物看護師の判断で処理できる用件の対応
		3.コマ主題細目	電話でのフードの注文を受ける、ペアワーク ①ベーシックな電話対応(名乗る、挨拶、話しながらメモを取る、聞き取れないときの対応、状況案内、処理案内)の復習
		4.コマ主題細目深度	②状況確認(診察券が手元がない場合のカルテ検索) ③在庫管理、後処理を意識した対応を行う ④クローズドクエスチョンでの対応を行う
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(電話対応)
10	電話対応(展開)③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	受付・動物看護師の判断で処理できる用件の対応
		3.コマ主題細目	道案内、初診飼い主からの問い合わせ ①敬語復習(いる、見るなど)
		4.コマ主題細目深度	②相手の現在地確認 ・目印になるものを方向と色で案内する ・所要時間の案内する ③再電話しやすいよう案内し、名乗って切る ④来院時のスマートな対応につなげる
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(電話対応)
11	電話対応(展開)④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	受付・動物看護師の判断で処理できない用件の対応
		3.コマ主題細目	以前処方投薬許可の確認、ペアワーク ①ベーシックな電話対応(名乗る、挨拶、話しながらメモを取る、聞き取れないときの対応)の復習
		4.コマ主題細目深度	②残量確認し、状況案内を行う ③獣医師への確認後、処理案内をする
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用(電話対応)
12	電話対応(展開)⑤	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	多重処理で行う受付業務
		3.コマ主題細目	音声スキルの向上、精算中にかかってきた電話の応対、来院を促す電話対応、グループワーク ①精算相手との対応を一時中断し、すぐに電話に出る ②電話先の相手に状況説明、処理案内をする ③電話中の精算相手への配慮 ④折り返し電話での対応 ⑤来院を迷う飼い主様へ来院を促す対応
		4.コマ主題細目深度	
		5.次コマとの関係	人間心理を知る
13	人間心理を知る①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	顧客心理
		3.コマ主題細目	顧客とは、様々なケースでの顧客心理を考える ①顧客とは何か(動物病院にとっての顧客とは)
		4.コマ主題細目深度	②ケーススタディで相手の心理を読むトレーニング ③顧客心理をよんだ応対
		5.次コマとの関係	人間心理を知る
14	人間心理を知る②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技
		2.コマ主題	顧客心理
		3.コマ主題細目	不快感情の飼い主様対応(復習と展開) ①初動対応の復習
		4.コマ主題細目深度	・飼い主様の不快につながることを検討する ・検討した事案についての予防策を練る
		5.次コマとの関係	人間心理を知る
15	人間心理を知る③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング
		2.コマ主題	スタッフコミュニケーションを円滑に行う
		3.コマ主題細目	相手の思考の特徴パターンを知る ①右脳・左脳心理を知る ②行動などからのコミュニケーションパターン知る ③自分の行動パターンや考え方についてより深く理解する
		4.コマ主題細目深度	④相手の行動パターンや考え方を理解し、コミュニケーションの幅を広げる
		5.次コマとの関係	

2. 3. 実証講座について

2. 3. 1. 実証講座の実施実績

(1) 院内コミュニケーション（動物看護師対象） 15 時間

講師：大阪ペピイ動物看護専門学校 石橋妙子

◆実施場所 学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校

第1回 平成26年11月8日 5時間 参加者 13名

第2回 平成26年12月6日 5時間 参加者 12名

第3回 平成26年12月27日 5時間 参加者 14名

2. 3. 2. 実証講座の記録

(1) 院内コミュニケーション（動物看護師対象）





3. 受講者アンケート結果

次ページ以降に

臨床動物看護学（動物看護教員対象） 東京・札幌・仙台・大阪会場 各 6 時間

臨床動物看護学（4 会場総合）

クライアントエデュケーション（動物看護教員対象） 高松・大阪会場 各 6 時間

クライアントエデュケーション（2 会場総合）

動物看護学（動物看護師対象） 1 日 5 時間×3 日間 計 15 時間

動物看護学（3 日間総合）

動物栄養学（動物看護師対象） 1 日 5 時間×3 日間 計 15 時間

動物栄養学（3 日間総合）

院内コミュニケーション（動物看護師対象） 1 日 5 時間×3 日間 計 15 時間

院内コミュニケーション（3 日間総合）

の受講者アンケート結果を掲載する。

授業に関するアンケート

実施日: 平成26年9月6日

受講者数: 12 名

開催場所: 学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	7	4	11	0
割合(%)	58%	33%	92%	0%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	7	4	1	0	0	12
	割合(%)	58%	33%	8%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	1	0	0	0	11	12	
割合(%)	8%	0%	0%	0%	92%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	2	10	0	0	0	12
	割合(%)	17%	83%	0%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	8	3	1	0	0	12
	割合(%)	67%	25%	8%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	4	3	2	2	1	12
	割合(%)	33%	25%	17%	17%	8%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	5	5	1	0	1	12
	割合(%)	42%	42%	8%	0%	8%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	9	2	0	0	1	12
	割合(%)	75%	17%	0%	0%	8%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	6	5	0	0	1	12
	割合(%)	50%	42%	0%	0%	8%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	0	11	1	0	0	12
	割合(%)	0%	92%	8%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	0	12
	割合(%)	58%	42%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%

受講者の感想

- ・後半部分が早く追いつけませんでした。自分自身でもよく読み込んで今後の授業に役立てたいと思います。
- ・資料のすずみが速く、追いつけない部分もありましたが、一つ一つの説明が興味を引かれるコメントであったり、学校を卒業して以来、久々のグループワークでとても新鮮でした。授業の進め方に対しては、漠然とした感じで考えてしまっていた部分も今回の講義を参考に組み立てていきたいと思っています。
- ・今回参加させていただき導入というものがとても重要ということを実感しました。授業内で写真を見せ生徒に考えさせる事は興味をひく事は勿論のこと今後現場へ出る上でも観察力が身に付くので将来役立つと思いました。今日学んだ事、今後の授業に生かしてみたいと強く思います。
- ・コマシバスの重要性和学習内容・指導方法の計画(時間配分などを含めて)を立てることの大切さを感じました。ただ単に授業をするというだけでなく学生の有益性を考慮した授業計画を実施することを心がけたいと思います。久しぶりにGWをして「話し合いをする→意見をまとめる→発表」の緊張感と難しさを味わうことができ、学生の気持ちも理解できました。
- ・動物看護以外の業界(人間の看護師)やグループディスカッションなどを取り入れており、飽きのこない刺激的な授業を受けることができました。
- ・GWの時、最初にグループ内での再度自己紹介の時間をとっていただけたらよりよいGWができたのではないかと思います。
- ・授業を聞く前は難しい内容でどうしようかとおもいましたが、実際に聞いて楽しく理解することができました。
- ・今後、私たちが教員として実施していくべき授業展開を実際に受けさせていただき、模範とすべき教員像を思い浮かべることができました。
- ・国家資格にむけて人間の医療看護教育を手本に今後のシラバスを組もうと考えていたので今回、人間の看護についての教育をお聞きできた事に大変感謝しております。
- ・とても参考になる授業でした。授業の準備段階から講義、グループワークの実施方法など今すぐに実践したい内容でした。
- ・授業の展開をコマシバスの方式で作成していただいたことによりコマシバスとはどういうものかという理解が深まりました。
- ・グループディスカッションでの学生からの意見の聞き出し方など実際の授業でおこなっていきたく感じました。

授業に関するアンケート

実施日: 平成26年10月18日

受講者数: 12 名

開催場所: 学校法人 吉田学園 北海道福祉大学校・北海道リハビリテーション大学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	2	2	10	1
割合(%)	17%	17%	83%	8%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	12	12	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	3	9	0	0	0	12
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	8	3	1	0	0	12
	割合(%)	67%	25%	8%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	1	2	0	1	8	12
	割合(%)	8%	17%	0%	8%	67%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	1	3	1	4	3	12
	割合(%)	8%	25%	8%	33%	25%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	7	4	0	0	1	12
	割合(%)	58%	33%	0%	0%	8%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	9	2	0	0	1	12
	割合(%)	75%	17%	0%	0%	8%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	4	8	0	0	0	12
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	3	0	0	1	12
	割合(%)	67%	25%	0%	0%	8%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%

受講者の感想

・授業を行う際の計画の必要性を強く感じました。これからこの分野の授業を受け持つので取り入れていきたいです。
 ・これまでも看護過程や動物看護学に関するセミナーには何度か参加してきたが、どれも難解で、学習到達目標も明確ではなかったのに対して、山下先生にはそれを明示なさって頂いたので、大変理解しやすい講座になった。
 ・配付していただいたパワーポイント資料は、「何が大切なのか」を一目で分かる様にできていて、見易いものでした。他の別紙資料は通し番号があるとわかりやすかったと思います。
 ・私は今現在学生なので、このような視点で考えた事はありませんでした。とても深く、難しい事ですが分かりやすく自分の為になりました。今後に生かしていきたいと思います。
 ・動物看護学の授業への導入について、総論は1年生、具体的な事例を挙げるなどの各論は、2年生になってからだと思いますが、やはり全ての基礎に解剖生理があるのだと改めて思いました。学生には栄養学、薬理学が苦手という者もいますが、シラバスを元に授業を進めていけば、教員の学習させる目標が立つので、実施したいと思います。
 ・動機付け、何ができる分かる様になるか、毎回、毎教科で繰り返し提示することが大切と分かりました。
 ・自主的に看護を考える際、(入院や手術後の看護等)獣医師(院長)を呼ぶべき緊急症状(疾病別で理解させる・獣医師に助けを求める根拠と勇気・ナースコールが押せないから動物看護師が最新の注意を払って入院を観察する)も考えさせるべきだと思います。「飼育(環境)格差」という概念も看護学教育に浸透させたい。※年金生活飼主とお金持飼主の違い(治療内容も変わる)
 ・授業展開や生徒たちへのアプローチ方法など、今まで感覚で行っていた部分が、今回の実証授業を聞いて明確になりました。
 ・「教える」ということを全く学んでこなかった自分にとって、今回のような講義を受けられることは、本当に貴重な経験でした。
 ・授業運営を行う中で不安なことや、このやり方がBest! という道が確立されていない自分ですが、もっと教員教育の場を作って頂けるとうれしく思います。

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月9日

受講者数: 7 名

開催場所:学校法人 日本環境科学学院 専門学校アニマルインターカレッジ

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	3	0	4	0
割合(%)	43%	0%	57%	0%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	5	2	0	0	0	7
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	1	0	0	0	6	7	
割合(%)	14%	0%	0%	0%	86%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	0	6	1	0	0	7
	割合(%)	0%	86%	14%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	2	3	2	0	0	7
	割合(%)	29%	43%	29%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	1	0	0	0	7
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	0	0	0	0	7	7
	割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	2	1	0	1	3	7
	割合(%)	29%	14%	0%	14%	43%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	2	4	1	0	0	7
	割合(%)	29%	57%	14%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分にできていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	6	1	0	0	0	7
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	3	2	0	0	2	7
	割合(%)	43%	29%	0%	0%	29%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	3	3	0	0	1	7
	割合(%)	43%	43%	0%	0%	14%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	2	3	1	0	1	7
	割合(%)	29%	43%	14%	0%	14%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	3	3	0	0	1	7
	割合(%)	43%	43%	0%	0%	14%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思えましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	1	0	0	0	7
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	4	3	0	0	0	7
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	2	0	0	0	7
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<p>・授業をする上でコマシラバスの重要性を大変強く感じました。たくさんある専門学校がある程度統一した計画の上で指導できることが動物看護師の更なる質の向上につながると思えました。</p> <p>・東北では特にこの様な機会が無かったので大変有意義な時間でした。今後も授業テクニック等ご教授頂ければ幸いです。</p> <p>・1日と短い時間の中での講習でしたが、多くを学べたと思います。同時に自分の勉強不足を痛感しました。学生時代に自分が学んだことではないので、これから時間をかけて理解して行きたいと思います。授業の展開方法に関して、悩む部分も多く、今回の講習は大変参考になりました。</p> <p>・実証して下さったことで、今後の授業の仕方の参考になりました。</p> <p>・改めて、看護過程の大切なことを学び、今後授業内容を見直し、本日学んだことを今後に生かしたいと思っております。</p> <p>・仙台での教員向けセミナーはなかなか無かったので、非常に有意義でした。またの開催を期待しています。</p>						

科目名: 臨床動物看護学(対象: 動物看護教員) 6時間 大阪会場

授業に関するアンケート

実施日: 平成26年11月29日

受講者数: 12 名

開催場所: 学校法人 宮崎学園 大阪ペイ動物看護専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	6	1	11	0
割合(%)	50%	8%	92%	0%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	4	8	0	0	0	12
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	12	12	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	3	9	0	0	0	12
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	2	8	1	0	1	12
	割合(%)	17%	67%	8%	0%	8%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	3	0	0	1	12
	割合(%)	67%	25%	0%	0%	8%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	5	4	3	0	0	12
	割合(%)	42%	33%	25%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	1	5	2	2	2	12
	割合(%)	8%	42%	17%	17%	17%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	3	9	0	0	0	12
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	4	8	0	0	0	12
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	0	12	0	0	0	12
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	0	12
	割合(%)	58%	42%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%

受講者の感想

・このようなセミナーは新たな知識を得るだけでなく、自分自身を振り返り評価できる良い機会だと感じた。
 ・コマシラバス等を取り入れ、学生たちが今以上に理解できる授業にしていきたいと思っています。導入で学生たちをひきつけられるよう工夫していきます。授業の組み立てをするのが、とても楽しみになりました。
 ・教員になって5か月、コマシラバスなどは作り方もあまり理解していなかった部分もありましたが、本日もとても勉強になりました。
 ・臨床経験のない私には難しい内容でしたが、大変勉強になりました。
 ・今後の授業展開で、今回のお話にあったことを活かして学生さんに興味を持ってもらえる時間にしていきたい。
 ・本学はPDIに工夫が必要だと感じた。(資料が古い、おもしろくない)改善します。
 ・授業の行い方について再確認する良い機会となりました。動物看護師を目指す学生たちに観察できる人物を育てる教育をしていこうと思いました。
 ・看護として知識を教えるのに、これだけの方が集まり意見を出してやられるのに感動しました。
 ・授業展開に関して大変貴重なお話を聞くことができました。
 ・同じ科目を教えていても、クラスのカラーでまったく同じ授業にはならず、授業そのものが学生に「生かされている」と感じています。それらを学生に現場で「生かして」もらえる授業にしていきたいと思っています。授業の進め方は大変勉強になり、授業に取り入れれ私自身も学生に負けぬように成長し、動物看護、看護教員として日々勉強を続けたいと思います。

科目名:臨床動物看護学(対象:動物看護教員)

授業に関するアンケート

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
9月6日 東京会場 回答数(人) 複数選択可能	7	4	11	0
割合(%)	58%	33%	92%	0%
10月18日 札幌会場 回答数(人) 複数選択可能	2	2	10	1
割合(%)	17%	17%	83%	8%
11月9日 仙台会場 回答数(人) 複数選択可能	3	0	4	0
割合(%)	43%	0%	57%	0%
11月29日 大阪会場 回答数(人) 複数選択可能	6	1	11	0
割合(%)	50%	8%	92%	0%

質問事項	回答選択肢					合計
	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
1 授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか						
9月6日 東京会場 回答数(人)	7	4	1	0	0	12
割合(%)	58%	33%	8%	0%	0%	100%
10月18日 札幌会場 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
11月9日 仙台会場 回答数(人)	5	2	0	0	0	7
割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
11月29日 大阪会場 回答数(人)	4	8	0	0	0	12
割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
1 授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
9月6日 東京会場 回答数(人)	1	0	0	0	11	12
割合(%)	8%	0%	0%	0%	92%	100%
10月18日 札幌会場 回答数(人)	0	0	0	0	12	12
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
11月9日 仙台会場 回答数(人)	1	0	0	0	6	7
割合(%)	14%	0%	0%	0%	86%	100%
11月29日 大阪会場 回答数(人)	0	0	0	0	12	12
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
2 シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
9月6日 東京会場 回答数(人)	2	10	0	0	0	12
割合(%)	17%	83%	0%	0%	0%	100%
10月18日 札幌会場 回答数(人)	3	9	0	0	0	12
割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
11月9日 仙台会場 回答数(人)	0	6	1	0	0	7
割合(%)	0%	86%	14%	0%	0%	100%
11月29日 大阪会場 回答数(人)	3	9	0	0	0	12
割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%

臨床看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか？	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	8	3	1	0	0	12
	割合(%)	67%	25%	8%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	2	3	2	0	0	7
	割合(%)	29%	43%	29%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	2	8	1	0	1	12
割合(%)	17%	67%	8%	0%	8%	100%	
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	6	1	0	0	0	7
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	8	3	0	0	1	12
割合(%)	67%	25%	0%	0%	8%	100%	
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体は参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	8	3	1	0	0	12
	割合(%)	67%	25%	8%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	1	2	0	1	8	12
	割合(%)	8%	17%	0%	8%	67%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	0	0	0	0	7	7
	割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	5	4	3	0	0	12
割合(%)	42%	33%	25%	0%	0%	100%	
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	4	3	2	2	1	12
	割合(%)	33%	25%	17%	17%	8%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	1	3	1	4	3	12
	割合(%)	8%	25%	8%	33%	25%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	2	1	0	1	3	7
	割合(%)	29%	14%	0%	14%	43%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	1	5	2	2	2	12
割合(%)	8%	42%	17%	17%	17%	100%	

臨床看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	5	5	1	0	1	12
	割合(%)	42%	42%	8%	0%	8%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	2	4	1	0	0	7
	割合(%)	29%	57%	14%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	3	9	0	0	0	12
割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%	
8	教員は、授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%	
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%	
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	6	1	0	0	0	7
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%	

臨床看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	9	2	0	0	1	12
	割合(%)	75%	17%	0%	0%	8%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	7	4	0	0	1	12
	割合(%)	58%	33%	0%	0%	8%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	3	2	0	0	2	7
	割合(%)	43%	29%	0%	0%	29%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	4	8	0	0	0	12
割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%	
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	6	5	0	0	1	12
	割合(%)	50%	42%	0%	0%	8%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	9	2	0	0	1	12
	割合(%)	75%	17%	0%	0%	8%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	3	3	0	0	1	7
	割合(%)	43%	43%	0%	0%	14%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	8	4	0	0	0	12
割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%	
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	12	0	0	0	0	12
割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%	
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	9月6日 東京会場 回答数(人)	0	11	1	0	0	12
	割合(%)	0%	92%	8%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	4	8	0	0	0	12
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	2	3	1	0	1	7
	割合(%)	29%	43%	14%	0%	14%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	0	12	0	0	0	12
割合(%)	0%	100%	0%	0%	0%	100%	

臨床看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
		強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
15	系統的に整理されていると感じましたか？						
	9月6日 東京会場	回答数(人)	9	3	0	0	12
		割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場	回答数(人)	9	3	0	0	12
		割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場	回答数(人)	3	3	0	0	7
		割合(%)	43%	43%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場	回答数(人)	7	5	0	0	12
	割合(%)	58%	42%	0%	0%	100%	
16	あなた自身の授業に役立つと思えましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	9月6日 東京会場	回答数(人)	11	1	0	0	12
		割合(%)	92%	8%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場	回答数(人)	11	1	0	0	12
		割合(%)	92%	8%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場	回答数(人)	6	1	0	0	7
		割合(%)	86%	14%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場	回答数(人)	10	2	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	100%	
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	9月6日 東京会場	回答数(人)	7	5	0	0	12
		割合(%)	58%	42%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場	回答数(人)	8	4	0	0	12
		割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場	回答数(人)	4	3	0	0	7
		割合(%)	57%	43%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場	回答数(人)	10	2	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	100%	
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	9月6日 東京会場	回答数(人)	6	6	0	0	12
		割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場	回答数(人)	8	3	0	0	12
		割合(%)	67%	25%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場	回答数(人)	5	2	0	0	7
		割合(%)	71%	29%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場	回答数(人)	6	6	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%	

臨床看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください		4	3	2	1	未回答	
19	9月6日 東京会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
	10月18日 札幌会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	11月9日 仙台会場 回答数(人)	7	0	0	0	0	7
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 大阪会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%

授業に関するアンケート

実施日:平成26年10月18日 受講者数: 3 名
 開催場所:学校法人 穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	0	0	3	0
割合(%)	0%	0%	100%	0%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	3	3	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	0	3	0	0	0	3
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	0	2	1	0	0	3
	割合(%)	0%	67%	33%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	1	1	0	0	1	3
	割合(%)	33%	33%	0%	0%	33%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	0	2	0	0	1	3
	割合(%)	0%	67%	0%	0%	33%	100%
8	教員は授業の準備は充分にできていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	1	2	0	0	0	3
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<p>・今回の講義でクライアントエディケーションについてや授業の進め方などたくさんの事が勉強になりました。これから勉強して、先生方の様に学生達にも分かりやすい授業ができ社会に出て役立つ看護師を育てていきたいと思えます。</p> <p>・クライアントエディケーションという課目の体系がよくわかりました。自分の中では院内でのコミュニケーションという認識でありました。実習授業で飼い主の方への説明として取り入れておりましたがこれからはその意義や要領といったものを含めて学生に伝えていきたいと思えます。</p> <p>・今回参加させていただき、他の学校の先生方が色々な工夫をされて授業に取り組まれていることがよく分かり、大変参考になりました。自分で良いと思って行っている授業への考えと今回授業いただいた内容が通じる所があり、自分の授業への自信にもなりました。細かいテクニックや工夫を参考に、よりよい授業が出来るようになりたいと強く思いました。</p>						

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月1日

受講者数: 12 名

開催場所:学校法人 宮崎学園 大阪ペイ動物看護専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	2	1	12	0
割合(%)	17%	8%	100%	0%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	0	12
	割合(%)	58%	42%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	1	0	0	0	11	12	
割合(%)	8%	0%	0%	0%	92%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	2	10	0	0	0	12
	割合(%)	17%	83%	0%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	7	4	1	0	0	12
	割合(%)	58%	33%	8%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	1	6	4	0	1	12
	割合(%)	8%	50%	33%	0%	8%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	3	8	0	0	1	12
	割合(%)	25%	67%	0%	0%	8%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	0	12
	割合(%)	58%	42%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	12	0	0	0	0	12
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	3	9	0	0	0	12
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<p>・説明がわかりやすく実践的な内容だったので、とても勉強になった。今回の内容をしっかりと学校で生かしておきたいと思う。</p> <p>・授業で用いる自作教材や伝え方の工夫等、特に興味を惹かれました。また、クライアントデュークーションに関してより自分自身が理解することが出来、さっそく学生にも還元していけたらと思っています。</p> <p>・専門学校間での意見交換時、悩み事は言いやすいが、行っている工夫はどこまで開示して良いのか不安になった。事前に学内で打ち合わせしておけばよかったと思った。</p> <p>・クライアントデュークーションに関しては非常に勉強になりました。今後も参加したいとは思っています。</p> <p>・まだ教員になって年数も経験も未熟な私が重要な科目の一つである今回の授業に代表の一員として参加させていただけた事は本当に良い刺激となりました。自分なりの経験と今回の授業で勉強させていただいた事を更に身に付けて今後の学生教育に生かしていきたいと思っています。</p> <p>・前に一度クライアントエデュケーションの授業でフィラリアについての授業をもたせて頂いたことがあるのですが、今回の講座を受け「授業の組み立て方、学生への参加の形をどのようにとらせるか、飼主様に説明すべき内容をどのように想像させるか」とても勉強になりました。色々な授業への工夫や学生へのアプローチの方法(考え方やモチベーション)の上げ方も沢山の学校の先生方の話が聞け、私も多くのことを考えていきたいと思いました。</p> <p>・授業がまとまっていてまた講師の先生の話が上手なので時間があつと言う間に過ぎました。今回の内容を学生たちに伝えていきたいと思っています。</p>						

科目名:クライアントエデュケーション(対象:動物看護教員)

授業に関するアンケート

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
10月18日 高松会場 回答数(人) 複数選択可能	0	0	3	0
割合(%)	0%	0%	100%	0%
11月1日 大阪会場 回答数(人) 複数選択可能	2	1	12	0
割合(%)	17%	8%	100%	0%

質問事項	回答選択肢					合計
1 授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
10月18日 高松会場 回答数(人)	3	0	0	0	0	3
割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
11月1日 大阪会場 回答数(人)	7	5	0	0	0	12
割合(%)	58%	42%	0%	0%	0%	100%
1 授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
10月18日 高松会場 回答数(人)	0	0	0	0	3	3
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
11月1日 大阪会場 回答数(人)	1	0	0	0	11	12
割合(%)	8%	0%	0%	0%	92%	100%
2 シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
10月18日 高松会場 回答数(人)	0	3	0	0	0	3
割合(%)	0%	100%	0%	0%	0%	100%
11月1日 大阪会場 回答数(人)	2	10	0	0	0	12
割合(%)	17%	83%	0%	0%	0%	100%
3 授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
10月18日 高松会場 回答数(人)	3	0	0	0	0	3
割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
11月1日 大阪会場 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
4 シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
10月18日 高松会場 回答数(人)	3	0	0	0	0	3
割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
11月1日 大阪会場 回答数(人)	10	2	0	0	0	12
割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
5 授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
10月18日 高松会場 回答数(人)	0	2	1	0	0	3
割合(%)	0%	67%	33%	0%	0%	100%
11月1日 大阪会場 回答数(人)	7	4	1	0	0	12
割合(%)	58%	33%	8%	0%	0%	100%

CE(総合)

質問事項		回答選択肢					合計	
		十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答		
6	理解できないことは質問しましたか？							
	10月18日 高松会場	回答数(人)	1	1	0	0	1	3
		割合(%)	33%	33%	0%	0%	33%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	1	6	4	0	1	12
		割合(%)	8%	50%	33%	0%	8%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	0	2	0	0	1	3
		割合(%)	0%	67%	0%	0%	33%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	3	8	0	0	1	12
		割合(%)	25%	67%	0%	0%	8%	100%
8	教員は、授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
		割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
		割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
		割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
		割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	7	5	0	0	0	12
		割合(%)	58%	42%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的 良かった	思わない	聞きづらかった	未回答		
	10月18日 高松会場	回答数(人)	3	0	0	0	0	3
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場	回答数(人)	12	0	0	0	0	12
		割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%

CE(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	10月18日 高松会場 回答数(人)	1	2	0	0	0	3
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場 回答数(人)	3	9	0	0	0	12
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	10月18日 高松会場 回答数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場 回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月18日 高松会場 回答数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場 回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	10月18日 高松会場 回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月18日 高松会場 回答数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	10月18日 高松会場 回答数(人)	3	0	0	0	0	3
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 大阪会場 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%

授業に関するアンケート

実施日:平成26年10月18日

受講者数: 14 名

開催場所:学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	1	3	2	8
割合(%)	7%	21%	14%	57%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	0	3	7	0	4	14
	割合(%)	0%	21%	50%	0%	29%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	3	0	0	4	7	14	
割合(%)	21%	0%	0%	29%	50%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	0	8	1	0	5	14
	割合(%)	0%	57%	7%	0%	36%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	3	5	0	0	6	14
	割合(%)	21%	36%	0%	0%	43%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	3	0	0	6	14
	割合(%)	36%	21%	0%	0%	43%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	0	2	1	1	10	14
	割合(%)	0%	14%	7%	7%	71%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	0	0	3	8	3	14
	割合(%)	0%	0%	21%	57%	21%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	3	9	2	0	0	14
	割合(%)	21%	64%	14%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	4	2	0	0	14
	割合(%)	57%	29%	14%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	10	4	0	0	0	14
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	8	6	0	0	0	14
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	6	8	0	0	0	14
	割合(%)	43%	57%	0%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	7	6	1	0	0	14
	割合(%)	50%	43%	7%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	11	3	0	0	0	14
	割合(%)	79%	21%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	0	13	1	0	0	14
	割合(%)	0%	93%	7%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	2	10	2	0	0	14
	割合(%)	14%	71%	14%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	8	0	0	1	14
	割合(%)	36%	57%	0%	0%	7%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	5	9	0	0	0	14
	割合(%)	36%	64%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	9	0	0	0	14
	割合(%)	36%	64%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	8	6	0	0	0	14
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<p>・フードを染める実験が大変興味深く良かったです。フード系のお話をもっと聞きたいです。</p> <p>・楽しく学ばせてくれようとする姿が印象的でした。知識が不足、理解するのに時間がかかることもありましたが、参加できて良かったです。</p> <p>・内容に関心が持てるように講義して頂きました。大変勉強になりました。</p> <p>・長時間でしたので正直集中出来るか不安でしたが、あっという間に時間が経ち大変楽しく受講できました。</p> <p>・スライドが変わるのが速くてついていけなかった。貰ったプリントの字が小さくて薄い所があり見にくかった。先生は明るくて良いと思いました。もっと現場で使える事を知りたかったです。</p>						

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月8日

受講者数: 15 名

開催場所:学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	6	2	4	5
割合(%)	40%	13%	27%	33%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	3	11	0	0	1	15
	割合(%)	20%	73%	0%	0%	7%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	15	15	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	1	12	1	0	1	15
	割合(%)	7%	80%	7%	0%	7%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	3	10	1	0	1	15
	割合(%)	20%	67%	7%	0%	7%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	7	0	0	2	15
	割合(%)	40%	47%	0%	0%	13%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	1	1	0	3	10	15
	割合(%)	7%	7%	0%	20%	67%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	1	3	3	5	3	15
	割合(%)	7%	20%	20%	33%	20%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	5	8	2	0	0	15
	割合(%)	33%	53%	13%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	7	2	0	0	15
	割合(%)	40%	47%	13%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	9	6	0	0	0	15
	割合(%)	60%	40%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	10	5	0	0	0	15
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	4	10	0	0	1	15
	割合(%)	27%	67%	0%	0%	7%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	6	9	0	0	0	15
	割合(%)	40%	60%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	12	3	0	0	0	15
	割合(%)	80%	20%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	0	15	0	0	0	15
	割合(%)	0%	100%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	6	9	0	0	0	15
	割合(%)	40%	60%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	7	0	0	3	15
	割合(%)	33%	47%	0%	0%	20%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	6	9	0	0	0	15
	割合(%)	40%	60%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	7	8	0	0	0	15
	割合(%)	47%	53%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	10	5	0	0	0	15
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・犬、猫以外の小動物の栄養学も学べると良いな、と思いました。 ・興味深いお話しが沢山聞けて良かったです。 ・今回受講させて頂き展開の仕方や導入方法など大変勉強になりました。今後の授業に活かしていきたいと思います。 ・それぞれの栄養素の生体での作用を詳しく知ることができました。特にサプリの話は個人的に役立ちました。 ・ついていくのに必死でしたがとてもおもしろく、勉強になりました。 ・実際に使える部分が多くて良かった。(犬猫に与えて良いものや悪いもの、小話など) 						

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月29日

受講者数: 13 名

開催場所:学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

※アンケート回収12名

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	6	2	2	4
割合(%)	46%	15%	15%	31%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	1	7	2	0	2	12
	割合(%)	8%	58%	17%	0%	17%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	1	0	0	2	9	12	
割合(%)	8%	0%	0%	17%	75%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	2	8	1	0	1	12
	割合(%)	17%	67%	8%	0%	8%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	5	5	0	0	2	12
	割合(%)	42%	42%	0%	0%	17%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	4	6	0	0	2	12
	割合(%)	33%	50%	0%	0%	17%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	0	3	0	1	8	12
	割合(%)	0%	25%	0%	8%	67%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	0	3	4	4	1	12
	割合(%)	0%	25%	33%	33%	8%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	2	8	2	0	0	12
	割合(%)	17%	67%	17%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	6	1	0	0	12
	割合(%)	42%	50%	8%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	4	5	1	0	2	12
	割合(%)	33%	42%	8%	0%	17%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	3	8	0	0	1	12
	割合(%)	25%	67%	0%	0%	8%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	1	8	3	0	0	12
	割合(%)	8%	67%	25%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	5	6	1	0	0	12
	割合(%)	42%	50%	8%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	5	0	0	2	12
	割合(%)	42%	42%	0%	0%	17%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	4	8	0	0	0	12
	割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	4	7	0	1	0	12
	割合(%)	33%	58%	0%	8%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	5	6	0	0	1	12
	割合(%)	42%	50%	0%	0%	8%	100%
受講者の感想	<p>・糖尿病の合併症の話で、歯石除去後のインスリンの変化は初めて聞いた話で勉強になりました。犬猫にとって何がストレスなのか、興味深いお話でした。</p> <p>・学生の頃苦手だった栄養学ですが、勉強していくと大変興味深く、これを機にまた学習したいと思います。</p> <p>・たくさん勉強になりました。</p> <p>・とても面白い授業でした。</p> <p>・基礎知識が足りなく、理解に苦しむ所もありましたが、理解できた所は「なるほど」とすごくひきこまれました。</p> <p>・ついていくのに必死でしたがとても勉強になりました。</p>						

科目名:動物栄養学(対象:動物看護師)

授業に関するアンケート

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
10月18日 第1回 回答数(人) 複数選択可能	1	3	2	8
割合(%)	7%	21%	14%	57%
11月8日 第2回 回答数(人) 複数選択可能	6	2	4	5
割合(%)	40%	13%	27%	33%
11月29日 第1回 回答数(人) 複数選択可能	6	2	2	4
割合(%)	46%	15%	15%	31%

	質問事項	回答選択肢					合計
		十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	0	3	7	0	4	14
	割合(%)	0%	21%	50%	0%	29%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	3	11	0	0	1	15
	割合(%)	20%	73%	0%	0%	7%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	1	7	2	0	2	12
	割合(%)	8%	58%	17%	0%	17%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	3	0	0	4	7	14
	割合(%)	21%	0%	0%	29%	50%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	0	0	0	0	15	15
	割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
11月29日 第3回 回答数(人)	1	0	0	2	9	12	
割合(%)	8%	0%	0%	17%	75%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	0	8	1	0	5	14
	割合(%)	0%	57%	7%	0%	36%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	1	12	1	0	1	15
	割合(%)	7%	80%	7%	0%	7%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	2	8	1	0	1	12
割合(%)	17%	67%	8%	0%	8%	100%	
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	3	5	0	0	6	14
	割合(%)	21%	36%	0%	0%	43%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	3	10	1	0	1	15
	割合(%)	20%	67%	7%	0%	7%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	5	5	0	0	2	12
割合(%)	42%	42%	0%	0%	17%	100%	

栄養学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	5	3	0	0	6	14
	割合(%)	36%	21%	0%	0%	43%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	6	7	0	0	2	15
	割合(%)	40%	47%	0%	0%	13%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	4	6	0	0	2	12
割合(%)	33%	50%	0%	0%	17%	100%	
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	0	2	1	1	10	14
	割合(%)	0%	14%	7%	7%	71%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	1	1	0	3	10	15
	割合(%)	7%	7%	0%	20%	67%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	0	3	0	1	8	12
割合(%)	0%	25%	0%	8%	67%	100%	
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	0	0	3	8	3	14
	割合(%)	0%	0%	21%	57%	21%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	1	3	3	5	3	15
	割合(%)	7%	20%	20%	33%	20%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	0	3	4	4	1	12
割合(%)	0%	25%	33%	33%	8%	100%	
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	3	9	2	0	0	14
	割合(%)	21%	64%	14%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	5	8	2	0	0	15
	割合(%)	33%	53%	13%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	2	8	2	0	0	12
割合(%)	17%	67%	17%	0%	0%	100%	
8	教員は、授業の準備は充分にできていましたか?	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	8	4	2	0	0	14
	割合(%)	57%	29%	14%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	6	7	2	0	0	15
	割合(%)	40%	47%	13%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	5	6	1	0	0	12
割合(%)	42%	50%	8%	0%	0%	100%	
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	10	4	0	0	0	14
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	9	6	0	0	0	15
	割合(%)	60%	40%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%	

栄養学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	10月18日 第1回	回答数(人)	8	6	0	0	14
		割合(%)	57%	43%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回	回答数(人)	10	5	0	0	15
		割合(%)	67%	33%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回	回答数(人)	6	6	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%	
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	10月18日 第1回	回答数(人)	6	8	0	0	14
		割合(%)	43%	57%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回	回答数(人)	4	10	0	0	15
		割合(%)	27%	67%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回	回答数(人)	4	5	1	0	12
	割合(%)	33%	42%	8%	0%	100%	
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	10月18日 第1回	回答数(人)	7	6	1	0	14
		割合(%)	50%	43%	7%	0%	100%
	11月8日 第2回	回答数(人)	6	9	0	0	15
		割合(%)	40%	60%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回	回答数(人)	3	8	0	0	12
	割合(%)	25%	67%	0%	0%	100%	
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	10月18日 第1回	回答数(人)	11	3	0	0	14
		割合(%)	79%	21%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回	回答数(人)	12	3	0	0	15
		割合(%)	80%	20%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回	回答数(人)	6	6	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	100%	
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	10月18日 第1回	回答数(人)	0	13	1	0	14
		割合(%)	0%	93%	7%	0%	100%
	11月8日 第2回	回答数(人)	0	15	0	0	15
		割合(%)	0%	100%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回	回答数(人)	1	8	3	0	12
	割合(%)	8%	67%	25%	0%	100%	
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	10月18日 第1回	回答数(人)	2	10	2	0	14
		割合(%)	14%	71%	14%	0%	100%
	11月8日 第2回	回答数(人)	6	9	0	0	15
		割合(%)	40%	60%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回	回答数(人)	5	6	1	0	12
	割合(%)	42%	50%	8%	0%	100%	

栄養学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	5	8	0	0	1	14
	割合(%)	36%	57%	0%	0%	7%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	5	7	0	0	3	15
	割合(%)	33%	47%	0%	0%	20%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	5	5	0	0	2	12
割合(%)	42%	42%	0%	0%	17%	100%	
17	あなたの興味を満しましたか？	十分満した	満した	満たさなかつた	全く満たさなかつた	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	5	9	0	0	0	14
	割合(%)	36%	64%	0%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	6	9	0	0	0	15
	割合(%)	40%	60%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	4	8	0	0	0	12
割合(%)	33%	67%	0%	0%	0%	100%	
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	5	9	0	0	0	14
	割合(%)	36%	64%	0%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	7	8	0	0	0	15
	割合(%)	47%	53%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	4	7	0	1	0	12
割合(%)	33%	58%	0%	8%	0%	100%	
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	10月18日 第1回 回答数(人)	8	6	0	0	0	14
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%
	11月8日 第2回 回答数(人)	10	5	0	0	0	15
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
	11月29日 第3回 回答数(人)	5	6	0	0	1	12
割合(%)	42%	50%	0%	0%	8%	100%	

授業に関するアンケート

実施日:平成26年10月25日

受講者数: 15 名

開催場所:学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

※アンケート回収14名

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	5	1	2	6
割合(%)	36%	7%	14%	43%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	5	7	0	0	2	14
	割合(%)	36%	50%	0%	0%	14%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	14	14	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	4	8	0	0	2	14
	割合(%)	29%	57%	0%	0%	14%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	2	14
	割合(%)	50%	36%	0%	0%	14%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	2	14
	割合(%)	43%	43%	0%	0%	14%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	1	1	0	0	12	14
	割合(%)	7%	7%	0%	0%	86%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	0	1	0	5	8	14
	割合(%)	0%	7%	0%	36%	57%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	5	8	1	0	0	14
	割合(%)	36%	57%	7%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	3	0	0	0	14
	割合(%)	79%	21%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	12	2	0	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	11	3	0	0	0	14
	割合(%)	79%	21%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	3	9	0	0	2	14
	割合(%)	21%	64%	0%	0%	14%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	5	7	1	0	1	14
	割合(%)	36%	50%	7%	0%	7%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	13	1	0	0	0	14
	割合(%)	93%	7%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	2	12	0	0	0	14
	割合(%)	14%	86%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	6	8	0	0	0	14
	割合(%)	43%	57%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	4	0	0	5	14
	割合(%)	36%	29%	0%	0%	36%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	4	9	0	0	1	14
	割合(%)	29%	64%	0%	0%	7%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	4	10	0	0	0	14
	割合(%)	29%	71%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	9	5	0	0	0	14
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校では学べなかった“看護の基礎”を学ばせていただき、もっと動物や飼い主さまに寄り添った看護を心がけていこうと思います。 ・普段仕事をしていると改めて動物看護について学んだり考える機会もないので大変良い勉強になりました。 ・今日改めて学んだ事を現場で生かせるよう仕事に取り組みたいと思います。 ・基礎を学ぶことができました。 ・楽しい話を時々はさんでいて楽しく聞くことができました。 ・先輩への指導にも役立つと感じました。しっかりと自分自身も身につけていきたいです。 ・動物への看護を深められる内容でした。すぐに実践できることもあり、自身と動物のためになると思います。 ・教員になり、ようやく学生や教育法に慣れてきた頃に今回改めて動物看護学を学ぶことができたことはありがたいです。これからの教育・自分自身の姿勢を見直して向上していきたいです。 ・動物看護師の現在の状況や普段行っている業務について掘り下げて学ぶことができたと思います。明日からの仕事では、本日学んだことを活かしていきたいと思います。 ・改めて看護師としての立場、やるべき事、見直す所を見つける事ができました。 ・質問時間もあるといいと思いました(今回の授業の事や仕事の事など)。 						

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月1日

受講者数: 19 名

開催場所:学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

※アンケート回収17名

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	5	3	1	8
割合(%)	29%	18%	6%	47%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	2	13	1	0	1	17
	割合(%)	12%	76%	6%	0%	6%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	2	0	0	0	15	17	
割合(%)	12%	0%	0%	0%	88%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	6	10	0	0	1	17
	割合(%)	35%	59%	0%	0%	6%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	10	6	0	0	1	17
	割合(%)	59%	35%	0%	0%	6%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	8	0	0	1	17
	割合(%)	47%	47%	0%	0%	6%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	5	8	4	0	0	17
	割合(%)	29%	47%	24%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	0	3	6	5	3	17
	割合(%)	0%	18%	35%	29%	18%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	2	14	1	0	0	17
	割合(%)	12%	82%	6%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	14	2	0	0	1	17
	割合(%)	82%	12%	0%	0%	6%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	14	3	0	0	0	17
	割合(%)	82%	18%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	12	5	0	0	0	17
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	9	7	0	0	1	17
	割合(%)	53%	41%	0%	0%	6%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	10	7	0	0	0	17
	割合(%)	59%	41%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	14	3	0	0	0	17
	割合(%)	82%	18%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	1	15	0	0	1	17
	割合(%)	6%	88%	0%	0%	6%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	9	7	0	0	1	17
	割合(%)	53%	41%	0%	0%	6%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	6	0	0	3	17
	割合(%)	47%	35%	0%	0%	18%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	6	11	0	0	0	17
	割合(%)	35%	65%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	7	10	0	0	0	17
	割合(%)	41%	59%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	10	7	0	0	0	17
	割合(%)	59%	41%	0%	0%	0%	100%

受講者の感想

・今後の看護の中で自身がどのように行動するかを考えさせられました。看護師として足りないところ、これからやっていきたいことなど、目的が出てきたので、今日の授業をいかせられるようにしていきたいと思います。

・看護過程について大切なポイントを学び、今後の授業に活かしていきたいと強く思いました。

・自分が現場でやっている事を言葉にするとすごくむずかしいと感じましたが、事例を通して理解が深まったのでとても良かったです。

・普段行っているアセスメントも、実際に意識してやってみると聞き漏らしてしまっている点もありました。アビリティモデル等を頭に入れ、意識しながら実践していきたいと思いました。

・いつもなんとなくしていることを改めて順序だててやっていくと意外と悩む所もあり、発見でした。

・看護師・獣医師・動物・飼主等、様々な視点から考えた授業をして頂きました。資料もわかりやすかったです。

・専門学校では看護の授業がなかったため、経験のある方とのグループワークはとても勉強になりました。未経験で動物病院に入社したため、今とても覚えることが多く大変ですが、今日の講義を役立てていきたいと思っています。

・”看護師として”何を大切にしていけばよいか考え直し、又日々の業務に活かしていきたいと思っています。

・グループワークで他のAHTさんと話す機会がとても新鮮で刺激になりました。

・私の勤めている病院では、看護過程に関することをあまり積極的にしていないため、大変勉強になりました。アセスメント、診断から計画を立てられるよう訓練していきたいと思っています。

・臨床の現場では、体で覚え学んできた事を(看護の学校には行ってません)、改めて文面にして読み返すと、新たに気付く事や看護師としての責任ある立場を基礎から学ぶことができました。普段あたり前にしてきた事が、重要な意味を持つんだと改めて思いました。

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月22日

受講者数: 12 名

開催場所:学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校

※アンケート回収10名

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	5	1	0	4
割合(%)	50%	10%	0%	40%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	4	5	0	0	1	10
	割合(%)	40%	50%	0%	0%	10%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	10	10	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	2	7	0	0	1	10
	割合(%)	20%	70%	0%	0%	10%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	5	4	0	0	1	10
	割合(%)	50%	40%	0%	0%	10%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	4	5	0	0	1	10
	割合(%)	40%	50%	0%	0%	10%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	5	3	0	0	2	10
	割合(%)	50%	30%	0%	0%	20%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	0	3	3	2	2	10
	割合(%)	0%	30%	30%	20%	20%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	3	7	0	0	0	10
	割合(%)	30%	70%	0%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	7	3	0	0	0	10
	割合(%)	70%	30%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	8	2	0	0	0	10
	割合(%)	80%	20%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	8	2	0	0	0	10
	割合(%)	80%	20%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	6	3	0	0	1	10
	割合(%)	60%	30%	0%	0%	10%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	7	2	0	0	1	10
	割合(%)	70%	20%	0%	0%	10%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづかった	未回答	
	回答数(人)	8	2	0	0	0	10
	割合(%)	80%	20%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	1	9	0	0	0	10
	割合(%)	10%	90%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	3	7	0	0	0	10
	割合(%)	30%	70%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	3	0	0	2	10
	割合(%)	50%	30%	0%	0%	20%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	5	5	0	0	0	10
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	4	0	0	0	10
	割合(%)	60%	40%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	7	3	0	0	0	10
	割合(%)	70%	30%	0%	0%	0%	100%

受講者の感想

・看護計画など”紙”に書いて残す(みんなで見る)事も大事だが、スタッフ同士”言葉”で確認しあう事も大事だなと感じた。
 ・看護計画はこれからとりくんでいきたいと思いました。
 ・日常の業務に関係した内容でしたので、大変興味深く勉強になりました。
 ・今回の目的の一つとして、”女性の学び直し”ということの後から聞き、動物看護師として働き始めて間もない私のような者は、ただ看護学科を卒業された人たちが最初に学んだことを教わるのかと思っていたので、第2回の時のグループワークなど、ある程度知識がないとできないようなことを行ったので、ついていくのが正直大変でした。しかし、とても刺激になったので良かったです。
 ・看護過程を考えることが難しく、これから実践でも取り入れていけるようになりたいと思いました。動物看護をするうえで、常に倫理観をもって飼い主さんと患者動物の気持ちに寄り添えるよう心がけたいと思います。
 ・私の病院ではまだ看護計画を立てて動物看護をしておりますが、将来的に看護科をとれるぐらいの看護ができることを上司の方も目標としているようなので、今後少しずつでもとり入れ、進めていけたらなと思っています。
 ・ディスカッション等を通して、新しい意見や方法を知ることができて、大変勉強になりました。
 ・まずは知識不足を改善しないと！と強く感じました。動物看護計画用紙なるものを初めて記入し、自分にとって、病院にとってプラスになるのではないかと思います。
 ・動物病院での実習を始めて日が浅いため、自分が何をすべきなのか、勉強するべきなのかすらわからない状態でしたが、看護をするにあたって何が大切なのか知ることができました。グループディスカッションでは現職の看護師さんがどのような考えを持ち、知識を持っているかを肌で感じることで刺激になりました。

看護学(総合)

科目名:動物看護学(対象:動物看護師)

授業に関するアンケート

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
10月25日 第1回 回答数(人) 複数選択可能	5	1	2	6
割合(%)	36%	7%	14%	43%
11月1日 第2回 回答数(人) 複数選択可能	5	3	1	8
割合(%)	29%	18%	6%	47%
11月22日 第3回 回答数(人) 複数選択可能	5	1	0	4
割合(%)	50%	10%	0%	40%

	質問事項	回答選択肢					合計
		十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか						
	10月25日 第1回 回答数(人)	5	7	0	0	2	14
	割合(%)	36%	50%	0%	0%	14%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	2	13	1	0	1	17
	割合(%)	12%	76%	6%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	4	5	0	0	1	10
	割合(%)	40%	50%	0%	0%	10%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	0	0	0	0	14	14
	割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	2	0	0	0	15	17
	割合(%)	12%	0%	0%	0%	88%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	4	8	0	0	2	14
	割合(%)	29%	57%	0%	0%	14%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	6	10	0	0	1	17
	割合(%)	35%	59%	0%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	2	7	0	0	1	10
割合(%)	20%	70%	0%	0%	10%	100%	
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していません	全く していません	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	7	5	0	0	2	14
	割合(%)	50%	36%	0%	0%	14%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	10	6	0	0	1	17
	割合(%)	59%	35%	0%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	5	4	0	0	1	10
割合(%)	50%	40%	0%	0%	10%	100%	

看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	6	6	0	0	2	14
	割合(%)	43%	43%	0%	0%	14%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	8	8	0	0	1	17
	割合(%)	47%	47%	0%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	4	5	0	0	1	10
割合(%)	40%	50%	0%	0%	10%	100%	
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	1	1	0	0	12	14
	割合(%)	7%	7%	0%	0%	86%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	5	8	4	0	0	17
	割合(%)	29%	47%	24%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	5	3	0	0	2	10
割合(%)	50%	30%	0%	0%	20%	100%	
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	0	1	0	5	8	14
	割合(%)	0%	7%	0%	36%	57%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	0	3	6	5	3	17
	割合(%)	0%	18%	35%	29%	18%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	0	3	3	2	2	10
割合(%)	0%	30%	30%	20%	20%	100%	
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	5	8	1	0	0	14
	割合(%)	36%	57%	7%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	2	14	1	0	0	17
	割合(%)	12%	82%	6%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	3	7	0	0	0	10
割合(%)	30%	70%	0%	0%	0%	100%	
8	教員は、授業の準備は充分にできていましたか?	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	11	3	0	0	0	14
	割合(%)	79%	21%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	14	2	0	0	1	17
	割合(%)	82%	12%	0%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	7	3	0	0	0	10
割合(%)	70%	30%	0%	0%	0%	100%	
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	12	2	0	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	14	3	0	0	0	17
	割合(%)	82%	18%	0%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	8	2	0	0	0	10
割合(%)	80%	20%	0%	0%	0%	100%	

看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	10月25日 第1回	回答数(人)	11	3	0	0	14
		割合(%)	79%	21%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回	回答数(人)	12	5	0	0	17
		割合(%)	71%	29%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回	回答数(人)	8	2	0	0	10
	割合(%)	80%	20%	0%	0%	100%	
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	10月25日 第1回	回答数(人)	3	9	0	2	14
		割合(%)	21%	64%	0%	14%	100%
	11月1日 第2回	回答数(人)	9	7	0	1	17
		割合(%)	53%	41%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回	回答数(人)	6	3	0	1	10
	割合(%)	60%	30%	0%	10%	100%	
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	10月25日 第1回	回答数(人)	5	7	1	1	14
		割合(%)	36%	50%	7%	7%	100%
	11月1日 第2回	回答数(人)	10	7	0	0	17
		割合(%)	59%	41%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回	回答数(人)	7	2	0	1	10
	割合(%)	70%	20%	0%	10%	100%	
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	10月25日 第1回	回答数(人)	13	1	0	0	14
		割合(%)	93%	7%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回	回答数(人)	14	3	0	0	17
		割合(%)	82%	18%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回	回答数(人)	8	2	0	0	10
	割合(%)	80%	20%	0%	0%	100%	
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	10月25日 第1回	回答数(人)	2	12	0	0	14
		割合(%)	14%	86%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回	回答数(人)	1	15	0	1	17
		割合(%)	6%	88%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回	回答数(人)	1	9	0	0	10
	割合(%)	10%	90%	0%	0%	100%	
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	10月25日 第1回	回答数(人)	6	8	0	0	14
		割合(%)	43%	57%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回	回答数(人)	9	7	0	1	17
		割合(%)	53%	41%	0%	6%	100%
	11月22日 第3回	回答数(人)	3	7	0	0	10
	割合(%)	30%	70%	0%	0%	100%	

看護学(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	5	4	0	0	5	14
	割合(%)	36%	29%	0%	0%	36%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	8	6	0	0	3	17
	割合(%)	47%	35%	0%	0%	18%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	5	3	0	0	2	10
割合(%)	50%	30%	0%	0%	20%	100%	
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかつた	全く満たさなかつた	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	4	9	0	0	1	14
	割合(%)	29%	64%	0%	0%	7%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	6	11	0	0	0	17
	割合(%)	35%	65%	0%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	5	5	0	0	0	10
割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%	
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	4	10	0	0	0	14
	割合(%)	29%	71%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	7	10	0	0	0	17
	割合(%)	41%	59%	0%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	6	4	0	0	0	10
割合(%)	60%	40%	0%	0%	0%	100%	
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	10月25日 第1回 回答数(人)	9	5	0	0	0	14
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	0%	100%
	11月1日 第2回 回答数(人)	10	7	0	0	0	17
	割合(%)	59%	41%	0%	0%	0%	100%
	11月22日 第3回 回答数(人)	7	3	0	0	0	10
割合(%)	70%	30%	0%	0%	0%	100%	

科目名:院内コミュニケーション(対象:動物看護師) 5時間 第1回

授業に関するアンケート

実施日:平成26年11月8日

受講者数: 13 名

開催場所:学校法人 宮崎学園 大阪ペイ動物看護専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	7	3	0	3
割合(%)	54%	23%	0%	23%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	4	9	0	0	0	13
	割合(%)	31%	69%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	13	13	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	2	10	1	0	0	13
	割合(%)	15%	77%	8%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	10	2	1	0	0	13
	割合(%)	77%	15%	8%	0%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	7	0	0	0	13
	割合(%)	46%	54%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	7	3	2	0	1	13
	割合(%)	54%	23%	15%	0%	8%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	5	3	0	1	4	13
	割合(%)	38%	23%	0%	8%	31%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	6	6	1	0	0	13
	割合(%)	46%	46%	8%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	2	0	0	0	13
	割合(%)	85%	15%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	10	3	0	0	0	13
	割合(%)	77%	23%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	6	7	0	0	0	13
	割合(%)	46%	54%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	1	13
	割合(%)	54%	38%	0%	0%	8%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	6	6	1	0	0	13
	割合(%)	46%	46%	8%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	12	1	0	0	0	13
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	1	13
	割合(%)	46%	46%	0%	0%	8%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	7	5	0	0	1	13
	割合(%)	54%	38%	0%	0%	8%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	1	13
	割合(%)	62%	31%	0%	0%	8%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	4	7	1	0	1	13
	割合(%)	31%	54%	8%	0%	8%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	5	7	1	0	0	13
	割合(%)	38%	54%	8%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	8	5	0	0	0	13
	割合(%)	62%	38%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<p>・他の動物病院で行っているコト(カルテ、待ち時間緩和のためのくふう他)がわかり、自分の働いている病院でも取り入れる要望を相談したいと思います。講義内容もとてもわかりやすく、明日から実践できるようにしていきたいです。</p> <p>・なかなか聞く事のできない関西の動物病院のお話を聞くことができ、興味深く、刺激となりました。院内コミュニケーションは働くうえで1番最初に求められる事だと思うので、これからも勉強していきたいと思います。</p> <p>・他の動物病院の方の話を聞いてよかったです。視点を変えるきっかけをもらいました。</p> <p>・働いている病院のシステム・年齢も全てバラバラな人達の集まりで、“コミュニケーション”という授業だったのもあり、いろいろお話しが出来て、とても興味深かったです。患者さんとのコミュニケーションに対する工夫も、とても勉強になりました。</p> <p>・基礎は十分に理解しているつもりでしたが、それを掘り下げた事はあまりなかったので、より理解を深める事ができました。参加人数も始めは少なく感じましたが、皆が同時に意識を共有でき、意見交換ができる最適な人数だと思います。他の病院のやり方が目新しく、とても興味をひかれました。</p> <p>・少人数ならではのグループワークなどで、他病院さんの環境を知れてとても勉強になり興味深かったです。</p> <p>・もっと自由にしゃべれる時間がほしかったです。やっぱり、他の病院はどうなのかとても気になります。そのへんの話話を聞きたかった。</p>						

科目名:院内コミュニケーション(対象:動物看護師) 5時間 第2回

授業に関するアンケート

実施日:平成26年12月6日

受講者数: 12 名

開催場所:学校法人 宮崎学園 大阪ペイ動物看護専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	7	3	1	3
割合(%)	58%	25%	8%	25%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	6	4	0	1	1	12
	割合(%)	50%	33%	0%	8%	8%	100%
1	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
	回答数(人)	0	0	1	0	11	12
	割合(%)	0%	0%	8%	0%	92%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	2	9	0	1	0	12
	割合(%)	17%	75%	0%	8%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	9	2	0	1	0	12
	割合(%)	75%	17%	0%	8%	0%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	7	4	0	1	0	12
	割合(%)	58%	33%	0%	8%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	8	2	2	0	0	12
	割合(%)	67%	17%	17%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	5	4	2	1	0	12
	割合(%)	42%	33%	17%	8%	0%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	10	2	0	0	0	12
	割合(%)	83%	17%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	6	5	0	0	1	12
	割合(%)	50%	42%	0%	0%	8%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	9	3	0	0	0	12
	割合(%)	75%	25%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	3	9	0	0	0	12
	割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	5	7	0	0	0	12
	割合(%)	42%	58%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	3	0	0	3	12
	割合(%)	50%	25%	0%	0%	25%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	8	3	0	0	1	12
	割合(%)	67%	25%	0%	0%	8%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
	割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
受講者の感想	<p>・毎日同じように働いていると、考えが偏りがちになってしまいますので、色々な事を学べて、他のVTさんの話も聞けて、大変勉強になりました。来客に対する反応は、一から見習わないといけないと感じました。</p> <p>・動物病院では中々機会がないビジネスマナーですが、その少ない機会をきちんとこなすためにとても有効だと思いました。また、これから職業が確立化されていく中で、名刺交換など専門職以外の社会人としての要素も必要になってくるかと思っています。とても勉強になりました。</p> <p>・すぐにでも病院で役立ちそうな情報の勉強でした。明日よりとり入れます。</p> <p>・日頃の仕事では行わない事でも、人に対する礼儀の大切さを知ることができました。簡単なようでも、難しいので、色々意見言いながら学べてよかったです。</p> <p>・病院で経験した事が当たり前と常識になっていた事、基本的な仕事に対する姿勢や、必要なビジネスマナーがわかりました。</p> <p>・実際に名刺交換やお茶出しをすることができ、とてもいい練習になりました。演習中に皆さんと相談し合ったり、マナーに詳しい方にコツを聞くこともできたので勉強になりました。</p> <p>・マナーについて今さらできない質問など、知らなかったことを身をもって体験できたので、とても勉強になりました。さらにマナーについて学びたいという気持ちになれました。</p> <p>・基本に戻って接遇について考えることができ、また普段交流の少ない他院の看護師の方々とも実際の院内でのことについて意見を交わすことができ、大変有意義な学びの場に参加させていただき、ありがとうございました。</p> <p>・最後のトークはすごく勉強になりました。他の病院さんの人数構成も初めて知りました。クレームも数多くあるので、もっとクレーム対応も勉強しないとダメだと思います。</p> <p>・マナーに関して知識のない私にとってはすごく勉強になったセミナーでした。</p>						

科目名:院内コミュニケーション(対象:動物看護師) 5時間 第3回

授業に関するアンケート

実施日:平成26年12月27日

受講者数: 14 名

開催場所:学校法人 宮崎学園 大阪ペイ動物看護専門学校

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
回答数(人) 複数選択可能	8	4	1	3
割合(%)	57%	29%	7%	21%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	10	4	0	0	0	14
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
回答数(人)	0	0	0	0	14	14	
割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%	
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	回答数(人)	6	8	0	0	0	14
	割合(%)	43%	57%	0%	0%	0%	100%
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していなかった	全く していなかった	未回答	
	回答数(人)	12	1	0	0	1	14
	割合(%)	86%	7%	0%	0%	7%	100%
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	12	2	0	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は 参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	回答数(人)	8	6	0	0	0	14
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	回答数(人)	5	3	4	2	0	14
	割合(%)	36%	21%	29%	14%	0%	100%
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	7	6	1	0	0	14
	割合(%)	50%	43%	7%	0%	0%	100%
8	教員は授業の準備は十分に出来ていましたか?	十分 できていた	大体 できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	12	2	0	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
9	教員の熱意を強く感じましたか?	強く感じた	大体感じた	感じられ なかった	全く 感じなかった	未回答	
	回答数(人)	13	1	0	0	0	14
	割合(%)	93%	7%	0%	0%	0%	100%

質問事項		回答選択肢					合計
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	12	2	0	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	回答数(人)	11	3	0	0	0	14
	割合(%)	79%	21%	0%	0%	0%	100%
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	回答数(人)	9	5	0	0	0	14
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	0%	100%
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	回答数(人)	14	0	0	0	0	14
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	0%	100%
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答	
	回答数(人)	3	11	0	0	0	14
	割合(%)	21%	79%	0%	0%	0%	100%
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答	
	回答数(人)	9	5	0	0	0	14
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	0%	100%
16	あなた自身の授業に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	11	1	0	0	2	14
	割合(%)	79%	7%	0%	0%	14%	100%
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答	
	回答数(人)	10	4	0	0	0	14
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答	
	回答数(人)	8	6	0	0	0	14
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	回答数(人)	12	2	0	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%

受講者の感想

・色々な方の飼い主様への対応の仕方が見れて、とても勉強になりました。
・実演が多く、本当に貴重なセミナーを受けさせていただきました。他院の方の対応を見る事はないので、色々勉強になり、今後活かしていきたいと思えます。
・自分の技術不足をひしひしと感じました。今日まで学んだことをいかして現場でこれからも動物達のためにがんばりたいと思えます。
・実演のあるセミナーが初めてで、とても新鮮で、あらためて体で覚えて体験することは大切だなと思えました。
・積極的にグループワーク&演習で実演したり、人と話す機会を設けて下さったので、打ちとけて友達が出来るのが早かったです。体を使った授業だったので、楽しく受講することができました。少し自信を持って動くことができるようになりました。
・演習なんてできない！と最初は思いましたが、やってみると楽しく、見学ではとても勉強になりました。明日から使えたらと思えます。
・実際の院内で起こり得る状況に即して内容がねられていて、普段の自分の対応を見直すと共に、すぐに明日からでも参考にできる事柄ばかりで、参加させていただいて良かったです。院内での対応がひいては対外へも影響を及ぼすとても大切なものなのだと感じました。
・参加者とコミュニケーションを取れるのがいい。3回実施なので、回を重ねるごとに相手をより理解できると思う。コミュニケーション以外の授業もあれば、ぜひ受講したい。(保定法、駆血法etc)グループワークがとても楽しかった。
・充実した「院内コミュニケーション」セミナーでした。たくさんの方々のパワーをいただき、この知識を病院内の他スタッフにも伝え、より良いものに作り上げていきたいと思えます。
・たくさんの方の意見をきけて良かったです。自分のいたらないところを見直すきっかけになったと強く感じました。
・楽しかったですし、また新しい事を聞けて良かったです。

院内(総合)

科目名:院内コミュニケーション(対象:動物看護師)

授業に関するアンケート

受講者属性	統一認定 動物看護師	他資格 動物看護師	教員	未回答
11月8日 第1回 回答数(人) 複数選択可能	7	3	0	3
割合(%)	54%	23%	0%	23%
12月6日 第2回 回答数(人) 複数選択可能	7	3	1	3
割合(%)	58%	25%	8%	25%
12月27日 第3回 回答数(人) 複数選択可能	8	4	1	3
割合(%)	57%	29%	7%	21%

質問事項		回答選択肢					合計
1	授業開始前に配布したシラバスについて シラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少し できなかった	全く できなかった	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	4	9	0	0	0	13
	割合(%)	31%	69%	0%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	6	4	0	1	1	12
	割合(%)	50%	33%	0%	8%	8%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	10	4	0	0	0	14
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%
	授業開始前に配布したシラバスについて 「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的 な学力が不足 していた	資料が不適切 であった	授業内容が 不適切 であった	その他	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	0	0	0	0	13	13
	割合(%)	0%	0%	0%	0%	100%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	0	0	1	0	11	12
	割合(%)	0%	0%	8%	0%	92%	100%
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか?	十分 身についた	大体 身についた	付いていない	全く 付いていない	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	2	10	1	0	0	13
	割合(%)	15%	77%	8%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	2	9	0	1	0	12
	割合(%)	17%	75%	0%	8%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	6	8	0	0	0	14
割合(%)	43%	57%	0%	0%	0%	100%	
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか?	十分していた	大体していた	していません	全く していません	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	10	2	1	0	0	13
	割合(%)	77%	15%	8%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	9	2	0	1	0	12
	割合(%)	75%	17%	0%	8%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	12	1	0	0	1	14
割合(%)	86%	7%	0%	0%	7%	100%	

院内(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
4	シラバスは授業を理解するために役立ったと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	6	7	0	0	0	13
	割合(%)	46%	54%	0%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	7	4	0	1	0	12
	割合(%)	58%	33%	0%	8%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	12	2	0	0	0	14
割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%	
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか?	十分参加した	大体は参加した	少し参加した	全くしない	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	7	3	2	0	1	13
	割合(%)	54%	23%	15%	0%	8%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	8	2	2	0	0	12
	割合(%)	67%	17%	17%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	8	6	0	0	0	14
割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%	
6	理解できないことは質問しましたか?	十分できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	5	3	0	1	4	13
	割合(%)	38%	23%	0%	8%	31%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	5	4	2	1	0	12
	割合(%)	42%	33%	17%	8%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	5	3	4	2	0	14
割合(%)	36%	21%	29%	14%	0%	100%	
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	6	6	1	0	0	13
	割合(%)	46%	46%	8%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	6	6	0	0	0	12
	割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	7	6	1	0	0	14
割合(%)	50%	43%	7%	0%	0%	100%	
8	教員は授業の準備は十分にできていましたか?	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	未回答	
	11月8日 第1回 回答数(人)	11	2	0	0	0	13
	割合(%)	85%	15%	0%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回 回答数(人)	11	1	0	0	0	12
	割合(%)	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回 回答数(人)	12	2	0	0	0	14
割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%	

院内(総合)

質問事項		回答選択肢					合計
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	未回答	
	11月8日 第1回	回答数(人)	10	3	0	0	13
		割合(%)	77%	23%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	10	2	0	0	12
		割合(%)	83%	17%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	13	1	0	0	14
	割合(%)	93%	7%	0%	0%	100%	
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答	
	11月8日 第1回	回答数(人)	6	7	0	0	13
		割合(%)	46%	54%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	10	2	0	0	12
		割合(%)	83%	17%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	12	2	0	0	14
	割合(%)	86%	14%	0%	0%	100%	
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答	
	11月8日 第1回	回答数(人)	7	5	0	0	13
		割合(%)	54%	38%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	6	5	0	0	12
		割合(%)	50%	42%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	11	3	0	0	14
	割合(%)	79%	21%	0%	0%	100%	
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答	
	11月8日 第1回	回答数(人)	6	6	1	0	13
		割合(%)	46%	46%	8%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	9	3	0	0	12
		割合(%)	75%	25%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	9	5	0	0	14
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	100%	
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答	
	11月8日 第1回	回答数(人)	12	1	0	0	13
		割合(%)	92%	8%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	11	1	0	0	12
		割合(%)	92%	8%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	14	0	0	0	14
	割合(%)	100%	0%	0%	0%	100%	

院内(総合)

質問事項		回答選択肢					合計	
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答		
	11月8日 第1回	回答数(人)	6	6	0	0	1	13
		割合(%)	46%	46%	0%	0%	8%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	3	9	0	0	0	12
		割合(%)	25%	75%	0%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	3	11	0	0	0	14
	割合(%)	21%	79%	0%	0%	0%	100%	
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答		
	11月8日 第1回	回答数(人)	7	5	0	0	1	13
		割合(%)	54%	38%	0%	0%	8%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	5	7	0	0	0	12
		割合(%)	42%	58%	0%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	9	5	0	0	0	14
	割合(%)	64%	36%	0%	0%	0%	100%	
16	あなた自身の授業に役立つと思われましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答		
	11月8日 第1回	回答数(人)	8	4	0	0	1	13
		割合(%)	62%	31%	0%	0%	8%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	6	3	0	0	3	12
		割合(%)	50%	25%	0%	0%	25%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	11	1	0	0	2	14
	割合(%)	79%	7%	0%	0%	14%	100%	
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答		
	11月8日 第1回	回答数(人)	4	7	1	0	1	13
		割合(%)	31%	54%	8%	0%	8%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	8	3	0	0	1	12
		割合(%)	67%	25%	0%	0%	8%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	10	4	0	0	0	14
	割合(%)	71%	29%	0%	0%	0%	100%	
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答		
	11月8日 第1回	回答数(人)	5	7	1	0	0	13
		割合(%)	38%	54%	8%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	6	6	0	0	0	12
		割合(%)	50%	50%	0%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	8	6	0	0	0	14
	割合(%)	57%	43%	0%	0%	0%	100%	

院内(総合)

質問事項		回答選択肢					合計	
この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください		4	3	2	1	未回答		
19	11月8日 第1回	回答数(人)	8	5	0	0	0	13
		割合(%)	62%	38%	0%	0%	0%	100%
	12月6日 第2回	回答数(人)	8	4	0	0	0	12
		割合(%)	67%	33%	0%	0%	0%	100%
	12月27日 第3回	回答数(人)	12	2	0	0	0	14
		割合(%)	86%	14%	0%	0%	0%	100%

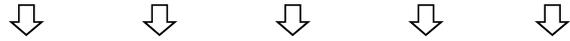
4. 受講者アンケートの分析

受講者アンケートの内容より、各科目の内容について分析を行った。
次ページ以降には、その結果を掲載する。

- (1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象）
- (2) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象）
- (3) 動物看護学（動物看護師対象）
- (4) 動物栄養学（動物看護師対象）
- (5) 院内コミュニケーション（動物看護師対象）

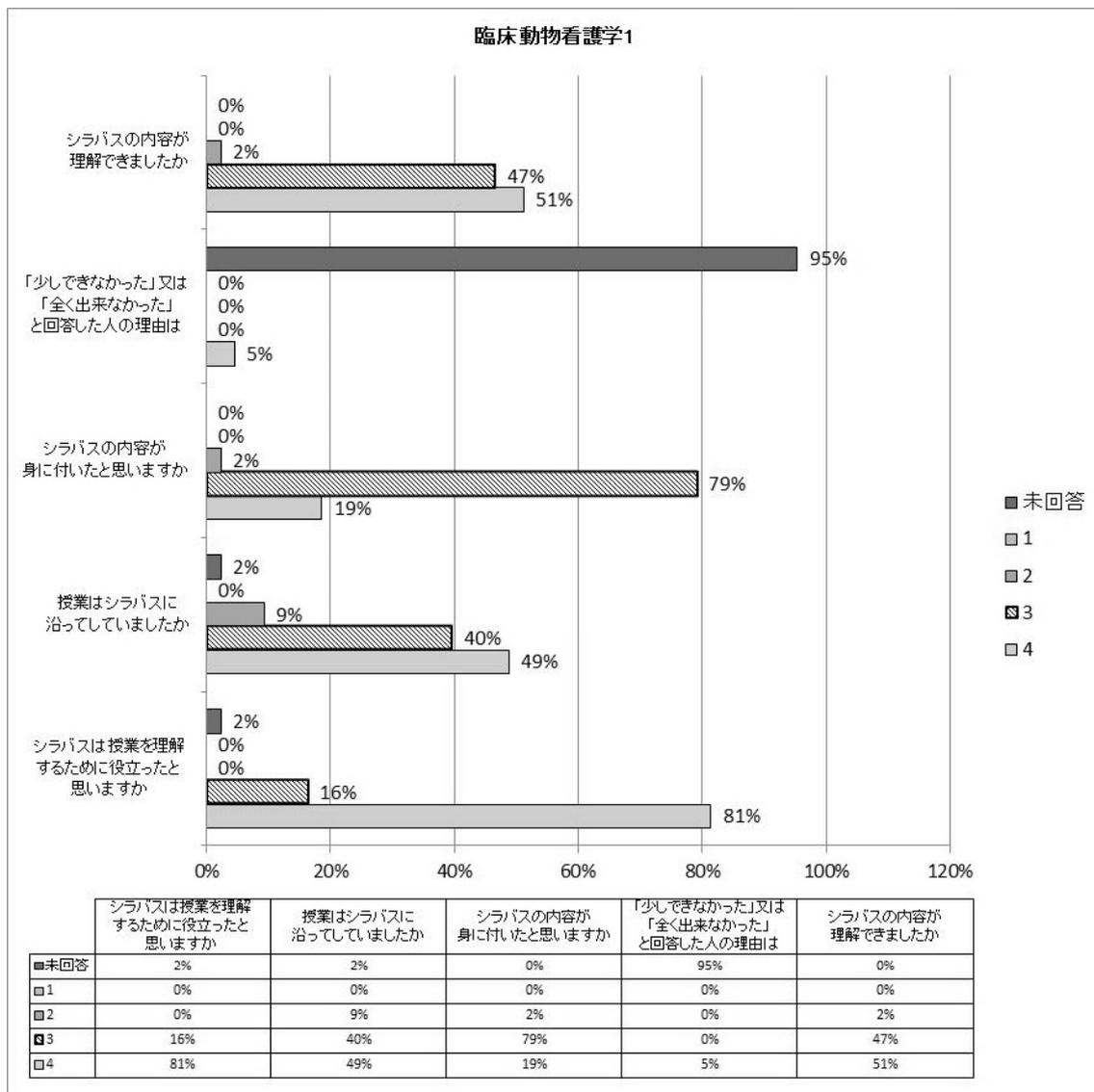
授業に関するアンケート質問・回答選択肢一覧

アンケート分析に使用した回答選択肢	4	3	2	1	未回答
-------------------	---	---	---	---	-----



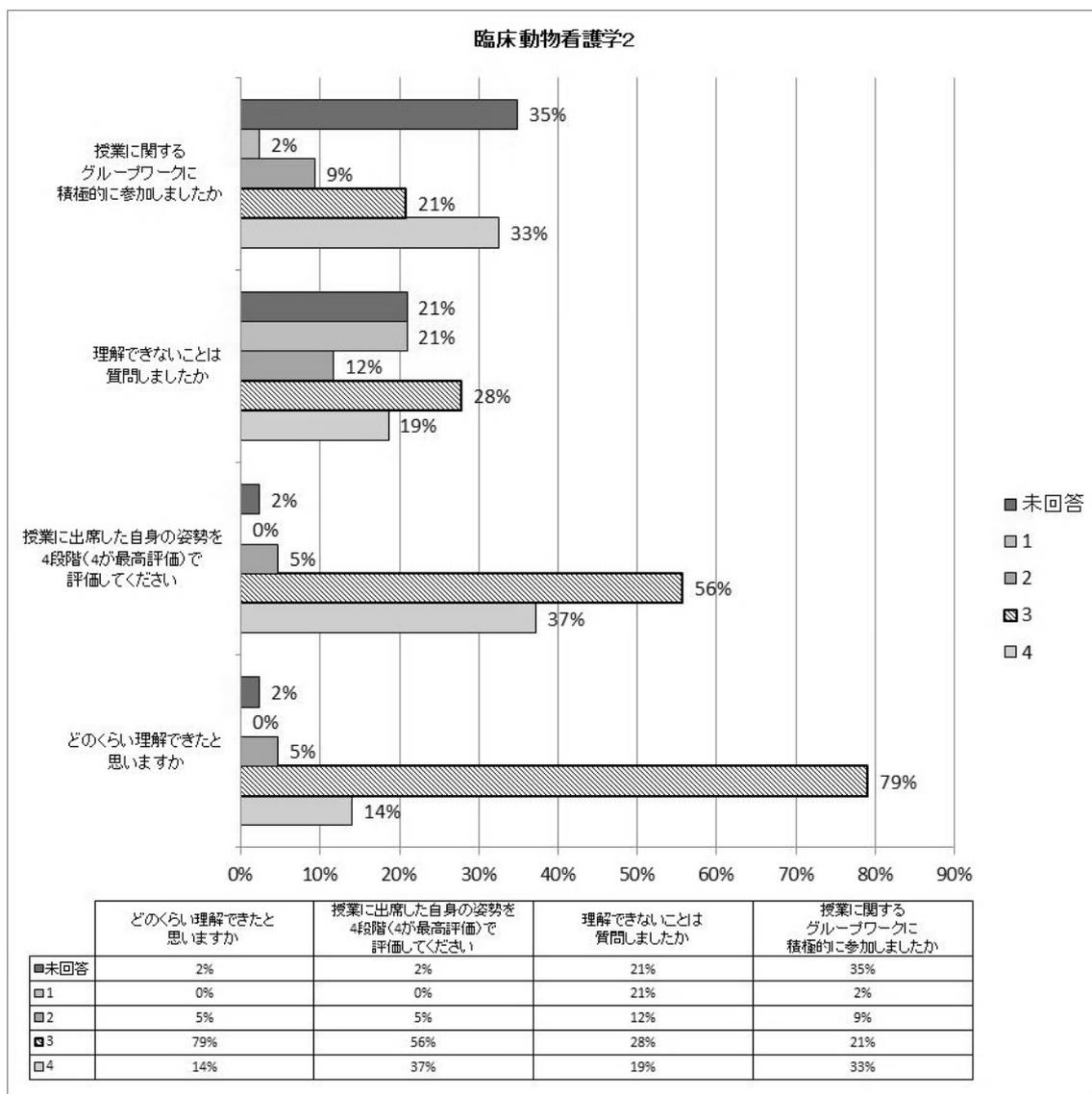
実際のアンケートの際に使用した質問内容と回答選択肢

1	授業開始前に配布したシラバスについてシラバスの内容が理解できましたか	十分できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	未回答
1-1	授業開始前に配布したシラバスについて「少しできなかった」又は「全く出来なかった」と回答した人の理由は	自分の基礎的な学力が不足していた	資料が不適切であった	授業内容が不適切であった	その他	未回答
2	シラバスの内容が身に付いたと思いますか？	十分身についた	大体身についた	付いていない	全く付いていない	未回答
3	授業はシラバスに沿ってしていましたか？	十分していた	大体していた	していなかった	全くしていなかった	未回答
4	シラバスは授業を理解するために役立つと思いますか	十分思う	大体思う	思わない	全く思わない	未回答
5	授業に関するグループワークに積極的に参加しましたか？	十分参加した	大体は参加した	少し参加した	全くしない	未回答
6	理解できないことは質問しましたか？	十分できた	大体できた	少しできなかった	全くできなかった	未回答
7	授業に出席した自身の姿勢を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答
8	教員は授業の準備は充分に出来ていましたか？	十分できていた	大体できていた	思わない	全く思わない	未回答
9	教員の熱意を強く感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じられなかった	全く感じなかった	未回答
10	プリントや資料は有効と感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じない	全く感じない	未回答
11	教員は学生に積極的に出問を促すようにしましたか？	大変していた	大体していた	していなかった	全くなかった	未回答
12	教員は学生の理解度や反応を考慮していると感じましたか？	強く感じた	大体感じた	感じなかった	全く感じない	未回答
13	教員の声・言葉は聞き取りやすかったですか？	大変良かった	比較的良かった	思わない	聞きづらかった	未回答
14	どのくらい理解できたと思いますか？	全部できた	ほとんどできた	できなかった	全くできていない	未回答
15	系統的に整理されていると感じましたか？	強く感じた	感じた	感じなかった	全く感じなかった	未回答
16	あなた自身の授業に役立つと思いましたか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答
17	あなたの興味を満たしましたか？	十分満たした	満たした	満たさなかった	全く満たさなかった	未回答
18	他教科の受講をさらにしたいと思いますか？	強く思う	思う	思わない	全く思わない	未回答
19	この授業の内容を4段階(4が最高評価)で評価してください	4	3	2	1	未回答



アンケート設問 1~4 のシラバスについて、受講者が動物看護教員を対象としていたためシラバスについての理解度は全て高くなっていると思われる。

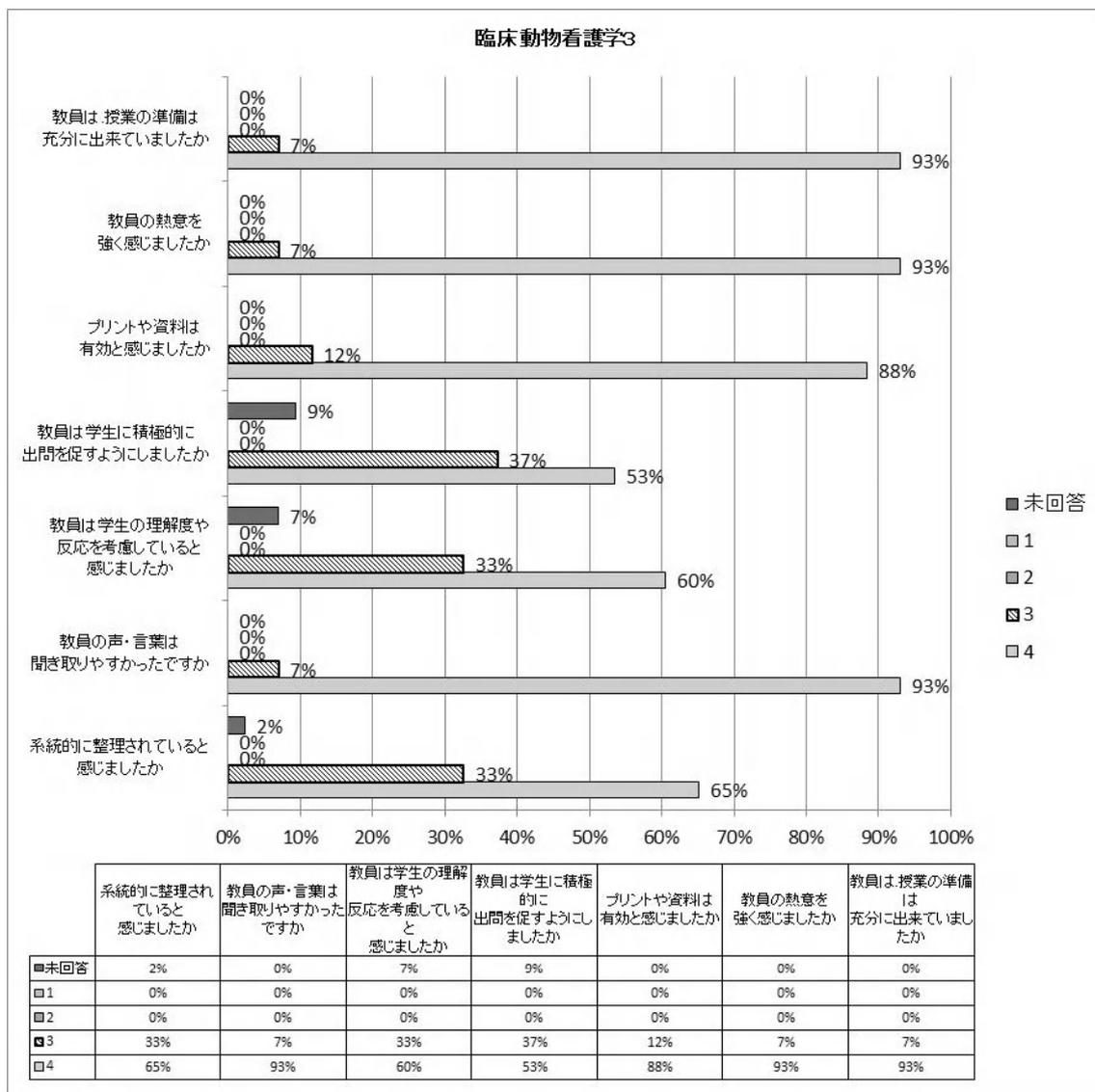
また、「授業はシラバスに沿っていましたか」の設問には約 90%が「4」又は「3」と回答し、「シラバスが授業を理解するために役立った」との回答も、「3」又は「4」と回答した受講者が 90%以上となっているため、シラバスについては授業を行う教員にとって、非常に有用なものであると推察される。



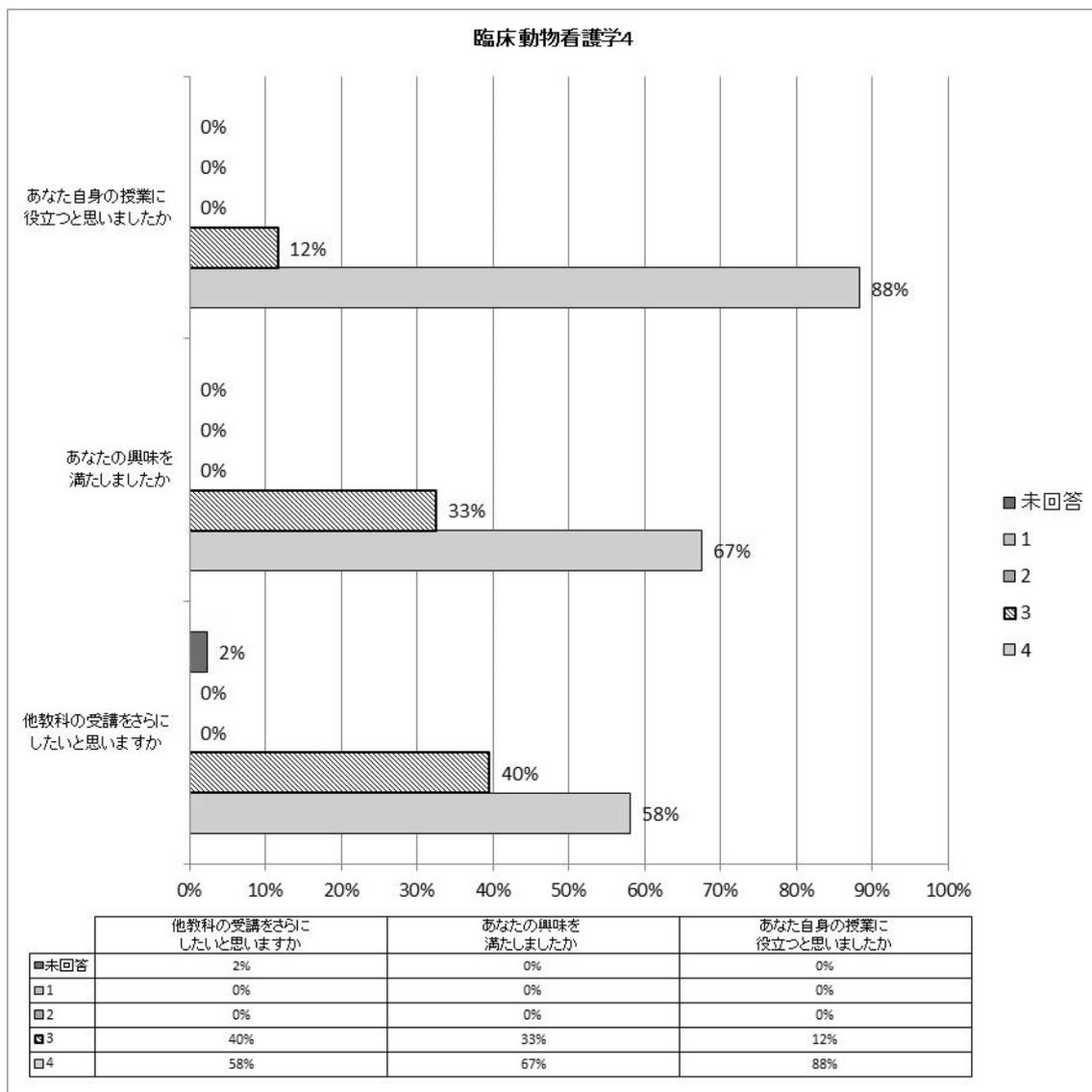
「グループワークに積極的に参加しましたか」の設問は、「未回答」が35%あるため、グループワークを実施しなかった時もあったと推測されるが、そのほかの最多回答が「4」になっているので、この授業にとってグループワークは有用であったのではないかと推測される。

「自身の姿勢の評価」は「3」が最多回答であり、「どれくらい理解できたか」の設問には、「3」「4」の回答が90%を超えている。

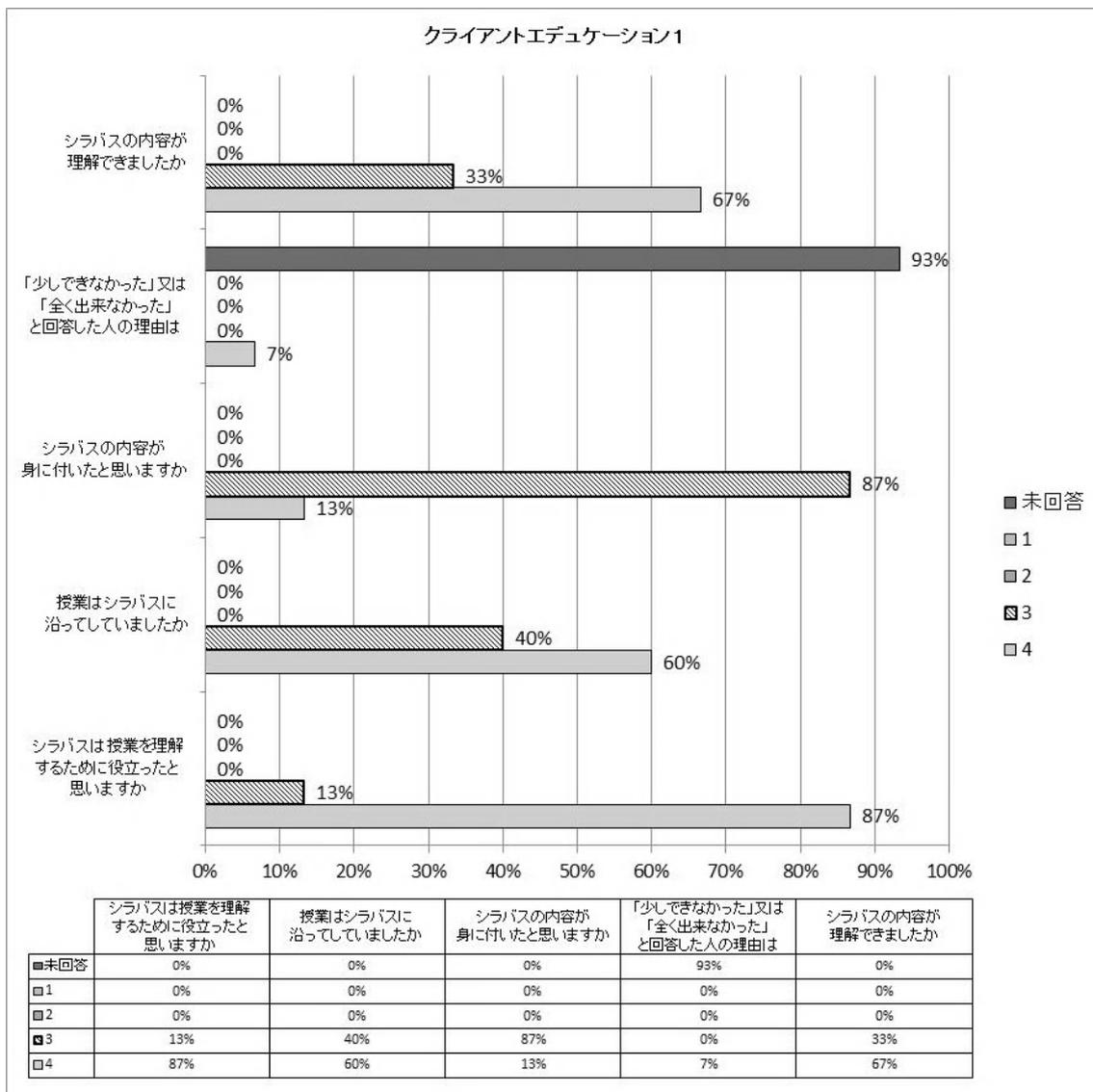
「質問しましたか」の設問には「1」又は「2」の回答が3割を超えるため、一定程度、受講者への質問の促しについては出来ていると判断するが、受講者のパーソナリティも考慮し、質問の方法などを検討・改善する必要があるかもしれないと推察する。



「教員は授業の準備は十分に出来ていましたか」から「(授業は) 系統的に整理されていると感じましたか」までの設問では、授業を実施した講師に対しての評価を行った結果、どの項目に対しても良好であったため、講師の授業に臨む姿勢は高い評価ができると思われる。

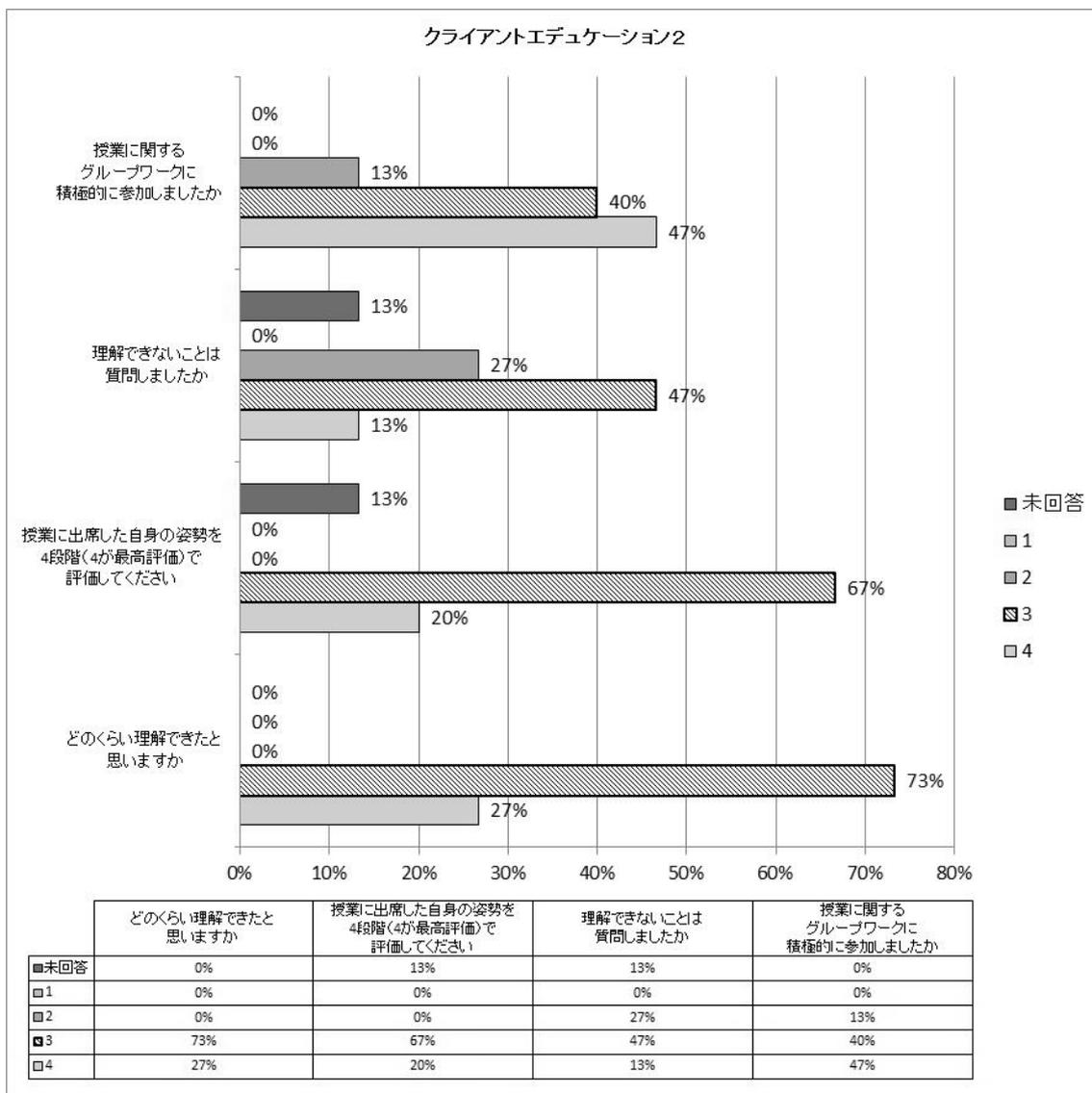


「あなた自身の授業に役立つと思いましたか」、「あなたの興味を満たしましたか」
「他教科の受講をさらにしたいと思いますか」の全ての設問に対して、「4」又は
「3」の回答で100%に達している。したがって、動物看護教員としてこのような
学びの場は非常に有意義なものになると判断した。また受講者の満足度も高くなって
いることから、授業の内容についても高く評価できる。



アンケート設問 1~4 のシラバスについて、受講者が動物看護教員を対象としていたためシラバスについての理解度は全て高くなっていると思われる。

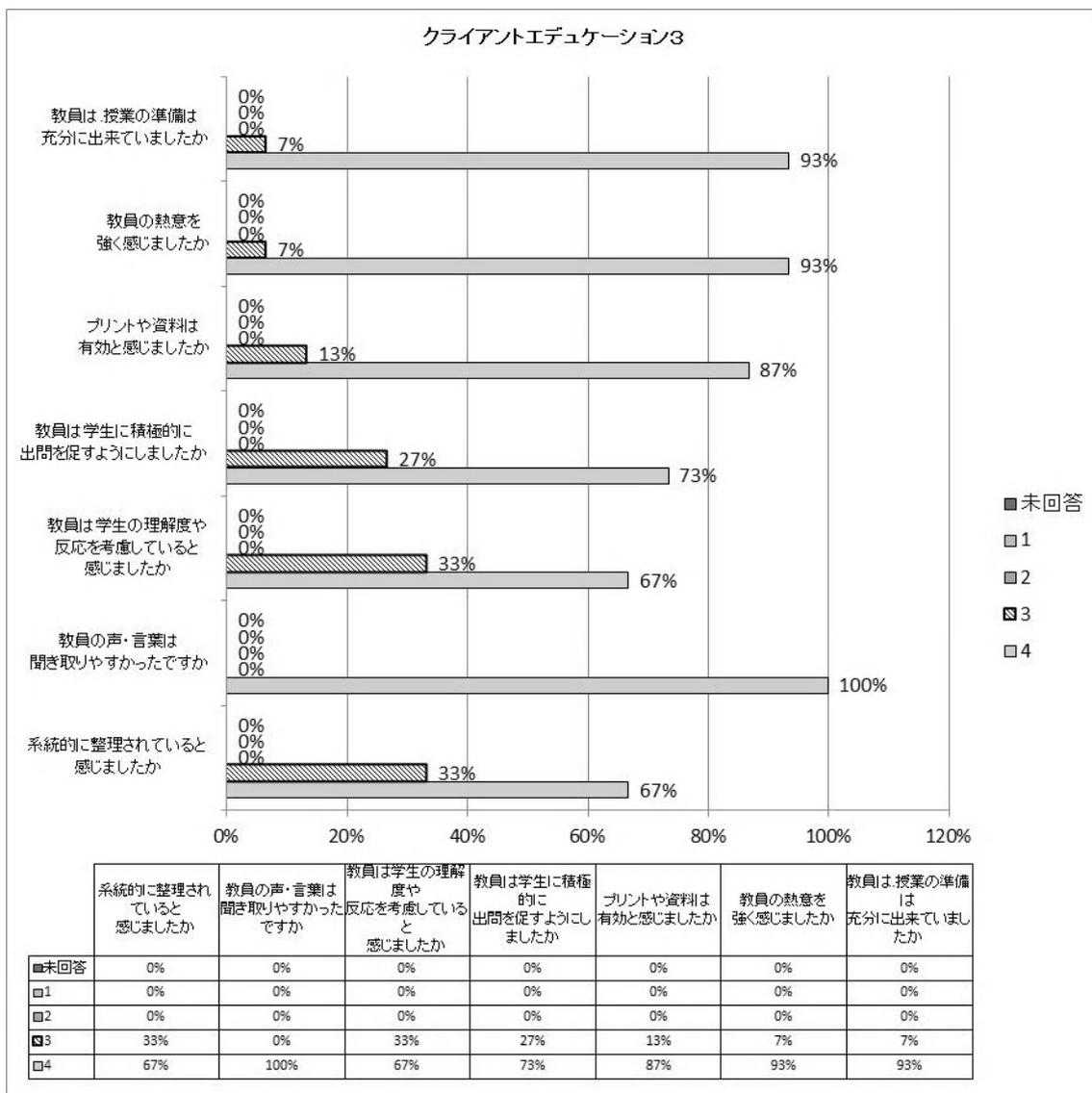
また、「授業はシラバスに沿っていましたか」の設問には100%が「4」又は「3」と回答し、「シラバスが授業を理解するために役立った」との回答も、「3」又は「4」と回答した受講者が100%となっているため、シラバスについては授業を行う教員にとって、非常に有用なものであると推察される。



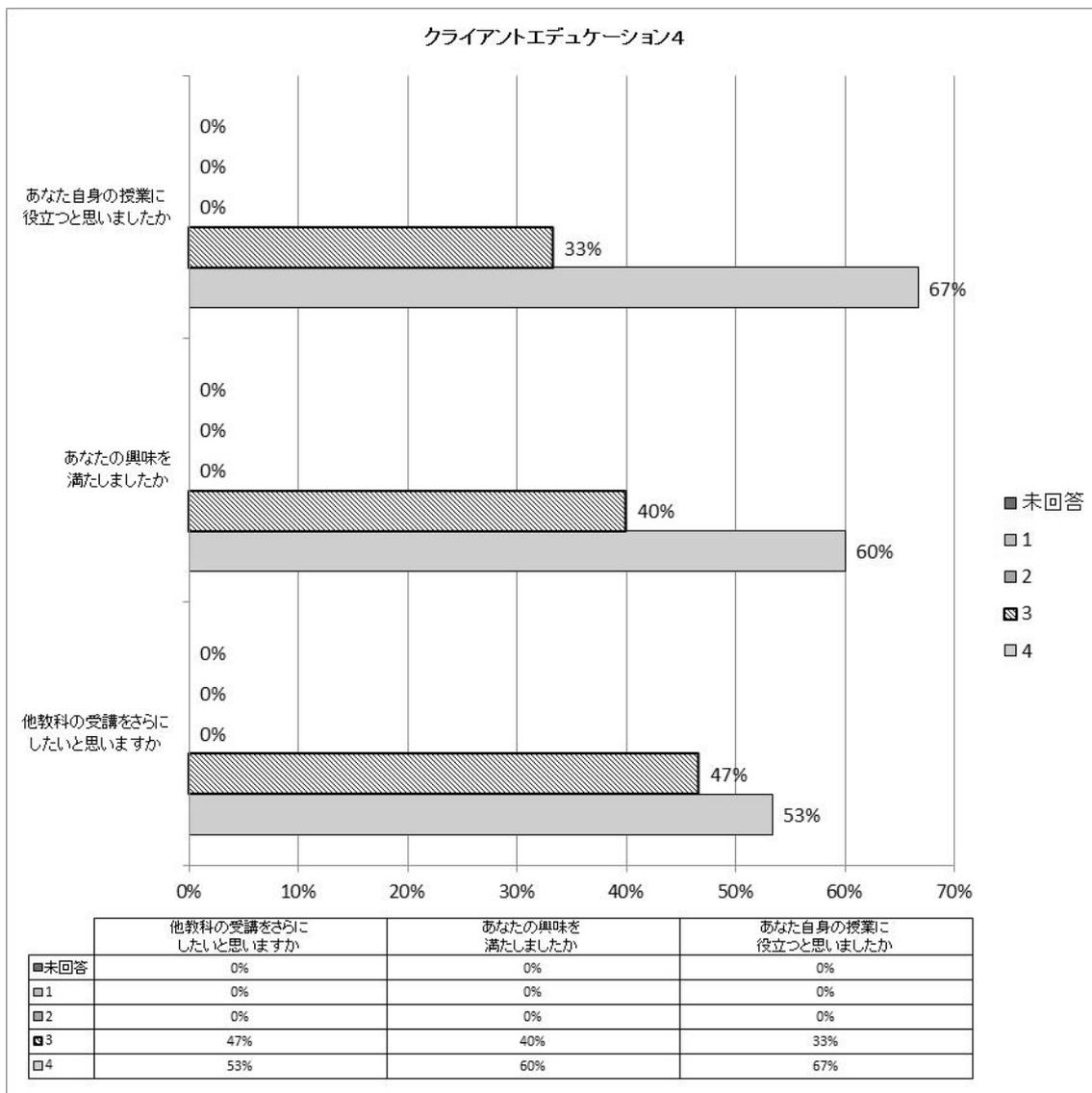
授業に参加する姿勢として、「グループワークに積極的に参加しましたか」には8割以上の受講者が積極的に参加できていたと回答し、「自身の姿勢の評価」も8割以上が高評価をつけている。

「どれくらい理解できたか」の設問には、「できなかった」と回答した受講者はいなかったが、「質問しましたか」の設問では「少しできなかった」との回答が2割あるため、一定程度、受講者への質問の促しについては出来ていると判断するが、受講者のパーソナリティにも配慮し、質問の方法などを検討・改善する必要があるかもしれないと推察する。

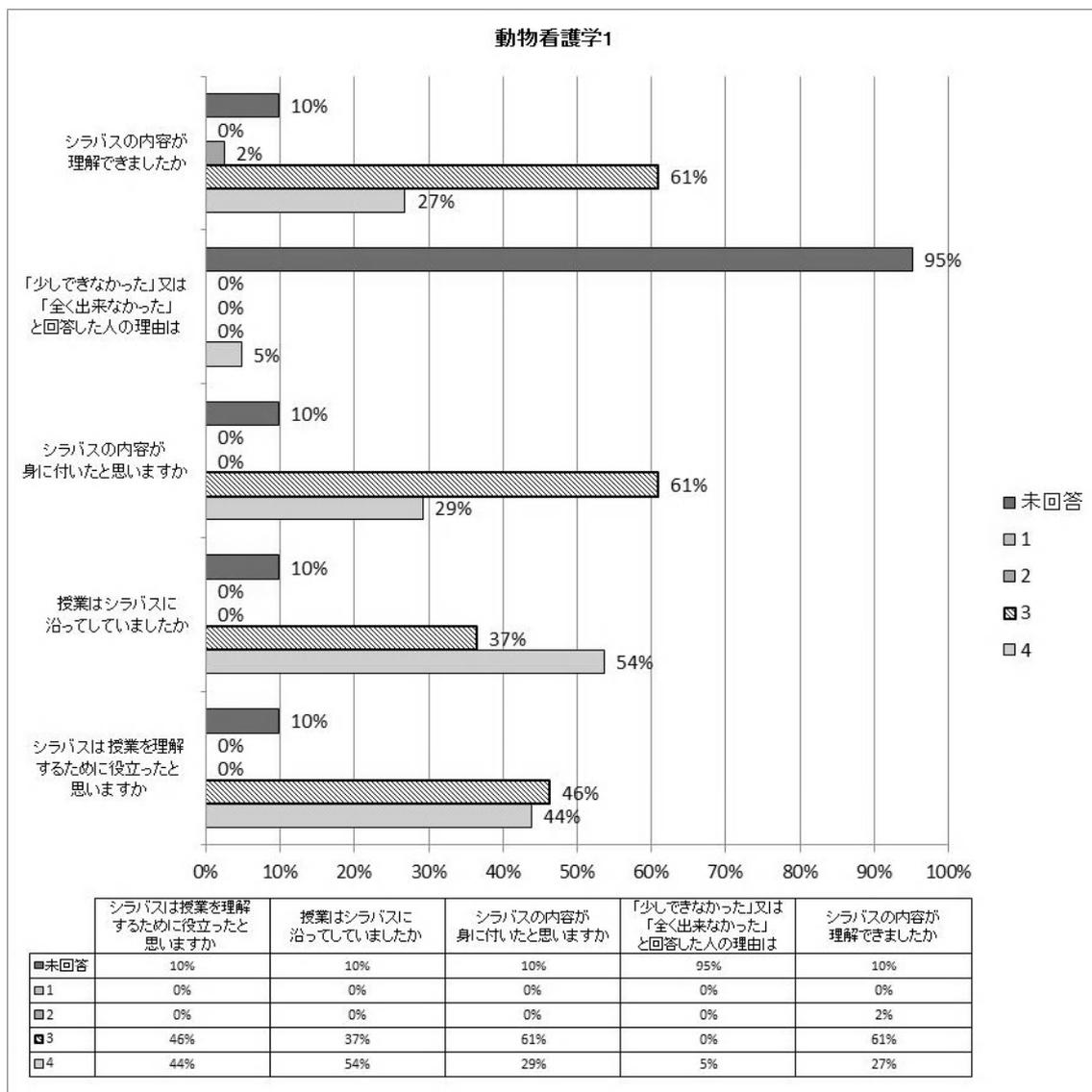
クライアントエデュケーション（動物看護教員対象） ※各設問の回答項目は全て選択肢一覧(P142)を参照



「教員は授業の準備は十分に出来ていましたか」から「(授業は) 系統的に整理されていると感じましたか」までの設問では、授業を実施した講師に対しての評価を行った結果、どの項目に対しても良好であったため、講師の授業に臨む姿勢は高い評価ができると思われる。



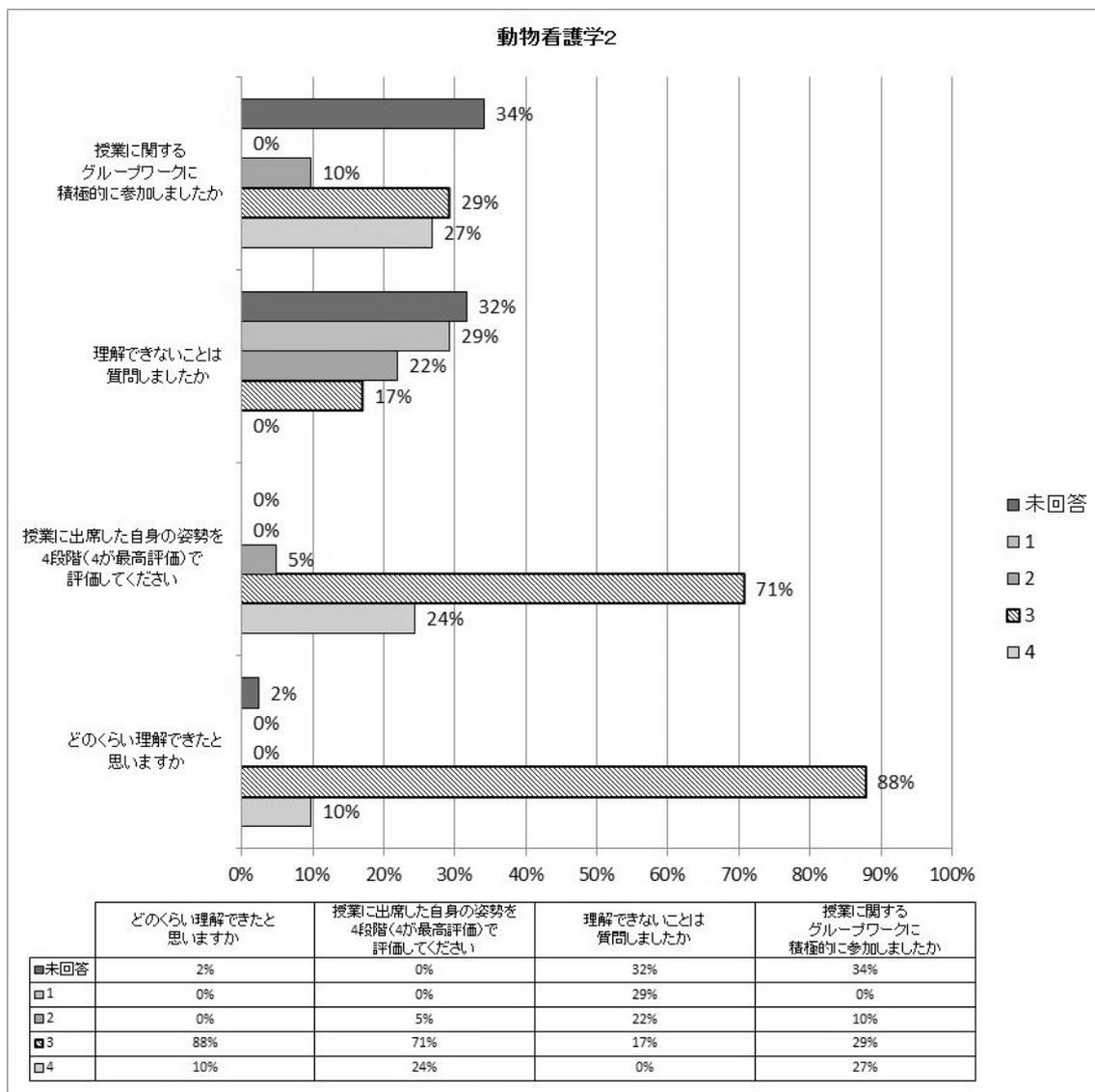
「あなた自身の授業に役立つと思えましたか」、「あなたの興味を満たしましたか」
「他教科の受講をさらにしたいと思えますか」の全ての設問に対して、「4」又は
「3」の回答で100%に達している。したがって、動物看護教員としてこのような
学びの場は非常に有意義なものになると判断した。また受講者の満足度も高くなって
いることから、授業の内容についても高く評価できる。



アンケート設問 1～4 のシラバスについて、「シラバスの内容は理解できましたか」

・「シラバスの内容が身に付いたと思いますか」の設問に対し、「3」と回答する受講者が最多回答であった。したがって、シラバスの内容は一定程度、受講者にとってわかりやすいものになっていたと判断する。

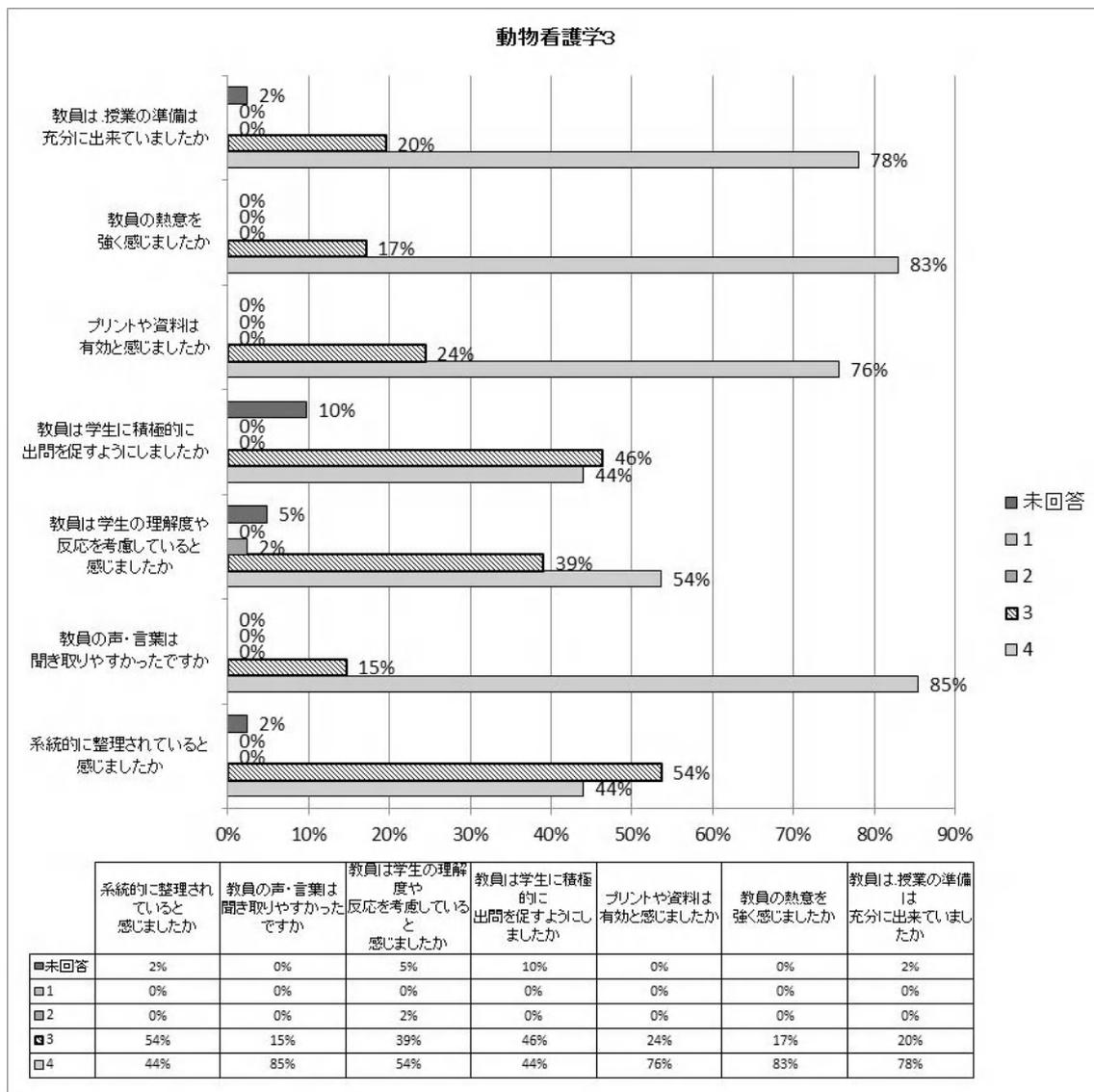
また、「授業はシラバスに沿っていましたか」及び「シラバスが授業を理解するために役立った」の設問には約 90%が「4」又は「3」と回答しているため、シラバスに沿って授業を行うことで、受講者の理解を高めることができると評価した。



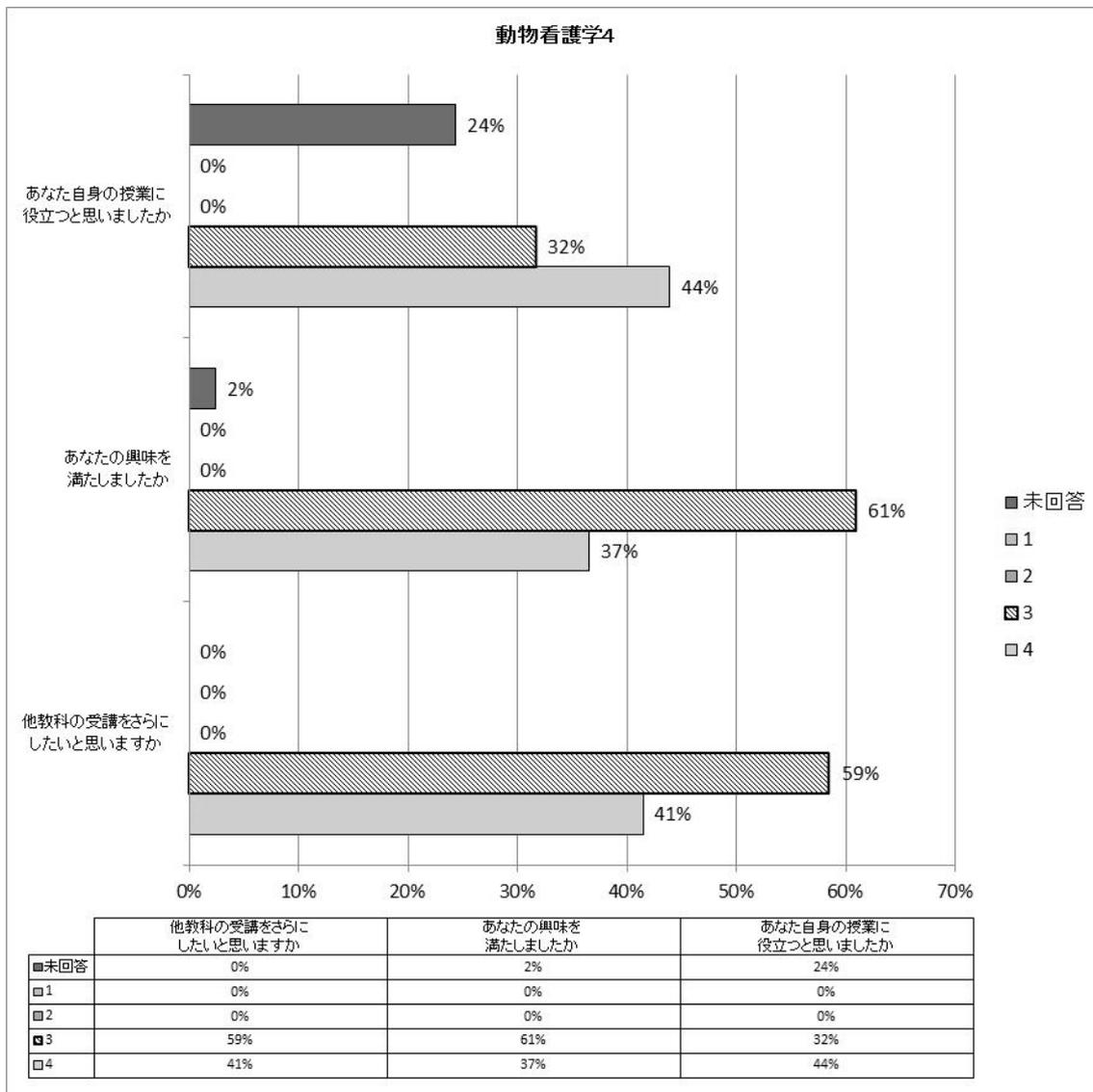
「グループワークに積極的に参加しましたか」の設問は、「未回答」が34%あるため、グループワークを実施しなかった時もあったと推測されるが、そのほかの回答は「3」「4」に集まっているので、この授業にとってグループワークは有用であったのではないかと推測される。

「自身の姿勢の評価」は「3」が最多回答であり、「どれくらい理解できたか」の設問には、「できなかった」と回答した受講者はいなかった。

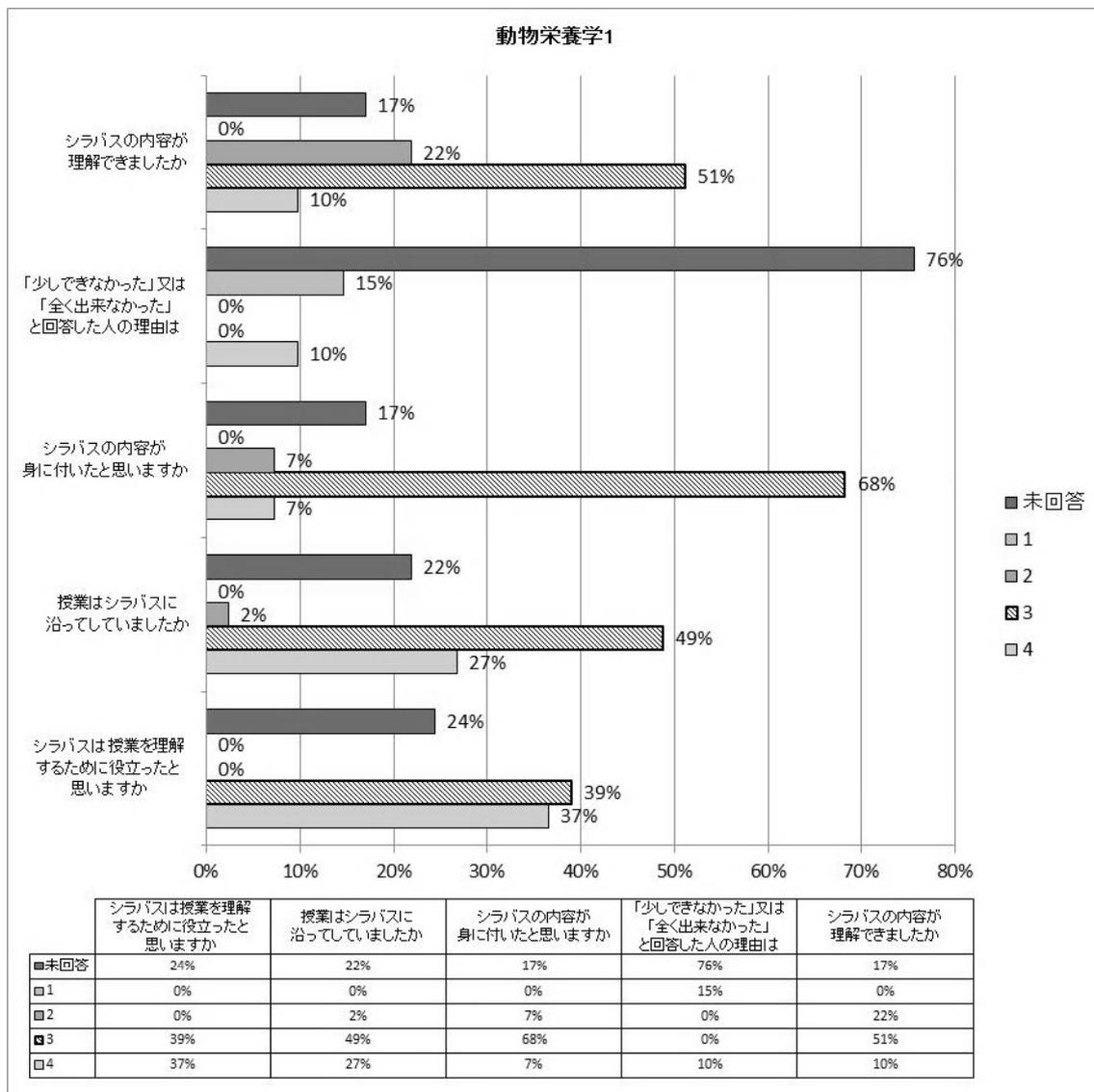
「質問しましたか」の設問には「4」の回答がなく、「1」又は「2」の回答が5割を超えるため、質問しやすい雰囲気を作り出す事は、検討・改善する必要があるかもしれないと推察する。



「教員は授業の準備は十分に出来ていましたか」から「(授業は) 系統的に整理されていると感じましたか」までの設問では、授業を実施した講師に対しての評価を行った結果、どの項目に対しても良好であったため、講師の授業に臨む姿勢は高い評価ができると思われる。しかし、「出問を促すようにしましたか」と「系統的に整理されていると感じましたか」の設問の最多回答が「4」になっていない点には留意する必要があるかもしれない。

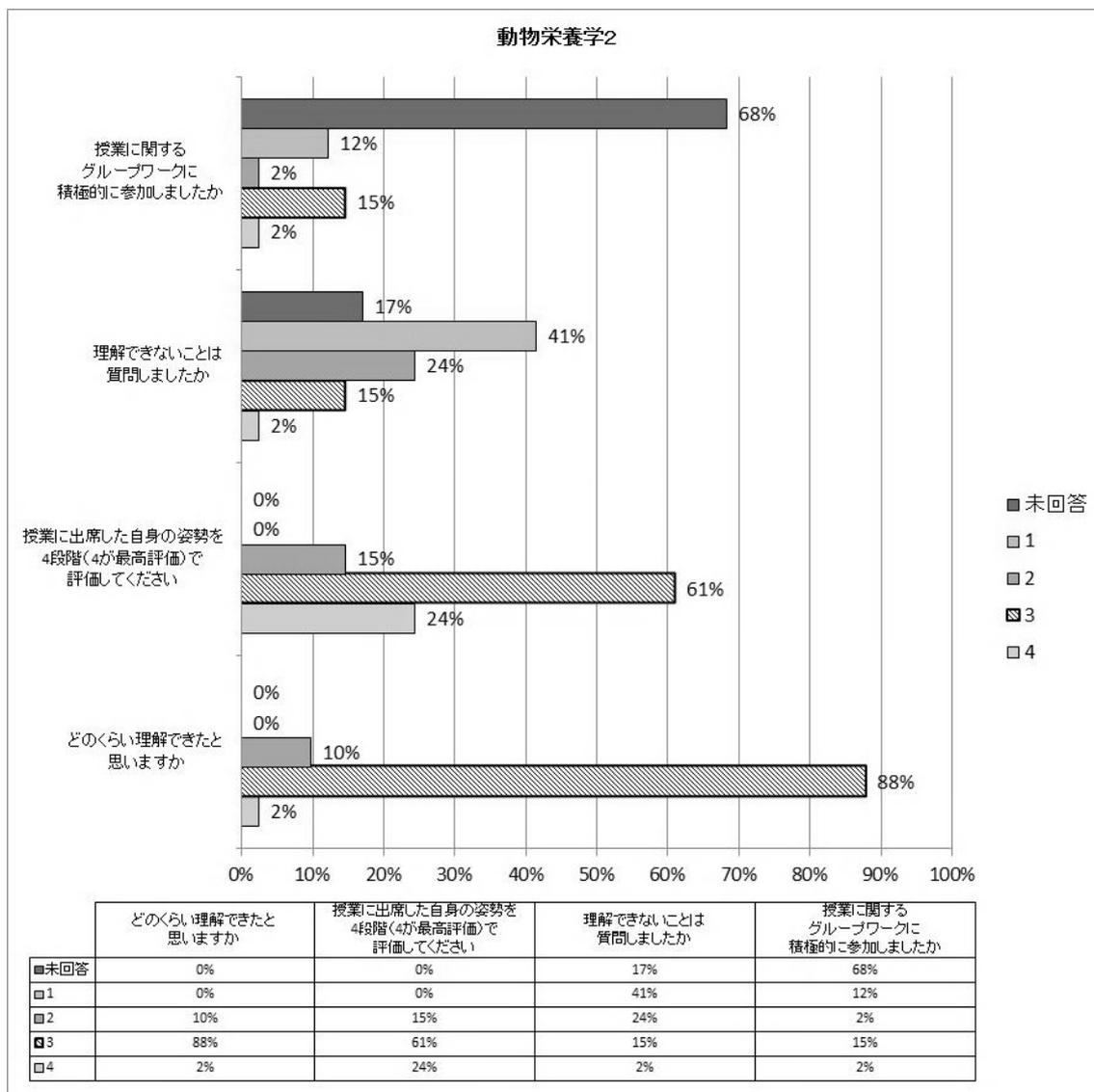


「あなた自身の授業に役立つと思いましたか」の設問は、今回の受講対象者が動物看護師であったため、未回答が24%あったが、「あなたの興味を満たしましたか」と「他教科の受講をさらにしたいと思いますか」の設問には、両方とも90%超える受講者が「4」又は「3」の回答をしている。よって、「学び直し」に興味を持っている動物看護師が一定数存在していると判断できる。



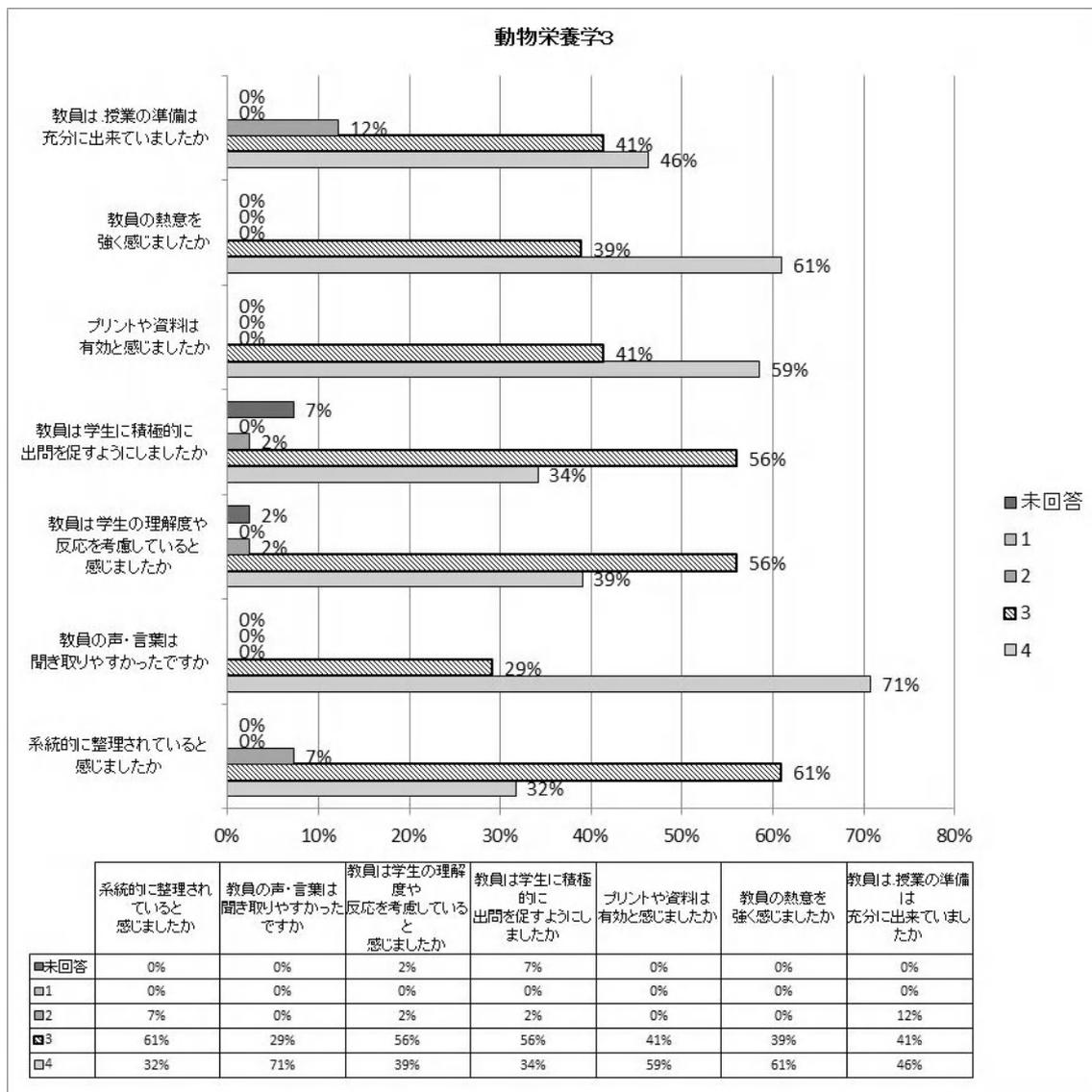
アンケート設問 1~4 のシラバスについて、「シラバスの内容は理解できましたか」から「シラバスが授業を理解するために役立ったと思いますか」までの設問は、全て「3」が最多回答となっている。よってシラバスの内容は受講者にとって一定程度、わかりやすいものになっていたと判断する。

しかし、全ての設問に対して 20%前後の未回答が見られるため、受講者に対して、シラバスについての説明が不足していた可能性があるかと推測される。

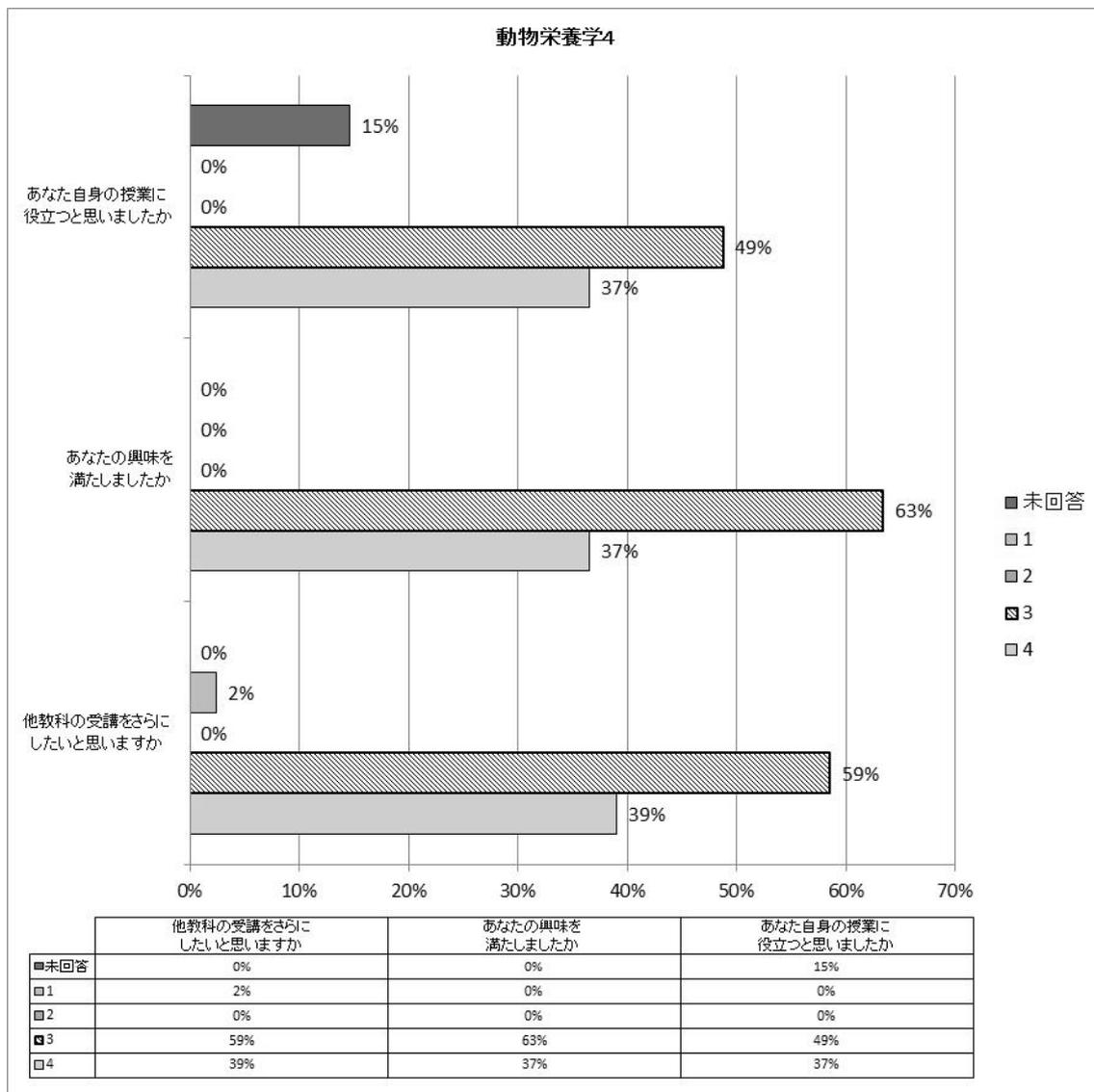


「グループワークに積極的に参加しましたか」の設問は、「未回答」が68%あるため、グループワークを実施しなかった時が多かったと推測される。

「どのくらい理解できたと思いますか」の設問は、「3」が最多回答であり、受講者に対しわかりやすい授業が実施できていたと評価できるが、「質問しましたか」の設問は、「1」又は「2」の回答が6割を超えるため、授業の進行や、質問しやすい雰囲気作りには課題を残すことになったかもしれない。

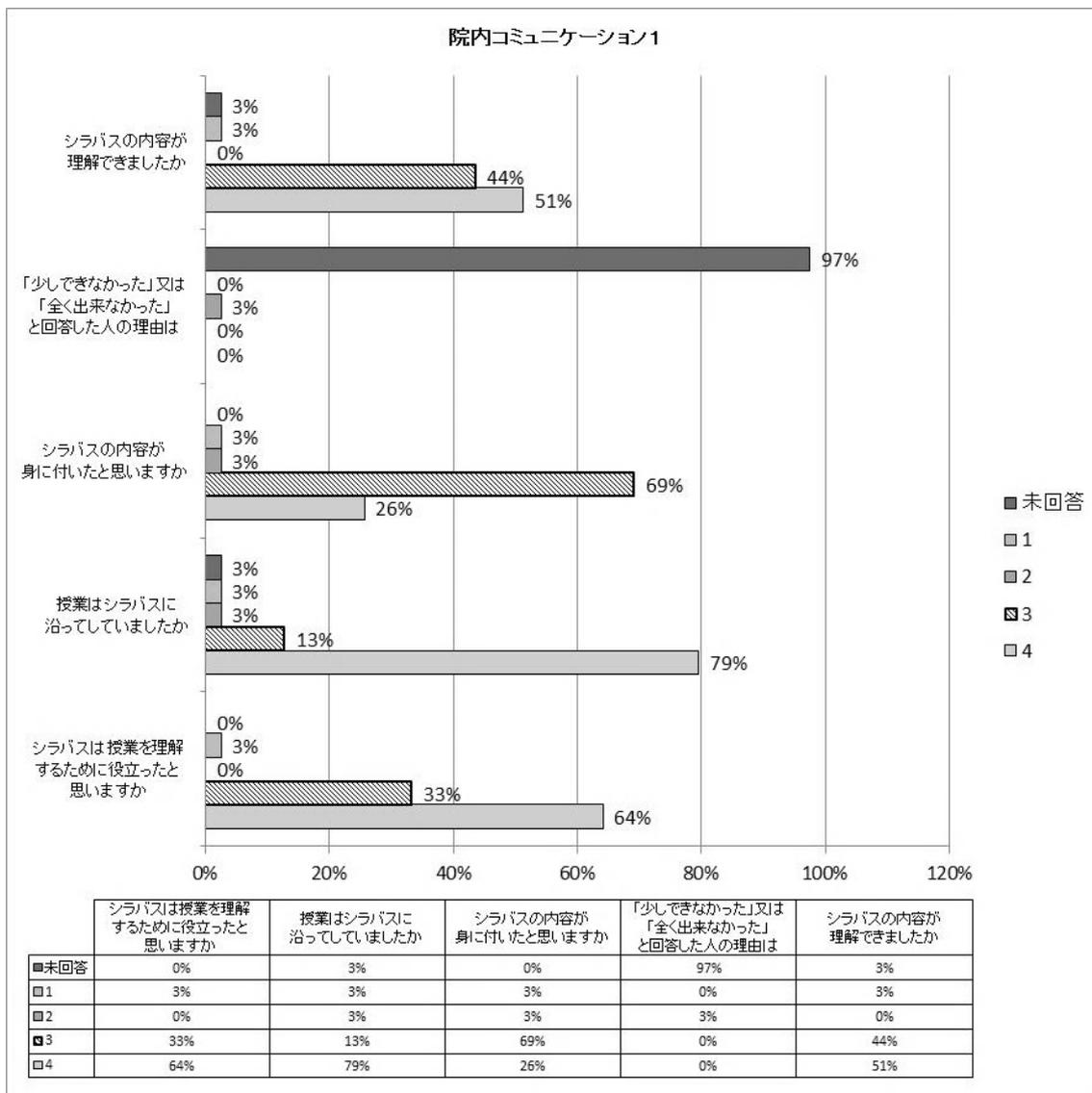


「教員は授業の準備は十分に出来ていましたか」から「(授業は) 系統的に整理されていると感じましたか」までの設問では、授業を実施した講師に対しての評価を行った結果、どの項目に対しても良好であったため、講師の授業に臨む姿勢は高い評価ができると思われる。しかし、「出問を促すようにしましたか」と「理解度や反応を考慮していると感じましたか」の設問の最多回答が「4」になっていない点には留意する必要があるかもしれない。



「あなた自身の授業に役立つと思えましたか」の設問は、今回の受講対象者が動物看護師であったため、未回答が15%あったが、「あなたの興味を満たしましたか」は100%、「他教科の受講をさらにしたいと思えますか」の設問にも、98%の受講者が「4」又は「3」の回答をしている。よって、「学び直し」に興味を持っている動物看護師が一定数存在していると判断できる。

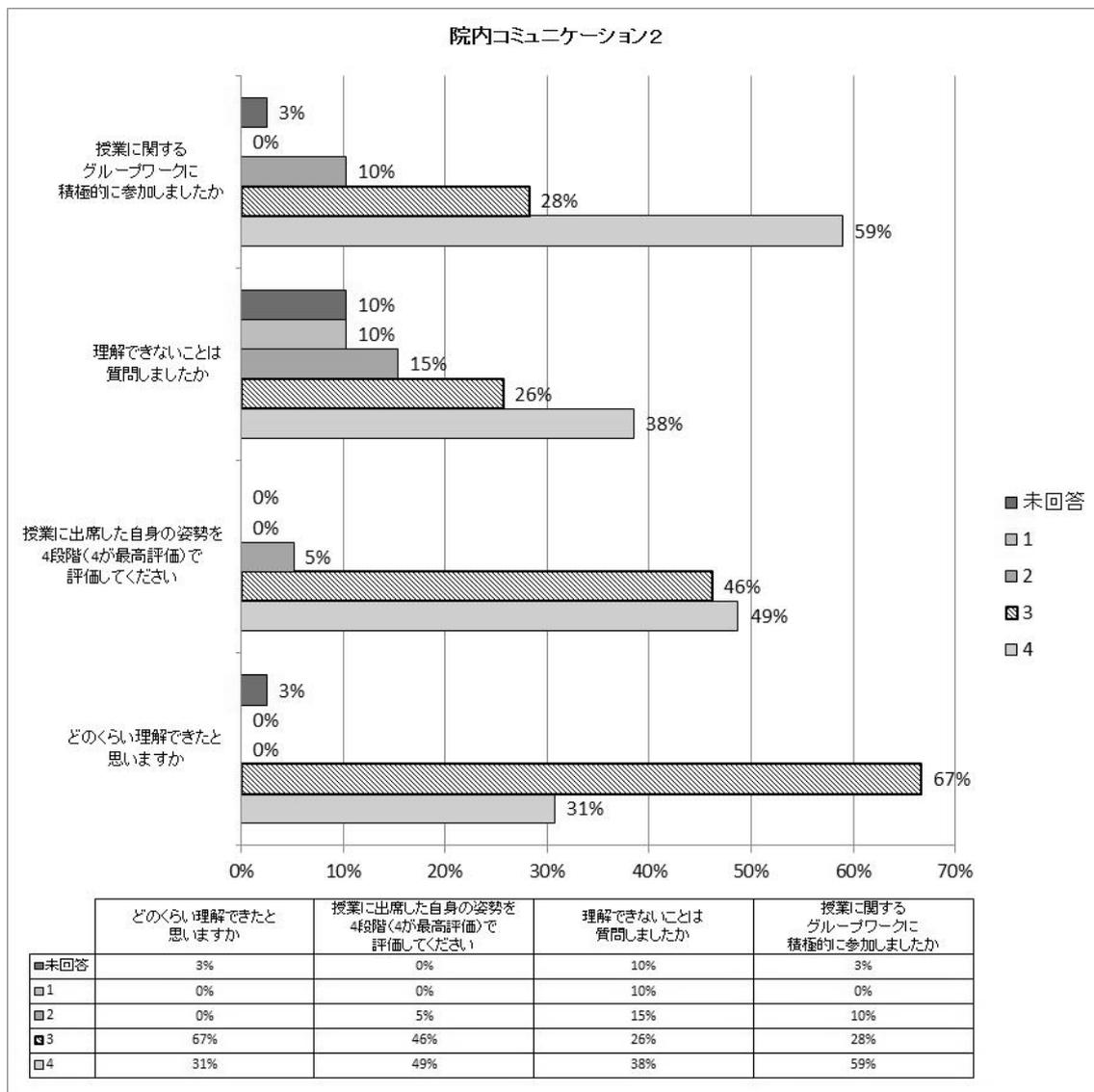
院内コミュニケーション（動物看護師対象）※各設問の回答項目は全て選択肢一覧(P142)を参照



アンケート設問 1～4 のシラバスについて、「シラバスの内容は理解できましたか」

「シラバスの内容が身に付いたと思いますか」の設問に対し、90%以上が「4」又は「3」と回答していた。シラバスの内容は受講者にとってわかりやすいものになっていたと判断する。

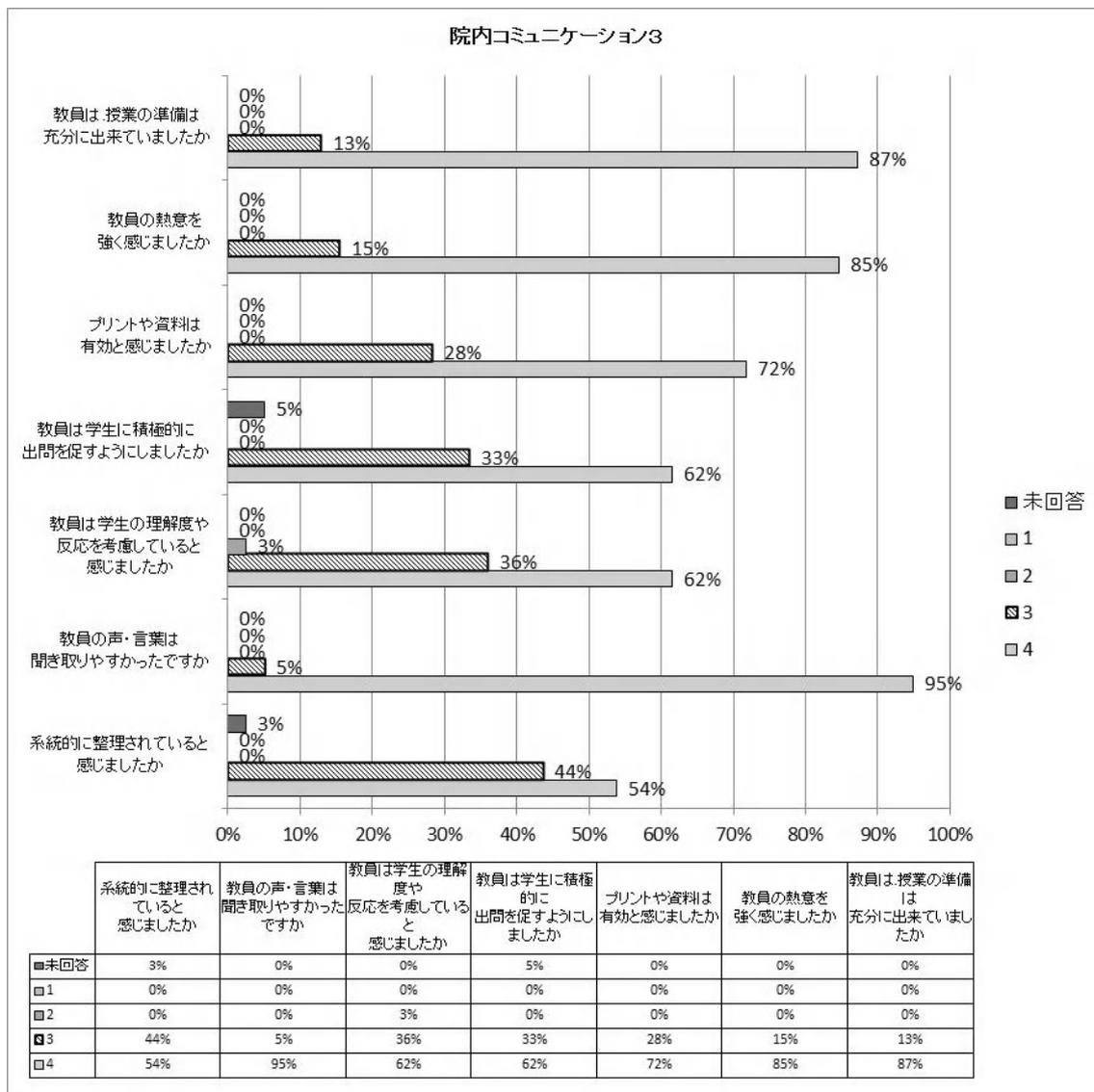
また、「授業はシラバスに沿っていましたか」の設問には約 90%が「4」又は「3」と回答し、「シラバスが授業を理解するために役立った」との回答が、「3」又は「4」と回答した受講者が 97%に上るため、シラバスに沿って授業を行うことで、受講者の理解を高めることができると評価した。



授業に参加する姿勢として、「グループワークに積極的に参加しましたか」には約8割の受講者が積極的に参加できていたと回答し、「自身の姿勢の評価」も9割以上が高評価をつけている。よって授業は受講者にとって演習などに積極的に参加できる雰囲気を作り出せていたと評価する。

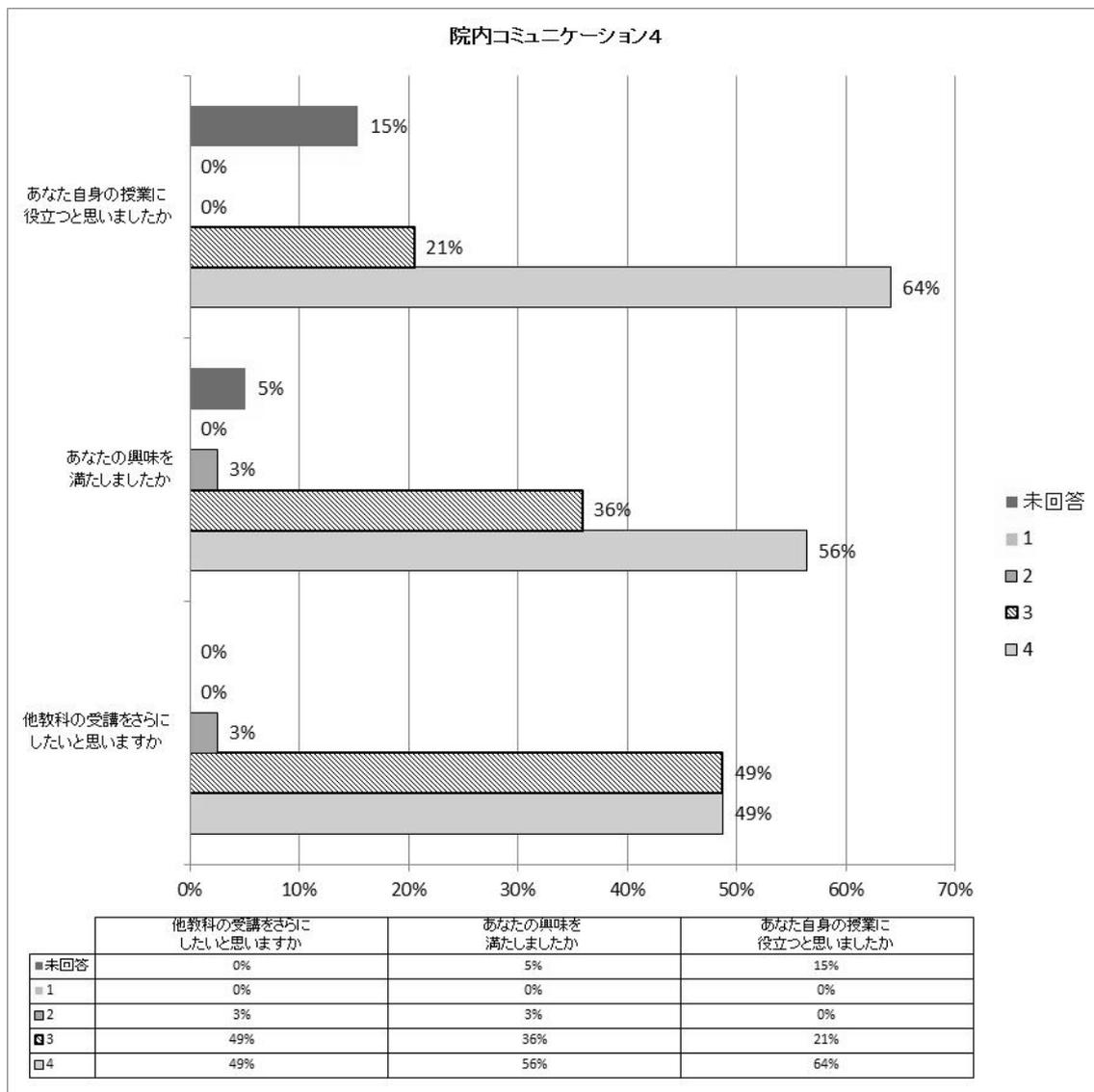
「どのくらい理解できたか」の設問には、「できなかった」と回答した受講者はいなかったが、「質問しましたか」の設問では「少しできなかった」「全くできなかった」との回答が2割あるため、一定程度、受講者への質問の促しについては出来ていると判断するが、受講者のパーソナリティにも配慮し、質問の方法などを検討・改善する必要があるかもしれないと推察する。

院内コミュニケーション（動物看護師対象）※各設問の回答項目は全て選択肢一覧(P142)を参照

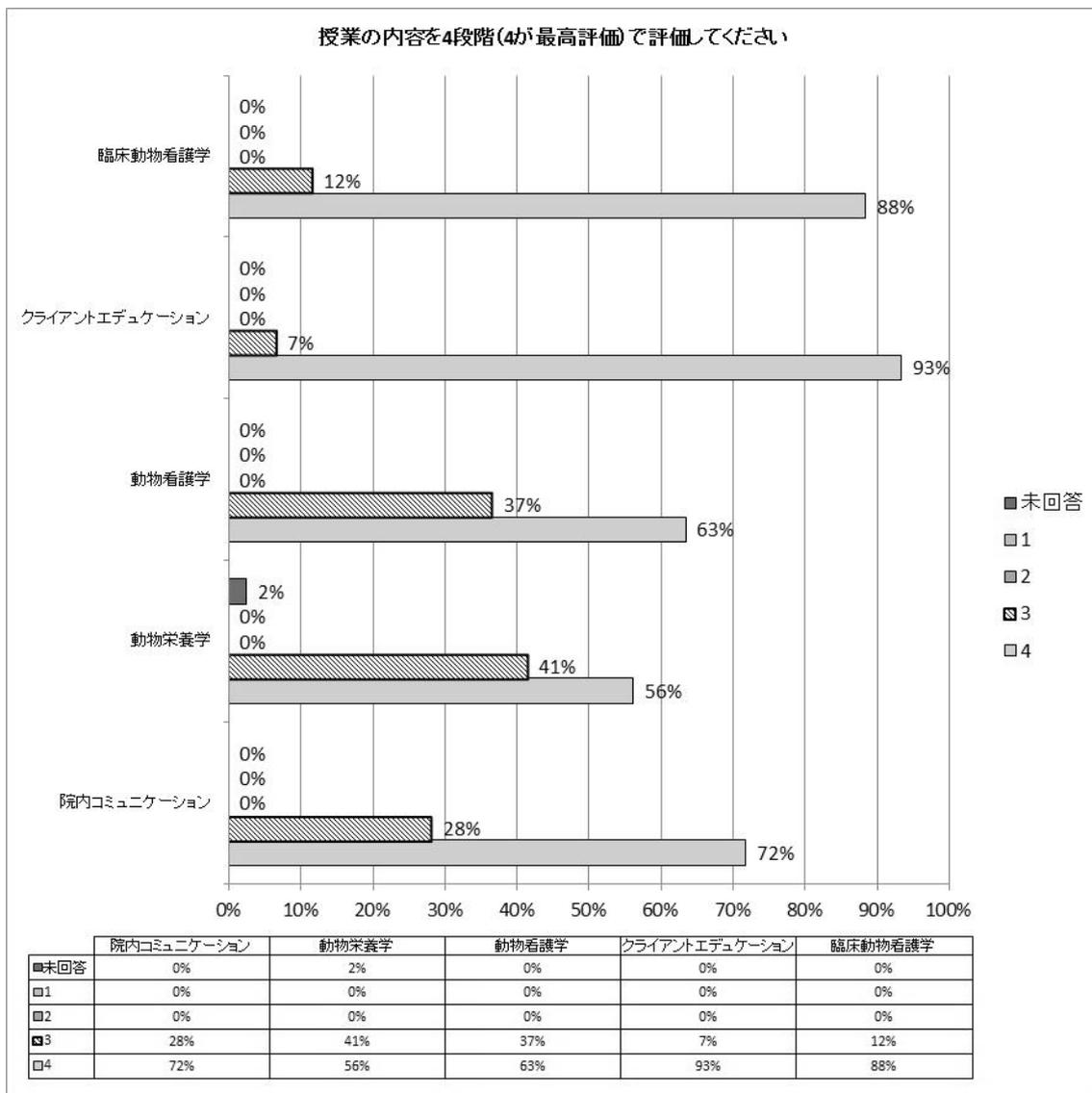


「教員は授業の準備は十分に出来ていましたか」から「(授業は) 系統的に整理されていると感じましたか」までの設問では、授業を実施した講師に対しての評価を行った結果、どの項目に対しても良好であったため、講師の授業に臨む姿勢は高い評価ができると思われる。

院内コミュニケーション（動物看護師対象）※各設問の回答項目は全て選択肢一覧(P142)を参照



「あなた自身の授業に役立つと思えましたか」の設問は、今回の受講対象者が動物看護師であったため、未回答が15%あったが、「あなたの興味を満たしましたか」と「他教科の受講をさらにしたいと思えますか」の設問には、両方とも90%超える受講者が「4」又は「3」の回答をしている。よって、「学び直し」に興味を持っている動物看護師が一定数存在していると判断できる。



受講者による授業の内容評価は、すべての科目において「4」が最多回答になっており、一部「未回答」の回答を除けば、残りも「3」の回答となっており、全体的に見て、受講者の授業に対する満足度は、高かったと判断できる。

5. 評価者の意見

次ページ以降に、実証講座に対しての評価者の意見を掲載する。

評価は2名で行い、以下の観点から授業を観察し、意見等を述べる形で実施した。

1. コマ開始時の概要説明又は前回の復習、次回の予習提示法は適切であったか。
2. この科目の学習目標及び教授内容は適切であったか。
3. この科目で意図している物事の捉え方・考え方について教授できたか。
4. 全体を通して教授方法は適切であったか。
5. 科目の理解を助けるような教材・資源を活用していたか。
6. 配布された資料と教授内容は一貫性があったか。
7. 確認テストは科目内容に対して適切であったか。
8. この科目の受講者と講師とのコミュニケーションは適切であったか。

(1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象） 6時間

講師：国際動物専門学校 山下真理子

①東京会場 実施日：平成26年9月6日

評価者：日本大学 名誉教授 酒井健夫

大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長 石橋妙子

- ・ 授業展開に余裕があり、適切な授業と判断した。当コマの授業では難しいと思うが、受講者に質疑応答を試みても。
- ・ 導入として講師と受講生のコミュニケーションが十分とれており、講師への親しみから授業への関心が高まった。コマの目的・内容が十分伝わった。
- ・ 授業展開は授業を進める上で重要であるとの認識で、多くの教材を準備されたこと、またグループ検討を導入したことは高く評価できる。しかし、展開が早すぎるのではないか。2コマに分けた方が受講者は理解できるのでは。
- ・ 教員としての基本的な心構えが良く分かった。専門教育では科目間で共通する知識・技術がある為、関連性を授業導入時に伝えても良いと思った。
- ・ グループ検討並びに発表形式を用いた授業は、自律性・まとめる力・コミュニケーション力を育成する上で高く評価できる。受講者が教員であり、理解度は高いと思われるが、内容が多すぎたのではないか。また「One Health」の概念（人・動物・環境の健康）を取り入れたらいかがか。
- ・ 4～5名/グループは話しやすい人数だった。チーム名を付ける事はグループ内に仲間意識を持たせるためにも有効であった。人の看護（教育）と動物看護（教育）の比較は大切だと思う。是非自身に取り入れたい。
- ・ 教育方法論についてのグループ発表は、受講者の意見が反映されていて評価できる。動物看護学・概論については拡張の内容のため、ポイントの絞り込みは難しいのでは。線引きを明確に。
- ・ 観察力を養うためのツールが盛り込まれており分かりやすかった。一般的な「気づき」から専門的な「気づき」に導く流れになっていた。
- ・ 動物看護概論3～6は、いずれも適切な授業と判断されるが、範囲が多いため視点が漫然となるのでは。実例や事例を絞り込んでもよいのでは。
- ・ 専門性を高める導入として、職業人としての心構え盛り込まれていた。難しい言葉を使いすぎない配慮がなされていた。

- ・ 疼痛管理・看護の重要性について実例を用いての授業は受講者が理解でき、高く評価される。また授業全体のとりまとめも適切であった。
- ・ 事例が分かりやすく、臨床を知らない学生でも雰囲気伝わる様、視覚に訴える教材を作られていた。

②札幌会場 実施日：平成26年10月18日

評価者：吉田学園動物看護専門学校 副校長 海野尾英樹

エス・ワン動物専門学校 校長 武田美千子

- ・ 教員向けであることが適切に伝わってくる内容であった。講師の経験談などを通して、わかりやすく説明されていた。科目に対して興味を持つ導入法は適切だと思った。とても聞きやすい（声の大きさ・メリハリ）
- ・ 自分の体験を入れることにより、受講者との距離を縮めることができていた。ご自分の経験や体験等を入れることにより、受講者の興味をひき、時間を感じさせない工夫がされていた。聞きやすい声量、スピード、話し方である。
- ・ 導入～展開とてもわかりやすく説明がされていた。例の出し方がとてもわかりやすい。話のつながり方がとても適切だと思う。看護学科の教員だけではなく、すべての教員に聞かせたい内容の授業だった。
- ・ 講師からの説明が中心であったが、一方通行という感覚はなかった。「学習目標の明確化」において、学生に伝えるということをあらためて考え直す機会となった。
- ・ わかりやすく説明されていました。歴史の深い人間看護論を動物看護論に結びつけている所が、考え方としてとても理解しやすかった。考えた事の無い局面から事実を見つめ直す事が出来た。
- ・ 理解できる内容であり、受講者との距離も近い。普段深く考えていなかったことや、考えてもみなかったことを考えさせられる内容が多く、自分でももっと考えてみたいことが数多くあった。人間の看護⇔動物看護。資料の全てにページ数が入っていた方が良かった。
- ・ 倫理綱領の大切さ、位置づけが理解できた。結び付けていくことが大切。看護過程と倫理綱領を理解し、意識をしっかりと定着させていくことの大切さが伝わった。

- ・「看護過程」についての基本的な内容が理解できた。教授内容についても具体的な話を交えながら、無駄のないものであった。
- ・ コミュニケーション能力とコンプライアンスの向上へと話がつながり、理解がしやすかった。
- ・ 午後の授業ということもあり、軽い雑談も交えながら、受講者の集中力をとぎらせないような配慮があった。単に知識を伝えるだけではなく、何の為にその勉強をしなければならないのかを伝えることが重要であることを再認識させられた。
- ・ テキストは写真を多く取り入れていて、大変見やすいものでした。ポイント・ノート・ガイドと整理されているのもとても良いと思いました。素晴らしいテキストだと思います。最後に参加された教員からの意見も本日の授業内容と結びつく貴重なものだと思います。
- ・ 最後に受講者より今日の感想や日頃感じている事等を伺うことができ、今回の実証講座の重要性をより感じることができました。又、本日を通して、自分自身も講義の場以外でも学生に対する際に参考となることが数多くあり、有意義な一日でした。

③仙台会場 実施日：平成26年11月9日

評価者：日本獣医生命科学大学 教授 左向敏紀

専門学校アニマルインターカレッジ 教員 千葉江梨子

- ・ 改めて、教員指導が必要だと思った。教員の指導方法の改善。
- ・ 教員に対する教授法を示しており、有効有用な講義であった。
- ・ 動物看護概念とは、今後の課題でもあると感じた。（確立に向けての）
- ・ むずかしい命題についての考えさせる題材、考え方を示していた。
- ・ 道徳と倫理綱領の違いについて学生にとっては難しい。
- ・ 概論では、「倫理綱領」の重要性、観察力の重要性を強調。
- ・ 多くの写真を使用していることで、観察力の重要性を伝えることができる。

④大阪会場 実施日：平成26年11月29日

評価者：大阪府獣医師会 副会長 澤田勉

大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長 石橋妙子

- ・ 授業の導入部分に、自己紹介に時間をかけ、受講者の目線に立って授業しようとする努力されているところが良い。
- ・ グループワークや授業方法を有意義にするためのコミュニケーションを大切にされている。学生に対しても授業導入として有効と思われる。
- ・ 授業の中で「確認テスト」を取り入れることに賛同する。事前に短時間の復習（自習）時間を与えてから、「確認テスト」をするとさらに効果が上がると思う。
- ・ 教員として授業にのぞむ際の基本的事項を話された。
- ・ 受講者の中でチームをつくり、それぞれのかかえる問題点を検討させる授業は面白かった。
- ・ 学生が授業に取り組みやすいように教員が行うべき工夫が良く分かった。
- ・ グループワークから動物看護学を学ぶにあたっての導入部分を教員として確認することができる内容であった。
- ・ 動物看護について多くの事例を用いて詳細に解説されたので受講者にとって良い勉強になったと思う。動物看護の意味するところが受講者に理解されたと思う。
- ・ 動物看護師と獣医師のアプローチの違いは専門職性を高めるためにもあらゆる科目で取り入れるべきである。
- ・ 最後に質問コーナーがあったが、各コマ終了後にも質問コーナーを設けることや、事前に授業資料の配布があれば、理解を深める上で良いと思われた。
- ・ 本科目の冒頭部分は基礎看護学と重複する部分ではあるが、臨床への応用のためにはぜひ振り返る必要があると思われる。

(2) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象） 6時間

講師：大阪ペイ動物看護専門学校 石橋妙子

①高松会場 実施日：平成26年10月18日

評価者：専門学校穴吹動物看護カレッジ 教務部長 荒岡杉

大阪ペイ動物看護専門学校 教員 栗栖奈津美

- ・ 全般的な教員が授業をするにあたってどのような方法が最も効率よく学生に伝わるのかその方法内容を統一することでブレの無い教授ができる点でコマシラバスが非常に有効かつ必要である事が良くわかりました。特に授業の中で話すとえ話等、学生の聞く関心度にメリハリがついてよかったですと思います。
- ・ 雰囲気づくりの重要性を大いに理解できた。
- ・ 意見交換により教員の指導方法などに有効になる物があると感じた。

②大阪会場 実施日：平成26年11月1日

評価者：専門学校穴吹動物看護カレッジ 教務部長 荒岡杉

大阪ペイ動物看護専門学校 教員 栗栖奈津美

- ・ 声の大きさ、間の取り方がよかったです。PP、資料に沿った話の展開がスムーズでとても理解しやすい内容でした。本日の導入としてとても効果的な展開だったと思います。
- ・ コマシラバス、授業シート、確認テスト等の使用目的と予想される効果が明確に説明されていて理解しやすかったです。コマシラバスによってブレない授業ができることがよくわかりました。
- ・ コアカリキュラムの捉え方がよくわかり、それに続いて授業教材、授業についての捉え方が詳しくわかりやすく授業されていました。教材別のPPも写真でわかりやすくよかったです。現物があればより興味深いと思いました。
- ・ 参加者の方が授業のノウハウ（進行）に興味を持っていることがよく現れていました。昼明けの授業で切替がしやすい導入だと感じました。
- ・ クライアントエデュケーションの導入授業としてクライアントエデュケーションの必要性、意義を詳しく講義され、よくわかりました。動物看護師にとって大切な部分の導入なので丁寧でわかりやすい授業でした。

- ・ 一方的な教授ではなくまだ何の知識も入っていない学生から意見を聞くことも良い教材になると感じた。
- ・ フィラリアを例にしても CE についての授業でとてもわかりやすかったです。フィラリアの説明をした上での CE の方法について詳しく授業されており、理解しやすかった。
- ・ 教員向けに研修ということで最後に行われたディスカッションがそれぞれの意見をもちよりよかったです。長時間の授業お疲れ様でした。とてもレベルの高い授業でした。

(3) 動物看護学（動物看護師対象） 15 時間

講師：国際動物専門学校 山下真理子

第1回 平成26年10月25日 5時間 参加者 15名

評価者：専門学校アニマルインターカレッジ 教員 千葉江梨子

大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長 石橋妙子

- ・ 現職向けの講座であるため、本事業の背景や実施科目の目的を詳細に伝えて下さった。
- ・ 写真を見て、学生に問うことで自分の考え看護師にとって大切なこと（重要ポイント）が分かりやすく伝わってきました。
- ・ 科目のテーマでもある「動物看護師としてどうあるべきか」の導入として学生の感性に訴える内容であった。現職にも再認識していただきたい内容である。
- ・ 専門職として意識づける職業倫理をからめ動物看護の目的をわかりやすくスライドを用いて説明していただいた。
- ・ 獣医師と看護師の違いを視点の違いからわかりやすく伝えて下さった。
- ・ 学習目標、重要ポイントがとても明確で今後の授業に活かしていきたいと思います。
- ・ 看護を行うための看護過程の導入から次のコマ（次回実証講座内容）の必要性について説明していただいた。

第2回 平成26年11月1日 5時間 参加者 19名

評価者：日本大学 名誉教授 酒井健夫

日本獣医生命科学大学 教授 左向敏紀

- ・ 受講生は18名。本教科目およびコマの導入・教育としては、事例や体験を用いて適切であった。可能であれば事前に教材等を配付し、予習方式を用いることを考えたらいかがか。
- ・ グループワークはこの科目にはたいへん良いと思う。20名で約30分使った。時間配分をどうするか。
- ・ 動物看護の目的、課題（求められている）及び対象について、4グループ毎のディスカッションと発表は、受講生に考える力と表現する力が明らかになり、その後授業を進める上で有効である。なお、受講生の発表は高く評価される。
- ・ 動物看護学の中心である看護過程について、またアセスメントやSOAPモデルについての解説は適切であり、受講生の最も身近な課題であり、興味深く受講していた。机上の動物看護学に比べて内容があると判断された。本授業に基づきテキストの作成が望まれた。
- ・ ネコ慢性腎不全症例を用いて動物看護事例の解説、またその事例を用いた倫理綱領2009は、理解しやすく適切と判断した。
- ・ 動物看護技術の実践について事例を挙げての解説は適切であったが、少し授業内容が早すぎる気がする。ただ事例の1つに用いた肥満細胞腫症例は少し難しいのでは。授業評価の実施は良かったと判断される。

第3回 平成26年11月22日 5時間 参加者 12名

評価者：日本大学 名誉教授 酒井建夫

日本獣医生命科学大学 教授 左向敏紀

- ・ 導入授業は受講生の期待を十分に反映させなければならず、困難を伴うので、授業計画の検討が必要と思われる。動物看護師の役割に、獣医師法等の法律上との関連、又職業学倫理の重要性を導入教育で説明されたらいかがか。
- ・ 本教科の主体である看護技術の解説は適切であった。倫理綱領については時間をかけて講義を進めてはいかがか。全文について各具体例を挙げてテキストを

準備されていて、とかく教条主義的になりがちな講義に、適切なテキストを準備されたことは評価される。

- ・ 看護記録の目的・意義・留意点について具体例を挙げて解説し、高齢犬および皮膚疾患犬を実例とした情報の収集を整理、把握を進展させる授業は適切であった。実例を挙げて受講生に考えさせ、次いでグループ検討、さらに発表させることは受講生に自律性を促す上で効率的であった。
- ・ 感染症の事例を用いて、看護目標の設定、観察項目の列記、看護計画の立案などの看護計画の重要性は、看護過程の展開で受講生は理解できたと判断された。

(4) 動物栄養学（動物看護師対象） 15 時間

講師：日本獣医生命科学大学 左向敏紀

第1回 平成26年10月18日 5時間 参加者 14名

評価者：専門学校アニマルインターカレッジ 教員 千葉江梨子

大阪ペピイ動物看護専門学校 教員 荻谷直子

- ・ 授業の最後に今日の思えておくべきところを振り返ったことがよかった。
- ・ 実験をすることで自分の目で見て結果がわかるので、とても興味をもって学ばせていただき今後の授業に活かしていきたいと思いました。学生の意欲の高まりにつながると感じました。
- ・ 講義途中に問いかけることで（クイズ形式等）受け身だけでなく、自分で考えながら聞く授業が印象的で今後活かしていきたいと思いました。

第2回 平成26年11月8日 5時間 参加者 15名

評価者：専門学校アニマルインターカレッジ 教員 千葉江梨子

国際動物専門学校 教頭 山下真理子

- ・ 現役で働く動物看護師に聞かれる質問事項として多いであろう内容を中心に、興味深く解説があった。
- ・ アミノ酸含有の違いについてももう少し学びたいと思い、実験的なことも面白いと思いました。

- ・ ビタミンの欠乏・過剰について、とてもわかりやすく興味がわく内容であった。日常の生活中で思い当たる事がある事例には、特に興味がわいた。関心を持って聴講できる。
- ・ 現役動物看護師にとって、日常の指導（飼い主へ）の話題として活用できるものがあつた。
- ・ クイズ形式で問いかけることで、学生自身も楽しく学ぶことができると思います。
- ・ 話題作りに活用できる例が多く、関心を持って聴講できた。臨床と結び付く内容が多く、現役者に有効であると判断した。
- ・ 身近な話題と、大学学生からの質問の中から共通事項を紹介しながら説明があり、とても納得できるものであつた。疾病と栄養素とは今更ながらに密接な関係があるということがわかつた。

第3回 平成26年11月29日 5時間 参加者 13名

評価者：国際動物専門学校 講師 川鍋美紀子

大阪ペピイ動物看護専門学校 教員 苅谷直子

- ・ 前回の受講者からの質問の回答・解説をして頂いた事は、授業に参加している感があり良いと思ひました。
- ・ 質問（前回の）の回答が興味深かつた。看護師の立場からの示唆も重要だと思つた。
- ・ 腸肝循環などの形態の要旨が理解しやすく、次段階の栄養基礎としては必須と思われまして。
- ・ 糖尿病の合併症などは栄養学的治療の範囲を深めていくところなので重要な教授であつた。
- ・ 犬と猫、Ⅰ型、Ⅱ型糖尿病の各対処方法をしっかりと理解できてはじめて食事療法と原因療法を熟知する。学生には理想フードの使用方法を完知してほしいと思ふ。
- ・ 想定外の食事について：高繊維食、高蛋白質の使用注意、メリット、デメリットを熟知することが必須。（低血糖を起こさない管理など）

(3) 院内コミュニケーション（動物看護師対象） 15 時間

講師：大阪ペピイ動物看護専門学校 石橋妙子

第1回 平成26年11月8日 5時間 参加者 13名

評価者：大阪ペピイ動物看護専門学校 校長 澄田新

大阪ペピイ動物看護専門学校 学術顧問 深田恒夫

- ・ 「高位平準化」の意味（内容）をもうすこしくわしく説明された方がいいのではないのでしょうか。
- ・ 3～6のスライドについては、ポンチ絵（簡単図）にすれば理解しやすい。今後文科省への書類もポンチ絵を書くと読み手（審査員）も理解しやすい。
- ・ 具体的内容がわかりやすい説明で良かったです。「8.接客スキルの4原則」の「立ち振る舞い」の項目に、クレーマーへの対応があったらと思います。
- ・ 2コマ分を1コマで実施なので、項目が多く理解しにくい。
- ・ グループワークの時間、もうすこし長くとってもいいのでは。
- ・ 実習を昼食後にもってきたことは正解（受講者が眠い時間に体を動かすことは眠気をさそわない）
- ・ 全体的に適切な教授方法でした。（声もしっかり発声され、受講者一人一人をしっかりと見られながらの授業でした）
- ・ 講義の間に質問を引き出す様に工夫をすれば良いと思う。

第2回 平成26年12月6日 5時間 参加者 12名

評価者：大阪府獣医師会 副会長 澤田勉

大阪ペピイ動物看護専門学校 教員 青木理子

- ・ 前回の振り返りを例え話を交え、初めての参加者にも充分理解し、今回の内容に入っていけるようにできている。
- ・ 初めて参観する者にとって、本日の授業を意図するものを理解させる工夫がよくされていた。導入部分に前回の振り返りから始めたところが大変良い。
- ・ 動物病院におけるビジネスマナーには、どのような場面がそうなのかをイメージしやすい配慮があり、次の演習をより円滑にすすめていける内容であった。

- ・ 「ビジネスマナーの必要性」を多くの例を使い理解させる工夫が上手くされていた。
- ・ 名刺、名刺入れの作成とグループワーク*1~*11の穴うめは、もう少し、「あと何分くらいで」や「何分まで時間をとります」などがあれば、よりやりやすい（受講者は）と思う。
- ・ 実際の動きを交えながらの説明が、理解しやすかったと思う。演習には各チームいろいろなシチュエーションを想定し、相談しながら行いよかった（が、現職の方ばかりだったので、可能な演習だったと感じる）
- ・ グループワークが盛り上がるように授業を工夫しているところが大変良かった。
- ・ 振り返りを全員で行う際、（全員）参加者が発言しやすいように雰囲気作りを工夫していた。（だんだんと積極的に発言する人が増えた）
- ・ 本日は獣医師の立場で参観させていただきましたが、「ビジネスマナーの大切さ」は動物看護師のみならず、接客業務をする病院開業獣医師にとっても必要と感じた。

第3回 平成26年12月27日 5時間 参加者 14名

評価者：国際動物専門学校 教頭 山下真理子

専門学校穴吹動物看護カレッジ 教務部長 荒岡杉

- ・ 講師の姿勢そのものが、セミナー内容を表すものだと思う。教授する内容をより良く意識された姿勢だと思った。
- ・ 1コマ目は導入部でもあり、1日の授業の始まりを、前回の振り返りからゆっくり本日の授業に導入していくことができおり、参考になる授業でした。
- ・ 一つ一つの動作について具体的行動が示されたことが良かった。受講対象者が、動物看護師として体験している事が多く、自分の物として理解できていると思う。
- ・ 前回の振り返り～演習の間に、詳しく立ち振る舞い、コミュニケーションの取り方等をまとめて授業し、次回の演習へと運ぶ方法がとても良かった。
- ・ 受付の場を想定した設定があり良かった。
- ・ 演習はとても良かったです。現役看護師が受講生という事で、リアルな演習となり、レベルも高かったと思います。

- 現役 VN さん達の自分達に経験のあるシチュエーションが設定されているため、演習に入る時にもスムーズであった。全員が恥ずかしがることなく演技ができていた。演者を観衆が一丸となって良い雰囲気で行っていた。
- コミュニケーションについての授業であるが、ペットロスや飼主対応まで話が広がってよかったと思います。
- 全員から疑問に思っている事、こんな時はどうするかなどを聞き出して、回答を持っている人から意見を徴収した。
- 本日の授業を通して、飼い主とのコミュニケーション、院内でのコミュニケーションを学ぶことができました。実習を通してのディスカッションも有意義で良かったと思います。

6. カリキュラムの評価

今回、実証講座が行われた科目についてのカリキュラム評価を実施した。評価は、アンケート結果、アンケート分析、評価者意見をもとに、実施委員会によって行われた。

(1) 臨床動物看護学（動物看護教員対象）

全体を通して、「授業の目的」が受講者に周知徹底されており、授業を行う上で、シラバスは非常に有用なものであると判断できる。

また、昨年度成果テキストを活用し、教科自体を教授するのではなく、教員に対して授業展開方法を教授する授業となり、教員としての基本的な心構えから、疼痛管理・看護の重要性についての実例を用いた講義など、適切な内容が行われており、動物看護教員としてこのような学びの場は非常に有意義なものになると判断できる。

グループワークの展開方法や、受講者への質問の促し方など、今後の課題となることも見受けられたが、アンケート結果などから推察すると、受講者の授業に対する満足度は非常に高いと判断できる。

(2) クライアントエデュケーション（動物看護教員対象）

アンケート結果より、授業がシラバスに沿って適切に行われていたことが分かり、動物看護教員を対象にした授業であるため、シラバスの有効性は興味をもって高く評価されたと判断できる。

動物看護師育成のためには、人との対面能力を伸ばすことは必須の事である、という認識のもとに、動物看護教員が力を入れるところでもあり、今回の当教科における授業の中で、グループワークや実際のプレーを通して教員自身がその方法を体験し、深く理解できたことは大変有意義であったと判断できる。

受講者の授業に対する満足度が非常に高いことから、動物看護教員としてこのような学びの場は非常に有意義なものになると判断できる。

(3) 動物看護学（動物看護師対象）

現役の動物看護師は、違う観点からの「動物看護学」を習ってきていたのではないかとこの視点に立った授業展開を行い、新しい視点に立った教科書を使用し、その教材を理解しやすくするために補助教材を使用することは受講者にとって大変有意義な事であったと判断できる。

アンケート結果より、授業に対する受講者の理解度が高かったことが分かり、「他の教科の受講をさらにしたいと思いませんか」の設問に90%以上を超える受講者が興味を示していることから、他業界から転職者、他学科を卒業し動物看護師として就業している者にとっても「学び直し」の機会として、大変有意義な講座であったと判断できる。

(4) 動物栄養学（動物看護師対象）

アンケート結果より、授業に対する受講者の理解度が高水準であったことが分かる。動物の全ての生活段階において動物栄養学の知識を持っていることは必須であり、常に進化している分野であるため、現役動物看護師にとって興味のある分野であったと考えられる。

また、新テキストを使用し、それを強化補助するためのテキストを使用しての講義は、大変有意義であり、現役動物看護師にとって日常の（飼い主への）指導に活用できる話が多かったことも、今後の「学び直し」に対し興味を持つきっかけにもなったのではないかと判断した。

(5) 院内コミュニケーション（動物看護師対象）

「グループワークに積極的に参加した」受講者や、「自身の姿勢の評価」を高く回答した受講者が多かったことから、受講者が参加しやすい雰囲気作りができ、積極性を促すことができていたと判断できる。

シラバスに沿って着実に実施される授業は、アンケート結果からも、授業に対する受講者の理解度が高かったことが分かり、教科書上だけの知識として修得する教科ではなく、実際に臨場感を持って体験することで、受講者の理解を高めることができると判断できる。

以上の結果より、

コマシラバスは授業の目標や受講者の学びを確かにする教育効果を高めることが確認できた。同時にコマシラバスを活用して授業を行う際には、内容・用途等を十分に説明してから授業を行うことが重要だと考えられる。

また、動物看護教員にはコマシラバスを示して授業を行うということについて、受講者の立場にたって、その意義を確認することが出来たと判断できた。

そして、講座を受講した動物看護師たちは、「学び直し」の機会を有意義なものと受け止めたと判断でき、他のコアカリキュラム教科を学び直す機会を設けることも、「動物看護師の高位平準化」そして「教員の高位平準化」へ向け必要であると考えられる。

全体を通して、今回実施した実証講座においては、本事業の目的に沿った適切な授業が行われていたと判断でき、この結果は今後の動物看護教育を高める取り組みに活かしたい。